
仮面ライダーディケイド ～次元を超えた戦い～

零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーディケイド 〜次元を超えた戦い〜

【Nコード】

N6202T

【作者名】

零

【あらすじ】

突如、米花町に現れた不死身の軍団『NEVER』はAからZとまでの27個の世界最強「TSガイアメモリ」を使用し米花町のシンボル【トライアングルタワー】を占拠する事件が発生。米花町に偶然いた仮面ライダー達は事態を收拾する中で今回の事件を起こしたNEVERのリーダーと戦うことになるが力に圧倒され敗北してしまうWとアクセル！そしてトライアングルタワーにて、NEVERを相手にした史上最大の決戦が始まる！

第1話 TSガイアメモリ（前書き）

初投稿です。

よろしく願います！

第1話 TSガイアメモリ

場所は米花町にある工事現場、そこには大道 要と仮面ライダージヨーカーとアクセルがいた

大道 要「お前達の時代は終わり、この世界はNEVERが手に入る」

要は服の内からTSガイアメモリとロストドライバーを取り出しロストドライバーを腰に装着する

ジヨーカー「お前・・・仮面ライダーか？」

大道 要「フン、変身」

インフィニティ！

要はTS メモリを使って変身した

インフィニティ「そう俺は仮面ライダーインフィニティ」

アクセル「そのメモリは一体？」

インフィニティ「これはTSガイアメモリだ」

ジヨーカー「TSガイアメモリ？」

インフィニティはTSガイアメモリについて話し始める

インフィニティ「このメモリは俺達、死者にしか使用不可能なメモリ」

アクセル「俺達？」

その時、アクセルは気付いた

「金城北斗」アクセル、勝負しましょう

ユートピア！

北斗はTSUメモリを使ってドーパントに変身

アクセル「TS版のユートピアだと！」

Uドーパント「来なさいアクセル」

アクセルはユートピア・ドーパントに立ち向かう

ジョーカー「死者にしか使用不可能なメモリって一体どういう事だ」
インフィニティ「その内わかるさ・・・それに、出てこいガキ」

ジョーカーは首を傾げた

ジョーカー「ガキ？」

岩陰から小さい影が現れる

江戸川コナン「やっぱり気付いてたんだ、NEVERのリーダーさん」

インフィニティ「君、一体何しに来たのかな？」

江戸川コナン「俺はアンタを倒しに来たんだぜ」

インフィニティはコナンに近づく

ジョーカー「おい、その子に近づ・・・ん！」

ジョーカーは、隣にいた人物に気付く

死黒「アンタの相手は俺Death」

デス！

死黒はTSDメモリを使ってドーパントに変身

Dドーパント「来て良いDeathよ、ダブルの左側」

ジョーカーはデス・ドーパントに立ち向かう

インフィニティ「俺を倒すだって！？変身も出来ない人間が？諦めな・・・仮面ライダーになれない君が俺を倒す事は不可能だ」

江戸川コナン「どうかな」

コナンは鞆の中からガイアメモリとロストドライバーを取り出しロストドライバーを腰に装着する

インフィニティ「何！まさか・・・」

江戸川コナン「実は俺も仮面ライダーなんだ」

インフィニティは驚いていた

第1話 TSガイアメモリ（後書き）

〈キャラクター説明〉

仮面ライダージョーカー：左翔太郎がジョーカーメモリの力で変身する仮面ライダー。高い運動能力と優れた格闘技を活かした戦闘を得意とする。必殺技はジョーカーキック

仮面ライダーアクセル：照井竜がアクセルメモリの力で変身する仮面ライダー。基本カラーは赤。モーターはオンロードバイクで、フルフェイス・ヘルメットのようなマスクと、背部と脚部に装着された車輪が特徴。シールドの奥に隠された青い円状の複眼は変身直後やマキシマムドライブ発動時に発光する。武器はエンジンブレード。必殺技はアクセルグランツァー。

大道だいどう 要かなめ：「NEVER」の隊長。克己同様ナイフによる戦闘を得意とする。克己というのは旧NEVERの隊長で要の弟。黒の組織からTSメモリを強奪し、仮面ライダーインフィニティに変身、ドパーント軍団を率いて米花町へ侵攻する。さらに彼は既に自殺しており、科学者であった母によって蘇生させられる。

仮面ライダーインフィニティ：大道要がTSメモリで変身する悪の仮面ライダー。基本カラーは虹色。胸・右腕・左腿には合計25のマキシマムスロットが設けられた「コンバットベルト」が装着されているのが特徴。武器はソード。必殺技はインフィニティブレイド。

金城きんじょう 北斗ほくと：「NEVER」の副隊長。

コートピア・ドーパント：金城北斗がTSUメモリで変身するドーパント。「理想郷の杖」と呼ばれる杖の動きに合わせて重力を自在に操る。対象を浮遊・落下・粉碎させ、近距離攻撃や飛び道具も途中で停止・歪曲させ寄せ付けけない。武器は理想郷の杖。

死黒^{しぐろ}：「NEVER」の死神。口癖は語尾に「Death」をつける。

デス・ドーパント：死黒がTSDメモリで変身するドーパント。死者を蘇らせることができる。武器は大鎌。

（用語説明）

米花町^{べいかちょう}：日本国の東京都のどこかにある、巨大な町の名前である。
今作品の舞台。

NEVER^{ネバー}：世界各国で傭兵として破壊活動を行っている凶悪な国際的な傭兵集団。「NEVER」は「NECRO-OVER」＝「死を超えるもの」の略称で、メンバーはその名の示す通り化学薬品とクローニングを駆使した「死亡確定固体復環術」によって蘇生した死人達によって構成されており、人間離れた高い身体能力と、常人ならば致命傷となり得る傷を受けようと効果がない不死身の体を持つ戦士達。加えて各々が、高度な格闘術や銃火器の扱いに長けた戦いのプロフェッショナルでもある。

ロストドライバー：ライダーがメモリを使用して変身するベルト。ダブルドライバーのプロトタイプで外見も同様だが、メモリスロットが右側にしかなく「L」の形になっている。

ドーパント：装着者^{ユーザー}が自身の肉体にガイアメモリ内の「地球の記憶」^{ドーピング}を挿入し、その記憶を宿した怪人となった者の総称。

ガイアメモリ：あらゆる「地球の記憶」を収めた、全長10cmほどのUSBメモリ型の生体感応端末。

TSガイアメモリ：日本語で「特殊ガイアメモリ」という。黒の組織がガイアメモリのテクノロジーを分析・応用し完成させた世界最強のガイアメモリ。T2ガイアメモリと同様でスロット処置を行わず人体に挿入可能であり、通常のマキシマムドライブ程度の攻撃ならドーパント状態の装着者がダメージを受けてもメモリが体外に排出されるだけでメモリブレイク出来ない仕様となっている。それとメモリはAからZとの計27本存在する。（死者にしか使用不能とされている）

TSメモリ：「無限の記憶」を宿したTSインフィニティメモリ。

TSUMメモリ：「理想の記憶」を宿したTSユートピアメモリ。

TS DMメモリ：「死の記憶」を宿したTSデスメモリ。

第2話 ツインマキシマム

江戸川コナン「実は俺も仮面ライダーなんだ・・・変身！」

トリガー！

コナンはT2Tメモリを使って変身した

ジョーカー「T2ガイアメモリ!？」

Dドーパント「よそ見しないで下さいDeathよっ!」

デス・ドーパントはジョーカーを殴ろうとする

ジョーカー「おっと！」

デス・ドーパントのパンチを避けた

インフィニティ「どうして、T2ガイアメモリを持っている？」

トリガー「落ちてきたんだよ・・・学校にね」

インフィニティ「・・・まさか他にもあるのか？」

トリガーは更に鞄から5個のメモリを取り出した

トリガー「ああ、持つてるぜ・・・C・H・J・L・Mのメモリ」

インフィニティ「ガキを甘くみるなって事か」

そして・・・インフィニティは ソードを手にとった

インフィニティ「なら最初からマキシマムで勝負だ！」

スカイマキシマムドライブ！

TSSメモリを ソードのマキシマムスロットに挿入

トリガー「俺もマキシマムで！」

ルナマキシマムドライブ！

T2Lメモリをトリガーマグナムのマキシマムスロットに挿入
メタルマキシマムドライブ！

T2Mメモリをロストドライバーのマキシマムスロットに挿入

インフィニティ「ツインマキシマムだと、ふざけるな！」

クイーンマキシマムドライブ！

T2Qメモリをロストドライバーのマキシマムスロットに挿入

インフィニティ「T2メモリを持っているのは、お前だけじゃないんだよ」

ジョーカーはデス・ドーパントと戦ってる中で……………

ジョーカー「あんなガキがツインマキシマムなんて危険すぎる！」

ジョーカーマキシマムドライブ！

Jメモリをロストドライバーのマキシマムスロットに挿入

ジョーカー「ジョーカーキック！」

ジョーカーキック： 右足に紫色のエネルギーをまとい、跳び蹴りを放つ

トリガー「メタルナバースト！」

メタルナバースト：メタルの能力で体を強化し、マグナムにルナの弾丸形状能力を使って撃つ

インフィニティ「クインスカイブレイド！」

クインスカイブレイド：体の回りにクイーンによるバリアを張り、スカイの能力で空を飛びながら ソードで切り裂く

インフィニティ&ジョーカー&トリガー「はあー！！！」

インフィニティ、ジョーカー&トリガーは同時打ちした

ジョーカー&トリガー「うわー！！！」

ジョーカーとトリガーはインフィニティの「クインスカイブレイド」に圧倒され跳ばされた

トリガー「ううううう」

インフィニティ「残念だったな・・・それとお前が持っているT2ガイアメモリは頂く」

ゾーンマキシマムドライブ！

T2Zメモリをロストドライバーのマキシマムスロットに挿入し能力でトリガーが所持しているT2C・H・J・L・M・Tメモリがインフィニティに集まる・・・そしてトリガーの変身は解けコナンに戻る

インフィニティ「これでT2ガイアメモリAtoZが揃った」

ジョーカー「うううう」

インフィニティ「まだ息があつたのか・・・そろそろ止めといつ」

エターナルマキシマムドライブ！

T2Eメモリを ソードのマキシマムスロットに挿入

ジョーカー&アクセル「うわああああ!!」

T2Eメモリの能力によりジョーカーとアクセルの変身が強制解除された

インフィニティ「どうだ、エターナルメモリの力は！」

左 翔太郎「・・・・・・・・・・」

翔太郎と照井は気絶する

インフィニティ「終わりだ、過去の仮面ライダー・・・・・・・・ん？」

コナンはインフィニティの足を掴む

江戸川コナン「ハアハア、逃がさねえ」

インフィニティ「フツ、さあ・・・最後の日を楽しみな！」

インフィニティはコナンを気絶させた

江戸川コナン「うつ・・・・・・・・」

インフィニティ「金城、このガキを病院に連れて行け」

金城北斗「分かりました・・・・・・・・でわ・・・・・・・・」

金城はコナンを連れて病院へと姿を消した

死黒「要、連中が例の場所を占拠したそうDeath」
インフィニティ「そうか・・・なら俺たちも行くぞ」

インフィニティは例の場所へと歩き出す

第2話 ツインマキシマム（後書き）

〈キャラクター説明〉

左 翔太郎：仮面ライダーWとジョーカーに変身。私立探偵で「鳴海探偵事務所」に所属しているが、運営していた鳴海荘吉が不在の今、その意思と看板を受け継ぐ。1950年代 - 1970年代調のハードボイルドに感化されており、レイモンド・チャンドラーのハードボイルド小説を愛読、ハンフリー・ボガートばりのソフト帽を愛用し、立ち振る舞いなども常にハードボイルドを心がけているが、中身はよくも悪くもお人好しの三枚目である。その為些細なことで冷静さを失ってしまいなかなかハードボイルドになりきれず、フィリップや亜樹子に「ハーフボイルド（半熟くん）」と未熟者呼ばわりされることも少なくない。しかし莊吉の下で学んだ探偵術、護身術はそれなりに優秀であり、不測の展開では機転を利かせることも多く、風都では非常に幅広い交友関係と情報網を持っていることも相まって、探偵として十分信頼に足るだけの能力は持っている。戦闘中によく左手をスナップする癖がある。

照井 竜：仮面ライダーアクセルに変身。風都警察署に新しく配属された刑事。非常に優秀であり若くして警視に就任、ドーパント関連事件の捜査を担当する「超常犯罪捜査課」（拠点は風都署の3階）を設立し、その課長となる。普段はドウカティ社製の赤いカスタムバイク「ディアブロッサ」に乗る。一警察官として優秀なだけでなく、格闘技やバイクの操縦技術にも精通している。父に警察官の雄治を持つ警察官一家で生まれ育ち、父と同じく警察官の道を歩む普通の青年だったが、「Wのメモリの持ち主」が起こした無差別殺人によって両親と妹・春子の命を奪われた過去を持っており、家族の仇に復讐をするためにシユラウドからエンジンブレードとアクセル

メモリ、そしてアクセルドライバーを授けられ、ドーパントを圧倒する力を得る。

えどがわ
江戸川 コナン：仮面ライダートリガーとスカイに変身。「黒の組織」の取引現場を目撃しによって試作段階の毒薬であるAPT-X4

869を飲まされ、その副作用により小さな子供の姿になってしまう。帝丹小学校1年B組に在籍している。阿笠博士の遠い親戚の子ということにして、現在は毛利家に居候中。

仮面ライダートリガー：江戸川コナンがT2Tメモリの力で変身する仮面ライダー。基本カラーは青。武器はW同様にトリガーマグナム。必殺技はトリガーブラスト。

〈用語説明〉

T2ガイアメモリ：シュラウドが開発したガイアメモリのテクノロジを財団Xが分析・応用し完成させた次世代型ガイアメモリ。スロット処置を行わず人体に挿入可能であり、通常のマキシマムドライブ程度の攻撃ならドーパント状態の装着者がダメージを受けてもメモリが体外に排出されるだけでメモリブレイク出来ない仕様となっている。メモリはAからZの計26本存在する。

マキシマムスロット：ダブルドライバーとロストドライバーの右側についている。これが無ければ必殺技が使えない。

マキシマムドライブ：基本的に使用中のボディメモリを特定の「マキシマムスロット」に挿入することで発動する。スロットは複数存在し、全形態共通でベルト右腰にある他、メタルシャフト・トリガ

ーマグナムにもあり、メタル・トリガー系統はそれぞれの武器のスロット、ジョーカー系統はベルトのスロットを使用する。また、それぞれのスロットはソウルメモリのマキシマムドライブを発動させることも可能。

ツインマキシマム：武器のスロット（ボディメモリ）と右腰のスロット（ソウルメモリ）を併用することで2本同時にマキシマムを発動する。

トリガーマグナム：トリガーメモリの専用武器でエネルギー銃。

ソード：ナイフ型のインフィニティ専用武器。

ジョーカーキック：右足に紫色のエネルギーをまとい、跳び蹴りを放つ。

メタルナバースト：メタルの能力で体を強化し、マグナムにルナの弾丸形状能力を使って撃つ。

クインスカイブレイド：体の回りにクイーンによるバリアを張り、スカイの能力で空を飛びながら ソードで切り裂く。

Jメモリ：「切り札の記憶」を宿した ジョーカーメモリ。

T2Cメモリ：T2版の「風の記憶」を宿した T2サイクロンメモリ。

T2Eメモリ：「永遠の記憶」を宿した T2エターナルメモリ。

T2Hメモリ：T2版の「熱き記憶」を宿した T2ヒートメモリ。

T2Jメモリ：T2版の「切り札の記憶」を宿した T2ジョーカーメモリ。

T2Lメモリ：T2版の「幻想の記憶」を宿した T2ルナメモリ。

T2Mメモリ：T2版の「闘士の記憶」を宿した T2メタルメモリ。

T2Qメモリ：「女王の記憶」を宿した T2クイーンメモリ。

T2Tメモリ：T2版の「銃撃手の記憶」を宿した T2トリガーメモリ。

T2Zメモリ：「地帯の記憶」を宿した T2ゾーンメモリ。

TSSメモリ：「天空の記憶」を宿した TSスカイメモリ。

第3話 占拠されたトライアングルタワー

ここは、米花町にある病院・・・・・・・・・・

江戸川コナン「・・・・・・・・ここは？」

コナンは意識を取り戻した

吉田歩美「目が覚めた？」

江戸川コナン「歩美ちゃん？・・・ん！」

灰原 哀「起きたのね」

灰原が病室に入ってきた

江戸川コナン「灰原か・・・・・・・・でもどうして？」

吉田歩美「金城って人が運んで来てくれたんだよ」

江戸川コナン「金城・・・・・・・・金城・・・・・・・・金城・・・・・・・・あつ
！」

その時、金城という名を聞いて思い出した

江戸川コナン「NEVERのユートピア・ドーナツ！」

灰原 哀「あなたNEVERに会ったの！」

灰原は驚いていた

江戸川コナン「ああ、そういえば気を失う前に何か言ってたな・
・・確か・・・・・・・・」

灰原 哀「最後の日を楽しみな・・・・そう言ったんじゃない？」

江戸川コナン「あつ！それだ・・・でもどうして？」

何故、灰原が「その言葉」を知ってるんだと思いつつコナンは首を傾げる

吉田歩美「さつきTVでやってたんだよ、内容は・・・」

灰原 哀「米花町市民諸君に告ぐ・・・俺は仮面ライダーインフィニティ・・・突然だが今をもってトライアングルタワーは我々NEVERが占拠した・・・そしてこの世界最強のガイアメモリと巨大光線兵器『エクスピッカー』を我々は有し、ここを拠点に全世界を自由の樂園へと変える」

灰原が話終えた

江戸川コナン「トライアングルタワーに巨大光線兵器って？」

灰原 哀「彼等がこの街に持ち込んだ物・・・それとさつきFBIも動いたみたい」

江戸川コナン「FBI？NEVERってそんなにヤバい連中なのか？」

？ ？ ？「NEVERは世界各地でその名を馳せる不死身の傭兵集団」

コナン達は声がした方に顔を向けた

ZERO「あつ、俺はZERO」

江戸川コナン「僕は江戸川コナン」

吉田歩美「私は吉田歩美」

灰原 哀「灰原哀・・・」

自己紹介しあつてNEVERの話へと変わる

江戸川コナン「お兄さん、NEVERの事知ってるの？」

ZERO「知ってるよ・・・連中はNEVERとその名の示す通り化学薬品とクローニングを駆使した『死亡確定固体復環術』によって蘇生した死人達によって構成され、人間離れた高い身体能力と、常人ならば致命傷となり得る傷を受けようと効果がない不死身の体を持つ戦士達・・・実験をしていたのがマリア・S・克蘭ベリーという女・・・つまり大道要の母・・・ん！」

ZEROは殺気に気付いた

江戸川コナン「どうしたの？」

ZERO「連中が来る」

灰原 哀「連中ってNEVERが!？」

ZERO「そうだ！君達はベッドの下に隠れるんだ!!」

ZEROは心の中で（俺が生きている事に気付いたのか？）と思う

灰原 哀「隠れるわよ歩美ちゃん！」

吉田歩美「うん！」

そしてZERO以外皆隠れたあと病室の窓が開いた

第3話 占拠されたトライアングルタワー（後書き）

〈キャラクター説明〉

ZERO^{ゼロ}：色々な世界を旅しながら闇の王を守護する者。仮面ライダーデイサイドに变身。それ曰く「紫の悪魔」と呼ばれている。

マリア・S・克蘭ベリー：本名は大道マリア。元々は風都工科大学における遺伝子工学の権威だったが、息子である要と克己の死をきっかけに、財団Xの援助のもと、封印していた死者蘇生研究を完成させる。

灰原^{はいばら} 哀^{あい}：「黒の組織」の元メンバーで、組織でのコードネームは「シェリー」。組織が独自に開発していた毒薬「APTX4869」の開発者。現在は帝丹小学校1年B組在籍。

吉田^{よしだ} 歩美^{あゆみ}：哀が入団するまでは探偵団の紅一点であった。おかつぱ頭にカチューシャを着けた好奇心旺盛な少女で、推理よりも謎解きの方が好み。

〈用語説明〉

トライアングルタワー：米花町のシンボルで風都タワーより少し大きい。今作品ではNEVERに占拠されてしまう。

エクスピッカー：NEVERの最終兵器。26本のT2ガイアメモリを同時にドライブすることに発生させる巨大な「ガイアウェーブ」

を「エターナルウェーブ」に転換し、瞬時に人間をネクロオーバーに変える魔の巨大光線兵器。

FBI：NEVERを追って日本に潜入捜査のために訪れているFBIの捜査官達。

第4話 カメンライド

病室の窓が開き、人が入ってきた

宮崎 空「また会ったね、紫の悪魔君」

江戸川コナン「（女性の声）」

ZERO「スカイの女、何しに来た」

宮崎 空「何しにつて止めを刺しに来たのよ、でもまさか生きてたなんて……. だけど今度こそ…….」

スカイ！

空はTSSメモリを使ってドーパントに変身

ZERO「出たな……スカイ・ドーパント」

ZEROは腰からデイスайдライバーを取り出し、カード挿入口にライダーカードを装填

ZERO「変身！」

カメンライド・デイスайд！

ZEROはライダーカードを使ってデイスайдに変身した

デイスайд「こっちだ！ついてこい！！」

Sドーパント「絶対逃がさない」

スカイ・ドーパントはデイスайдを追って病室の窓から屋上へ跳び上がった

灰原 哀「行ったようね……」

コナン達はベッドの下から出た

江戸川コナン「ん！」

そしてベッドの下から出たとき、コナンは視線に気付く

芦原 賢「……………」

芦原は服の内からT2ガイアメモリを取り出す

灰原 哀「江戸川君！」

灰原はコナンの名前を大声で呼ぶ

芦原 賢「ゲームスタート」

トリガー！

芦原はT2メモリを使ってドーパントに変身

Tドーパント「……………」

トリガー・ドーパントは徐々に歩美に近づいていく

江戸川コナン「歩美ちゃん、逃げろ！」

吉田歩美「こ、コナン君……………」

Tドーパント「ゲームオーバー」

バンッ！

一発の銃弾がトリガー・ドーパントに被弾する

ディエンド「君達は早く逃げるんだ！」

灰原 哀「え？」

ディエンド「早く！」

江戸川コナン「行くぞ、灰原！歩美ちゃん！！」

コナンは灰原と歩美を連れて病室から走り去った

ディエンド「君の相手はこれだ」

ディエンドは手に持っていたディエンドライバーのカード挿入口に
ライダーカードを装填

ディエンド「行つてらっしゃい」

カメンライド・パンチホッパー！

ディエンドはライダーカードを使ってパンチホッパーを召喚した

パンチホッパー「ふん！」

トリガー・ドーパントはパンチホッパーに胸を殴られ、病室の窓か
ら外に落ちた

パンチホッパー「はっ！」

パンチホッパーはトリガー・ドーパントを追って病室の窓から飛び
降りる

ディエンド「僕もあの子供達を追つか」

その頃、病院の屋上ではディサイドとスカイ・ドールパントが戦っていた

Sドルパント「もう逃げられないよ・・・どうするのかな？」

ディサイド「・・・」

Sドルパント「何も出来ないなら終わりで良いよね！」

スカイ・ドールパントはTSSメモリの能力で空を飛んだ

ディサイド「フツ、待ってたよ君が飛ぶときを！」

ディサイドは手に持つディサイドライバーのカード挿入口にアタックカードを装填し

アタックライド・ギガント！

アタックカードを使ってギガントを召喚した

ディサイド「はあ！」

ギガント：4基の小型ミサイルが装填された肩掛け式ミサイルランチャー

Sドルパント「うわー！」

ギガントを全弾受け、スカイ・ドールパントは落ちる

ディサイド「さて次は君が終わる番だ」

Sドルパント「ちょっと待って！」

ディサイド「断る」

Sドルパント「ちっ、なら・・・」

スカイ・ドーパントは空を飛んで逃げようとする

デイサイド「俺から逃げようとしても無駄だぜ」

デイサイドはデイサイドライバーのカード挿入口にファイナルアタックカードを装填

デイサイド「これで決める」

ファイナルアタックライド・ディディディサイド！

デイサイドは必殺技のカードを使って攻撃する

デイサイド「はー！」

ディメンション・ブレード：ライダーの図柄が描かれた半透明のカードが照準となって標的を補足し、剣を振るって標的を切り裂く（その際、召喚されたライダーたちは還元する）

Sドーパント「ちよつとタイ・・・ムー！」

スカイ・ドーパントは再び空から落ちメモリはデイサイドのところに落ちた

宮崎 空「う・・・まさか負けるなんて・・・」

空は砂となって消える

デイサイド「まず一つ目のTSメモリ、ゲット！」

そして病院の外・・・・・・・・・・

パンチホッパー「ふん！」

パンチホッパーはトリガー・ドーパントに殴りかかる

「ドーパント「ゲームオーバー」

ズガン！

トリガー・ドーパントの銃弾がパンチホッパーに被弾し消えた

第4話 カメンライド（後書き）

〈キャラクター説明〉

仮面ライダーディエンド：海東大樹がディエンドライダーで変身する仮面ライダー。基本カラーはシアン。鳴滝はいずれディケイドとディエンドは互いに滅ぼし合うと発言している。ディケイド同様、各世界の行き来が可能。カメンライドによりカードに刻まれた仮面ライダーの情報を実体化し召喚する能力を持ち、ファイナルフォームライドやそれに応じたコンビネーション技はディケイド同様に使える。身軽な動きと銃撃を活かしたヒット&アウェイ戦法を行う。武器はディエンドライダー。必殺技はディメンションシュート。

仮面ライダーディサイド：ZEROがディサイドライダーで変身する仮面ライダー。基本カラーは桔梗色。元々このディサイドは最も危険な仮面ライダーと言われ大ショッカーのアジトの地下深くに眠っていた。だがショッカーの幹部0が起こした、闇世界でのライダーリート事件をきっかけに表舞台へと姿を現す。武器はディサイドライダー。必殺技はディメンション・ブレード。

芦原 賢^{あしはら けん}：「旧NEVER」のクールスナイパー。ハンドガンからライフルまで幅広く銃火器の扱いに長けており、銃撃戦を得意とする。寡黙な性格で殆ど話さないが、自身の過去から戦闘を「ゲーム」と捉えている節があり、変身時に「ゲームスタート」と呟く。克己が取引に向かう際には有事に備え、影から狙撃による護衛を任されるほど信頼を得ている。

トリガー・ドーパント：芦原賢がT2Tメモリで変身するドーパン

ト。右腕が銃になっており、顔面に備えたスコープによる優れた狙撃能力を持つ。その銃から青いエネルギー弾を発射し、一撃でライダーに大きなダメージを与えるほどの攻撃力を持つ。なお、銃は拳銃ではなくライフルタイプであるが、変身者の技量によってあらゆる距離で正確無比な銃撃を行うことが可能。武器は右腕に装備している銃。

宮崎 空みやざき そら：「NEVER」のスカイガール。

スカイ・ドーパント：宮崎空がTSSメモリで変身するドーパント。空気を操ることができる。能力は空を飛ぶ。

〈用語説明〉

ディエンドライバー：ディエンドへの変身にも使う50口径の銃型専用武器。変身前・後を問わず、高威力のエネルギー弾を放つ2連式の銃として使える。銃身側面中央部に設けられたカード挿入口にライダーカードを装填し、銃身をポンプアクションの要領で前にスライドさせることで、そのカードの種類が発声されて待機音が鳴り始め、トリガーを引くことでそのカードの能力名などが発声された後、カードの裏面に描かれたライダーの紋章の投影図が発射されて効果を発揮する。ライダーカードを複数枚同時に使うことも可能。

ディサイドライバー：ディサイドへの変身にも使う剣型専用武器。鐔側面中央部に設けられたカード挿入口にライダーカードを装填し、スライドさせることで、そのカードの種類が発声されて待機音が鳴り始め、ディサイドライバーを振るうことでそのカードの能力名などが発声された後、カードの裏面に描かれたライダーの紋章の投影

図が剣の先から発射されて効果を発揮する。ディエンド同様、ライダーカードを複数枚同時に使うことも可能。

カメンライド：ライダーカードによって変身や召喚したりもできる。

アタックライド：武器カードと技カードがあり、武器は出せる。技は使える。

ファイナルアタックライド：必殺技を発動できるカード。

ディメンション・ブレード：ライダーの図柄が描かれた半透明のカードが照準となって標的を補足し、剣を振るって標的を切り裂く（その際、召喚されたライダーたちは還元する）

カメンライド・パンチホッパー：今話でディエンドが召喚したライダー。

アタックライド・ギガント：今話でディサイドが出した武器。G4が使用していた、4基の小型ミサイルが装填された肩掛け式ミサイルランチャー。

第5話 ドーパントになる人々

病室が走り去ったコナン達は、まだ病院内を走っていた……
そこへ……

江戸川コナン「ハアハア、あっ！」

ディエンド「こっちだ！」

コナン達はディエンドの方に走り、一緒に走り出した

ディエンド「（パンチホッパーが負けたのか）早く、この病院を出よう」

ナース「きゃー、化け物！」

ディエンドとコナンは悲鳴がした方に顔を向ける

江戸川コナン「あれは！」

「……ドーパント……」

そこにはドーパントがいた

ディサイド「T2のアイスエイジとバイオレンス・ドーパントか」

ディエンド「あのドーパントを倒したのか？」

ディサイド「ああ」

ディサイドはTSSメモリを取り出して……

ディサイド「コナン君、ほらスカイメモリだ……受け取れ」

江戸川コナン「えっ、でも……このメモリは死者じゃなきゃ使え

ないんじゃないの？」

デイサイド「そういうと思って、あらかじめ連中から盗んでおいた
ドライバーをやる」

ドライバーと共にコナンに渡した

江戸川コナン「ドライバー？」

デイサイド「それは普通の人間にもTSガイアメモリを使えるように
したベルトだ」

コナンは ドライバーを腰に装着

江戸川コナン「変身！」

スカイ！

コナンはTSSメモリを使って変身した

？・？ドーパント「ん！」

アイスエイジ&バイオレンス・ドーパントの前に強い風が吹く

スカイ「・・・灰原、歩美ちゃんを頼む・・・」

灰原 哀「歩美ちゃん、こつち！」

吉田歩美「でもコナン君が！」

灰原 哀「江戸川君なら大丈夫よ・・・ほら早く！」

灰原は歩美を連れて近くの物陰に隠れる

デイサイド「さて俺も久しぶりに召喚するか」

ディサイドは手に持っていたディサイドライバーのカード挿入口にライダーカードを装填

ディサイド「遊んで来なさい！」

カメンライド・ナイト・アクセル！！

ディサイドはナイト&アクセルのライダーカードを使ってライダー2体を召喚した

ナイト「ふん！」

?ドールパント「うがつ！」

ナイトはアイスエイジ・ドールパントに攻撃

アクセル「はっ！」

?ドールパント「うっ！」

アクセルはバイオレンス・ドールパントを攻撃

ディエンド「ん！視線？」

ディエンドは近くにあるビルを見る

ディエンド「気のせいかな」

・・・・そのビルの屋上では・・・・

ウォッカ「とうとうNEVERが動きだしましたぜ兄貴」

ジン「ああ、やっと見つけたぞ・・・大道具」

ベルモット「大道具？」

ジン「組織が作ったTSガイアメモリを盗んで逃走した男だ」

ジンとウォッカ&ベルモットはトライアングルタワーに見上げる

その頃、トライアングルタワー最上階では……

死黒「要、宮崎が殺られたそうDeathよ」

大道「要「スカイメモリは？」」

金城北斗「それが空を倒した男に持っていきました」

大道「要「仮面ライダーか？」」

金城北斗「はい、名前はZERO……紫の悪魔です」

要は『紫の悪魔』と聞いて思い出す

大道「要「紫の悪魔……生きてたのか……それで賢は青い悪魔が召喚したライダーに負傷を負わされて帰ってきたと」

芦原 賢「……」

大道「要「凶星か……まあ良い、どうせ今の米花町はT2メモリで変身したドーパントだらけでパニック状態になってるはずだから」

そして病院の外でライダー達は戦っていた

I&Vドーパント「うがつー!!」

アイスエイジ&バイオレンス・ドーパントは地面を転がる

ディサイド「これで決める」

ディサイドはディサイドライバーのカード挿入口にファイナルアタ

ツクカードを装填

ナイト&アクセル「うわ〜」

ナイトとアクセルは還元し

ファイナルアタックライド・ディディディサイド！

ディサイドは必殺技のカードを使って攻撃する

スカイ「こつちも決めるぜ！」

スカイマキシマムドライブ！

TSSメモリを ドライバーのマキシマムスロットに挿入

ディサイド「はー！」

ディメンション・ブレード：『第4話 カメンライド』に説明
されている

スカイ「スカイキック！」

スカイキック：スカイライダーのキックと同様

I&Vドーパント「うわああああー！」

アイスエイジ&バイオレンス・ドーパントはディサイドとスカイの
必殺技に当たり爆発

ディサイド&ディエンド&スカイは変身を解除した

江戸川コナン「よしメモリ回しゅ・・・う？・・・って、ええええ
え！」

円谷光彦「う．．．ここは何処ですか？」

小嶋元太「いてててて」

江戸川コナン「どうして．．．こいつらがドーパントに？」

コナンはI&Vドーパントが光彦と元太だった事に驚いた

第5話 ドーパントになる人々（後書き）

キャラクター説明

仮面ライダー スカイ：江戸川コナンがTSSメモリの力で変身する仮面ライダー。基本カラーは緑色。スカイライダーのように空を飛ぶことができる。必殺技はスカイキック。

小嶋 元太（こじま げんた）：探偵団の切り込み隊長的存在で少年探偵団の団長を自称しているが、実質的にはコナンに取って代わられている。典型的なガキ大将の少年。

バイオレンス・ドーパント：比類なき超腕力を持ち、右腕の鉄球を用いた接近戦を得意とする。また身体をバイオレンスボールに変形させ、右腕で地面を叩くことで高速移動する能力を持つ。

円谷 光彦（つぎやま みつひこ）：両親とも教師で、家庭でのしつけが厳しかったため、礼儀作法を重んじ、言葉遣いは同級生に対しても常に敬語を使ういわゆる「良家のお坊ちゃんタイプ」。そのため、マナーをあまり守らない元太に注意をすることがよくある。

アイスエイジ・ドーパント：冷気を操るため高熱に弱いと思われるが、実際はヒートの発する高熱すら凍結させるほどの絶対零度の冷気を持つ。池を瞬時に凍らせる他、水を持ち上げるようにして凍らせつらら状のミサイルにしたり、氷でできた分身を形成することが可能。地面を凍結させることにより、アイススケートの要領で高速移動もできる。

ジン：黒の組織の中枢を担い、構成員の実質的な管理も行っている

幹部クラスの人物で、工藤新一にAPTX4869を飲ませた張本人。

ベルモット：情報収集や暗殺、取引などのサポートをしている、組織の女性幹部。アメリカ人ながらも日本語にもたけている。組織の任務の際は、ハーレーダビッドソン・VRS Cに乗る場合が多い。黒の組織の存命人物の中でコナンおよび灰原の正体を知る唯一の人物。

ウォッカ：ジンと行動を共にしている構成員で、ジンへの忠誠心が高い男。ジンの腰巾着的存在。主に潜入捜査を担当しており、ジンと共にコナンがマークしている、組織の最重要人物でもある。

ナース：看護師。傷病者の世話、及び診療上の補助をする者。

〈用語説明〉

スカイキック：スカイライダーに似て、空中前方宙返りからキックを繰り出すスタンダードな技。

ドライバー：ライダーがメモリを使用して変身するベルト。ダブルドライバーの次に完成した。メモリスロットが真ん中にしなく「E」の形になっている。

T2 Eメモリ：「氷河期の記憶」を宿した T2 アイスエイジメモリ。

T2 Vメモリ：「暴力の記憶」を宿した T2 バイオレンスメモリ。

カメンライド・ナイト：今話でディサイドが召喚したライダー。

カメンライド・アクセル：今話でディサイドが召喚したライダー。

第6話 少年探偵団、集結！

光彦と元太がドーパントだった事に驚きを隠せないコナンは……

江戸川コナン「お前等……一体どうして!？」

小嶋元太「それがよ、光彦と街を歩いてたら空から変なのが落ちてきたんだよな」

円谷光彦「ええ、それから僕達の体に吸い込まれて……でもあれは一体？」

灰原 哀「（もしかしてドーパントに変身した時の記憶がない？）」

灰原は二人（元太と光彦）にドーパントになった時の記憶がないことに気付く

江戸川コナン「光彦がアイスエイジで元太がバイオレンスか」

吉田歩美「コナン君、はいIとVのメモリ」

歩美はコナンにT2I&Vメモリを渡した

江戸川コナン「ありがとう、歩美ちゃん」

ZERO「これでT2メモリが二つにTSメモリが一つか」

海東大樹「それで、これからどうするんだい？」

ZERO「この子達をここに置いて行くのは危険だ……一度、アジトに帰ろう」

ZEROはコナン達の方をみて……

ZERO「コナン君達も付いてきな」

少年探偵団「はい！！！！！」

あれから数分・・・ZEROは少年探偵団を連れてアジトに足を運んだ

門矢 士「それで、この道具は何処に置けばいいんだ？」

阿笠博士「あ、それはそこに・・・」

ZERO「ただいま！」

ZEROが大きな声で帰ってきた

少年探偵団「おじゃましてーす・・・って博士！」

阿笠博士「おお、皆も来たのか」

アジトに博士がいることに歩美は

吉田歩美「どうして博士もいるの？」

その問いに博士は

阿笠博士「仮面ライダーに襲われたんじゃないよ・・・まあ、この人に助けてもらったがのう」

江戸川コナン「仮面ライダーに襲われたって、どういうライダーだった！」

コナンは博士にどういう仮面ライダーだったか聞く

阿笠博士「確か・・・」

門矢 士「仮面ライダーイレイザーだ」

江戸川コナン「仮面ライダー・・・イレイザー？」

ZERO「レイザーか・・・その話なら俺がしよう」

ZEROはレイザーについて話始める

第6話 少年探偵団、集結！（後書き）

キャラクター説明

門矢 士^{かどや つかさ}：写真家を自称し、二眼レフのトイカメラを常に身につけている。自信家で誰に対しても尊大な態度で接するが、いざという時は世界や他者のために身を挺する。仮面ライダーディケイドに変身。それ曰く「赤い悪魔」と呼ばれている。

海東 大樹^{かいとう だいき}：仮面ライダーディエンドに変身する青年。様々な世界を単独で往来し、「僕の旅の行き先は、僕が決める」という信念のもとで価値のある”お宝”と判断したものを収集している。「青い悪魔」と呼ばれている。

阿笠 博士^{あがさ ひろし}：江戸川コナンの協力者。工藤家の隣人で自称天才科学者。また、コナンが使っているメカの製作者でもある。コナンの正体を初めて知った人物であり、他人に正体がばれると周囲に危険が及ぶと助言し、コナンのことを「親戚の子」として毛利蘭に預けた。また、コナンと哀を周囲から怪しまれないようにと帝丹小学校に編入させている。

用語説明

士たちのアジト：士たちが一時的に借りた家。

少年探偵団^{しょうねんたんていだん}：少年探偵団のメンバーは全員が帝丹小学校1年B組のクラスメイトであり、自称リーダー格の小嶋元太を筆頭に、円谷光

彦、吉田歩美、そしてその3人によって半ば強引に入団させられた江戸川コナン、灰原哀の5人により構成される。だが、実質的にはコナンと哀がまとめ役で、キャンプなどで遠出する際には阿笠博士が引率役を務める。1年B組担任の小林澄子が顧問を自称している。

第7話 ガイアメモリとエクスピッカー

ZEROはイレイザーについて話始めた

ZERO「イレイザーはTSEメモリで変身した仮面ライダー・・・イレイザーのマキシマムは抹消能力を持つ危険な技、しかも喰らったが最後だ」

江戸川コナン「最後・・・」

門矢 士「だが今は先にT2ドーパントをどうにかしないとな」

灰原 哀「一つ質問があるんだけど」

T2ドーパントの事で質問する灰原

ZERO「質問？」

灰原 哀「どうして彼等は一度集めたT2ガイアメモリをバラまいたりしてるのかしら？」

灰原の質問にZEROが答える

ZERO「この街をパニック状態にする為さ・・・それを観て楽しんでるんだよ連中は・・・」

灰原 哀「でも、結局はまた回収するんでしょ・・・私だったら一度集めた物をバラまいたりしないわ」

海東が灰原が言った事に対して言う

海東大樹「ゾーンだよ」

灰原 哀「ゾーン？」

海東大樹「T2のゾーンを使えば近くにある全てのT2メモリを回

収めることができるんだ」

ZERO「さらにあのトライアングルタワーでゾーンの効果を発動すれば……………」

コナンは息を呑む

江戸川コナン「街にバラまかれたT2メモリを一気に回収できる……………」

ZERO「そう、そして連中がトライアングルタワーに運んだ『エクスビッカー』で世界を地獄に変えるだろうな」

ZEROが言った「地獄に変える」という言葉にコナンは反応する

江戸川コナン「地獄に!?……………エクスビッカーって一体?」

ZERO「エクスビッカーは26本のT2ガイアメモリを同時にドライブすることに発生させる巨大な『ガイアウェーブ』を『エターナルウェーブ』に転換し、瞬時に人間をネクロオーバーに変える魔の巨大光線兵器だ……………だから連中は米花町のシンボルであるトライアングルタワーを占拠したんだよ」

その時、博士が口を開く

阿笠博士「例えばの話じゃが……………光線を人間が浴びたらどうなるんじゃない?」

博士は質問した……………そして答えは

ZERO「もちろんNEVER同様、生ける屍になる……………だが光線を発射される前に俺達でエクスビッカーを止めればいい……………絶対に停めるぞ」

今『エクスビッカー阻止作戦』が決行する

第7話 ガイアメモリとエクスピッカー（後書き）

～キャラクター説明～

仮面ライダーイレイザー：松田将平がTSEメモリの力で変身する仮面ライダー。ジョーカーと同様で高い運動能力と優れた格闘技を活かした戦闘を得意とする。必殺技はメモリ・イレイザー。

～用語説明～

エクスピッカー阻止作戦：ZEROがたてた、エクスピッカーの破壊計画。

TSEメモリ：「抹消の記憶」を宿したTSイレイザーメモリ。

第8話 復活した旧NEVER

米花トンネル内を走る男がいた

切刃札丸「ハアハア、まずい追いつかれる」

その時、正面と背後に四人の追手が現れる

大道克己「逃げてても無駄だ、それよりお前のメモリをよこせ」

克己は札丸に近づく

切刃札丸「それ以上近づくな！近づいたらメモリを破壊するぞ！！」

泉 京水「あら良いのかしら・・・そのメモリを破壊しても？」

羽原レイカ「そのメモリをこっちに渡しなさい」

堂本剛三「そうだ、こっちにメモリを渡せ！」

追手の三人も札丸に迫る

切刃札丸「ふん、このT2Jメモリはダブルの物だ！」

大道克己「違う、そのメモリは俺達NEVERの物だ」

切刃札丸「勝手に言ってる」

ジョーカー！

札丸はT2Jメモリを使ってドーパントに変身

泉 京水「克己ちゃん、ここは私に任せて」

ルナ！

京水はT2メモリを使ってドーパントに変身

「ドーパント「ルナ・ドーパントか」

「ドーパント「さあ、勝負よ」・・・ん！」

ルナ・ドーパントは遠くから近づく人物に気が付いた

「ドーパント「あなたは何者！」

松田将平「暇だから俺の遊び相手になってくれよ・・・まあ本当はエターナルの効果を抹消しに来ただけなんだが・・・」

将平は既に装着しているロストドライバーにTSEメモリを挿入する

松田将平「ジョーカー、必ずWにお前のメモリを渡せ」

「ドーパント「わかった・・・アンタも気をつけるよ！」

ジョーカー・ドーパントはトンネル内を走り去る

松田将平「変身」

「イレイザー！」

将平はTSEメモリを使って変身した

「イレイザー」さて、イレイザー・タイムだ！」

仮面ライダーイレイザーが旧NEVERと戦う

第8話 復活した旧NEVER（後書き）

〈キャラクター説明〉

大道 だいどう 克己 かつみ：旧NEVERの隊長。ナイフによる戦闘を得意とする。T2Eメモリの力で仮面ライダーエターナルに変身。本来は母のためにピアノを演奏し、その曲をオルゴールにしてプレゼントする心優しい少年であったが17歳のときに交通事故死し、組織の科学者であった母によって蘇生させられる。しかし再生後は元の優しい性格はなく、己の目的のために他人はおろか母の命さえも軽視し、部下達も使い捨てとしか見ない冷酷非情な悪魔の如き性格となっていた。

泉 いずみ 京水 きやうみづ：旧NEVERの副官的存在である、つかみ所のないオカマ。関節技と鞭による戦闘を得意とする。傭兵部隊である「NEVER」には場違いとも言えるコミカルな性格の持ち主でメンバーのムードメーカーであるが、克己に対する忠誠心（と言うより好意）は特に厚く彼を「克己ちゃん」と呼ぶ。常にダンスを踊るかなのようなステップで移動し、美形の男を好むようである。さらに欲を言う**と強くて美形の男が好み**。

ルナ・ドーパント：泉京水がT2Lメモリで変身するドーパント。ムチのような長い両腕を自在に伸縮させる力を持ち（この手は切られてもすぐに再生する）、変幻自在な動きで相手を翻弄し打ち倒す。また手を振り回すことで分身であるT2マスカレイド・ドーパントを作り出すこともできる。

羽原 はねはら レイカ：旧NEVERの紅一点。蹴り技等の高度な格闘術を使い、素早い動きを生かした戦闘を得意とするクールビューティ

「な女戦士。後に翔太郎からは「ヒートの女」、「ファイヤーガール」と呼ばれる。無感情に近いが、死者である自分に体温がないことを何よりも気にしており、それを指摘されると激昂する。

堂本 剛三：旧 NEVER のパワーファイター。豪快かつ異様にハイテンションな喋り方が特徴。翔太郎曰く「マッチョメン」。棒術の戦闘を得意とし、メンバー随一の剛腕を誇り怪力を活かした白兵戦を駆使して、生身でありながらも W と渡り合える程。

切刃 札丸：旧 NEVER の交渉担当。最初は上手く NEVER が起こした事件を交渉し解決してきた彼だが、全世界を自分たちと同じ生きる屍にしようとする要の計画を知り NEVER を裏切る。

ジョーカー・ドーパント：切刃札丸が T2J メモリで変身するドーパント。仮面ライダージョーカーと同様で高い運動能力と格闘技を活かした戦闘が得意。

松田 将平：「NEVER」の抹消者。味方を仲間だと思ってないらしく、いつも一匹狼。

（用語説明）

旧 NEVER：過去に大道克己が率いた部隊。

イレイザー・タイム：日本語に訳すと「抹消時間」という意味。仮面ライダーイレイザーに言われた者は時代から抹消される。

第9話 黒の組織

米花トンネル内で旧NEVERと戦う、仮面ライダーイレイザー・
・・・その外では・・・

メーブル「TSEメモリの所持者を発見したわ」

クミス「彼がイレイザー？」

テネシー「そうよ、ベルモットから送ってきたデータにも載ってたもの」

メーブル、クミス、テネシーが騒ぐ・・・その時！

シードル「女ども、うるせえぞ！」

マール「そうですよ・・・っていうよりシードルも静かにして下さい」

プルーン「本当に五月蠅いですね・・・リーダー？」

一人だけ他の六人とは違う殺気を感じさせる者がいた

プルーン「メールですか？」

グラッパ「ああ、ジンからだ・・・内容はトライアングルタワーを占拠したNEVERのリーダーを暗殺しろ・・・だそうだ」

プルーン「NEVERのリーダー？」

グラッパ「名前は大道要、数年前に組織を裏切り逃走を続けていた男だ」

グラッパは要の説明をする

グラッパ「さてタワーに行くぞ！」

グラッパ達はトライアングルタワーに向かう……そして

ウォッカ「ジンの兄貴！」

ジン「どうした？」

ウォッカ「グラッパからメールが返ってきました、内容はこれから暗殺に行くだそうです」

ジン「フツ、これで奴も終わりだ」

今、グラッパ達による『大道要暗殺計画』が開始される！

第9話 黒の組織（後書き）

〈キャラクター説明〉

グラッパ：6人の仲間と行動する男。組織の幹部でもある彼は、その6人のリーダーでもある。

ブルーン：グラッパの補佐。

テネシー：グラッパの仲間で組織の女性幹部。ベルモットとは仲が良い。

メーブル：グラッパの仲間。テネシーの補佐。

クミス：グラッパの仲間。

シードル：グラッパの仲間だが、その中でも一番口が悪い。

マール：グラッパの仲間が一番礼儀が良い。

〈用語説明〉

黒の組織くろ そしき：工藤新一の身体を小さくした毒薬・APT-X4869を開発した国際的犯罪組織。所属する者は皆、上から下まで黒の装束に身を包み任務を行う。現時点では、重要人物の暗殺、裏での金銭やプログラムソフトの取引、謎の薬の開発などを行っていること、また半世紀前から「極秘プロジェクト」を進めていることが明らか

になっている。その力は政界、企業、医療、科学といった各界の重鎮達にも及んでおり、その中で最も優秀な人間を組織の一員としてヘッドハンティングしている。組織の暗殺のターゲットとなるのは、秘密の取引相手や組織から抜け出した裏切り者をはじめ、将来的に組織の脅威となる可能性がある者である。接触は裏だけで行っていた者、直接的には組織と関連がない者であるため、基本的には暗殺者が事件の捜査の容疑者候補に浮かぶことすらない。暗殺するのは極力ターゲットのみであるが、暗殺の瞬間や証拠を目撃した者も即座に抹殺する。もし途中で暗殺者の正体が露見した場合、たとえばそれが組織の重要人物であろうとも迷わず抹殺するなど、現場に証拠をまったく残さず暗殺を果たすやり方をする。組織の暗殺では、ライフルや爆弾、毒薬を補助的に用いるが、基本的には拳銃を用いる。

だいたいかなめあんさつけいかく
大道要暗殺計画：ジンがたてた、大道要を殺す計画。

第10話 NEVER同盟と次元の扉

ここはトライアングルタワー内にある会議室、そこには要と同盟を結んだ4人がいた

大道 要「今日は集まってくれて、ありがとう」

ZIONE「・・・・・・・・・・・・・・・・」

死神博士「・・・・・・・・・・・・・・・・」

左慈「・・・・・・・・・・・・・・・・」

白蘭「・・・・・・・・・・・・・・・・」

要は話を続ける

大道 要「とうとう我々NEVERは第1段階として、このタワーを占拠することに成功した・・・・・・そしてこれから第2段階に移る前に手伝ってもらいたい事がある」

ZIONE「手伝ってもらいたいこと？」

大道 要「我々5人の力で次元の扉を造りたいんだ」

白蘭は『次元の扉』と聞いて・・・・・・・・

白蘭「次元の扉って何かな？」

『次元の扉』について知らない白蘭・・・・だが左慈が口をはさむ

左慈「色々な世界に飛ぶことができる時の装置だ」

白蘭「・・・・・・・・・・・・・・・・面白いな・・・・・・・・わかった僕が次元の扉を造るよ」

会議室にいた皆が驚く！

左慈「一人で造るだと！そんなの無理だ、あれは妖術師が数百人いても造るのは難しいんだぞ！！」

白蘭「僕は天空のマーレリング所持者にしてミルフィオーレファミリーのボスだよ・・・しかも病気がすぐに治るワクチンや匣を作ったのだって僕だ」

要は少し考える

大道 要「なら任せるよ」

左慈「大道！」

大道 要「いいんじゃない・・・彼は信用できる」

白蘭「じゃあ、僕的能力ですぐに完成させるよ」

白蘭は行動に移した・・・それから数分後

白蘭「完成したよ・・・これが僕の自信作『次元の扉』さ」

Z・ONE「驚きましたね、こんなに早く造れるとは」

左慈「まさか・・・ありえない」

要は第2段階の説明を始める

大道 要「さて第2段階に移る、内容はまずZ・ONEはアーク・クレイドルに一度戻って仲間をこっちに向かわせてほしいんだ」

Z・ONE「わかりました・・・でわ私はこれで」

Z・ONEは『アーク・クレイドル』に帰還した

大道 要「白蘭はイタリア本部に戻り、こっちにA級の兵士と雲の

六甲花を向かわせてほしい」

白蘭「君がそういうと思ってA級の兵士はこっちで待機させてるよ．．．でも雲の六甲花は意外だな」

大道 要「宜しく頼む」

白蘭「じゃあ後で雲のマーレリング所持者をこっちに送るから頑張っ
てね」

白蘭は『イタリアのミルフィオーレ本部』に帰還

大道 要「最後に死神博士と左慈はここで待機．．．．ん？」

会議室に白い制服に身を包む男が入ってきた

強襲部隊長「私は白蘭様からの命を受けてここにきました、強襲部
隊の隊長です！」

大道 要「君が？そう．．．それで兵士の数は？」

強襲部隊長「私を合わせて1000人です！」

大道 要「ならそのA級の1000人を連れて次元の扉に入っ
てほしい．．．目的地は過去で恋姫＋無双の世界だ」

強襲部隊長は敬礼する

強襲部隊長「わかりました．．．．でわ我々強襲部隊は恋姫＋無
双の世界に向かいます！」

1000人いる強襲部隊が次元の扉に入り『恋姫＋無双の世界』に向
かう

第10話 NEVER同盟と次元の扉（後書き）

〈キャラクター説明〉

死神博士^{しにがみはかせ}：戦死したゾル大佐に代わってスイス支部より日本に着任したショッカー日本支部二代目大幹部。暗いアジトの中で下から照明を当てるなどの怪奇性を強調した演出も印象的な天才科学者。「怪人作りの名人」という異名を持つ。改造人間研究の第一人者。

白蘭^{びやくらん}：ミルフィオーレファミリーの若きボス。第0バフィオペディラム隊所属で大空のマーレリング所持者。白髪で三白眼の青年で、左目の下には三つ爪のマークがある。

Z・ONE^{ゾーン}：滅した未来の「最後の一人」を名に冠する未来人。イリアステルの結成以降、全ての事件を陰で操ってきた黒幕。他の未来人達の精神的な支えであり、希望でもある。アポリアと出会った時には右半身に義手・義足を着けていたが、研究が進むに連れD・ホイール「モーメントコア フライ・ホイール」に搭乗するようになる。このD・ホイールは生命維持装置も兼ねている。

左慈^{さじ}：聖フランチェスカ学園の歴史資料館から古い鏡を盗み出し、北郷一刀が恋姫十無双の世界に来ることになった発端の事件を起こした人物。その際は聖フランチェスカ学園の制服を着て学生を装っていた。道士だが蹴りを主体とした体術を使いこなして、一刀を圧倒し、愛紗と互角にやり合う程の腕を見せる。一刀から言わせると蹴りには殺意がこもっているらしい。異世界に来た後も一刀を敵視し、その命を狙い続け暗躍している。

（用語説明）

NEVER同盟：NEVERと手を組んで結成されたチーム。現在は死神博士、白蘭、Z・ONE、左慈が組んでいる。

次元の扉：色々な世界にワープ出来る装置。

アーク・クレイドル：破滅した未来のネオ童実野シティ。螺旋状にそびえ、地上に対し上下が反転している。都市の主だった物はサテライトにあたり、ダイダロスブリッジの残骸が確認されている。

ミルフィオーレファミリー：10年後の世界で猛威を振るうファミリー。マフィア界の各ファミリーに代々伝わるリングと匣を次々に奪い、急激に力をつけた。その力でボンゴレ狩りを行い、現代のツナがやってくる2日前までボンゴレ本部を壊滅状態に追い込んだ。ボンゴレに交渉の席を用意するも、やってきた10年後のツナを殺害。10年後のツナを含めたボンゴレに関わりのある人間のほとんどを抹殺している。元々は白蘭率いる新進気鋭の「ジェッソファミリー」と、ユニ率いるボンゴレと同等の歴史を持つ「ジッリョネロファミリー」という2つのファミリーが合併してできたものであり、ジェッソファミリーを母体としている。ジェッソの出身者は白い制服に身を包んだ「ホワイトスペル」、ジッリョネロの出身者は黒い制服に身を包んだ「ブラックスペル」として活動している。

ミルフィオーレ本部：白蘭が拠点としている。イタリアにあるミルフィオーレファミリーの基地。

ホワイトスペル：緻密で狡猾な戦いを得意とする。

ろくちようか

六甲花：ボスの白蘭をはじめグロ・キシニアや入江正一など、勢力中で有数のメンバー数を誇っており、全員がホワイトスペル（頭脳派）とブラックスペル（武闘派）に分類される。メンバーにはF級からA級までの階級分けがされており、その中でもA級以上の精鋭6名は「六甲花」と呼ばれマーレリングを所持している。また、六甲花のうちホワイトスペルの3名には、白蘭からメイン匣とサブ匣を授けられている。

マーレリング：元々は、ボンゴレファミリーと同等の歴史を持つマフィア「ジッリョネロファミリー」に代々伝わっていたリング。ボンゴレリングと同等の力を持ち、ボンゴレリングと同様に「大空」「嵐」「雨」「雲」「晴」「雷」「霧」の7つのリングが存在する。大空のリングは中央の涙型の石に広げた両翼のデザインでその他のリングは楕円形の石に畳んだ両翼のデザイン。ユニによれば、海のように広がる横の時空軸を象徴としている。

ボックス

匣：リングによって生成された死ぬ気の炎によって開匣することができる箱。サイズは手のひら大でサイコ口状である。中身は匣の属性によって様々で、戦闘を有利にするオプションのような物が入っている。注入した炎の分だけ動き、切れると停止する。尚、使用者の意思で炎が残っているいないに関わらず匣の中に戻る。戻る死ぬ気の炎・リング・匣の属性が一致しないと開匣することはできないが、大空の炎を持つ者のみ全ての属性の匣を開匣することができる。ただし、本来の属性を持つ者が使用したのに比べると、性能を全て引き出すことはできないため、威力は劣る。また、匣の性能は死ぬ気の炎の純度に応じて引き出され、炎の出力が大きくとも純度が低ければ匣の力を引き出すことはできない。死ぬ気の炎・リング・匣の属性が一致していても、リングの炎が弱いと開匣できない匣もある。特殊な匣として、「バッテリー匣」という予備の炎を蓄えることができるものがある。

強襲部隊：白蘭が第0パファイオペディラム隊内のA級兵士100人で結成された部隊。

妖術師：「外法師」とも呼ばれ、日本で使われていた古代の魔術や、大陸から伝わってきた魔術、そして坊主や山伏が邪悪な力であるとして使わない魔法をも使う魔術師のことである。

第11話 恋姫＋無双の世界、襲撃された北郷軍

ミルフィオーレの強襲部隊が恋姫＋無双の世界に到着した・・・その到着地点は荒野

強襲部隊長「ここが恋姫＋無双の世界」

強襲部隊副隊長「これから、どうしますか？」

強襲部隊長「ここでの目的は北郷一刀とかいう男の確保だ・・・それと白蘭様より雲の六弔花を援軍としてこちらに送つたらしい・・・さて任務開始、北郷一刀を確保せよ！」

全強襲部隊兵士は敬礼して北郷軍の陣地に強襲を開始！

強襲部隊長「雲の六弔花・・・」

北郷軍の陣地『洛陽』を強襲部隊が囲む

強襲部隊副隊長「準備は良いか？ならカウントダウン開始だ」

強襲部隊兵士1「5・・・4・・・3・・・2・・・1・・・」

強襲部隊副隊長「開匣！」

強襲部隊はリングに炎を灯し、匣にその炎を注ぐ・・・匣からは武器とFシユーズが出てきた

強襲部隊副隊長「強襲開始！」

洛陽に攻撃を始める強襲部隊達・・・その頃

関羽「ご主人様！ご無事ですか？」

北郷一刀「愛紗、一体何が起こったんだ!？」

関羽「何者かに攻撃されてるんです」

北郷一刀「護りの方は？」

関羽「北には星、東には翠、西には鈴々、南には紫苑を配置しました！」

一刀は気付く

北郷一刀「囲まれているのか・・・だけど一体誰が？」

一刀は外をみる

北郷一刀「あれは・・・ミルフィオーレ」

関羽「ミルフィ・・・オーレ？」

愛紗が一刀に問い、一刀を答えた

北郷一刀「ミルフィオーレファミリー・・・天の国で急激に勢力を上げた集団だよ」

一刀は外に出る

関羽「ご主人様、外に出るのは危険です！」

北郷一刀「愛紗はここを護ってくれ」

関羽「で、ですが」

北郷一刀「これは命令だ!・・・じゃあ後は頼んだ」

一刀は城を抜けて走り出す・・・それに気付いた強襲部隊は

強襲部隊兵士2「標的をみつけたぞ！」

強襲部隊副隊長「全員追え！」

強襲部隊は洛陽を離れ、一刀を追う

雲の六弔花「あれが今回のターゲット……ん！あれは側近か？……

・フツ、少しは楽しませてくれよ」

愛紗たちに雲の六弔花が迫る

第11話 恋姫＋無双の世界、襲撃された北郷軍（後書き）

～キャラクター説明～

北郷 一刀：聖フランチェスカ学園に通う普通の男子生徒。恋姫＋無双の世界に来る前は剣道部に所属しており、鹿児島島の祖父の道場で修行していた事もあり天の国では実力は高かった。

関羽：真名は愛紗、武器は青龍偃月刀。黒髪 of 山賊狩りとして名を知られ、乱世を鎮めるためにあちこちを旅している豪傑。山賊狩りの噂が誇張され、絶世の美女とも謳われているが、実際に会った人間は少し失望する。

強襲部隊長：白蘭に100人の強襲部隊の中から指名され隊長となった。

強襲部隊副隊長：強襲部隊長に選ばれた男。

強襲部隊兵士：隊長＆副隊長が選ばれ、残りの98人が兵士になる。

～用語説明～

恋姫＋無双の世界：三国志に登場する英雄たちが女性になっている世界。

荒野：あれはてた野原。

洛陽：北郷軍の拠点。
らくよう

天の国：日本のこと。

リング：かつてのマフィア黎明期に暗黒時代を生き抜くため先人達が闇の力と契約した象徴とされてきたもの。「精製度」というものがあり、リングの精製度ランクが低い場合、リングや匣を使用した時に使用者の力が大きいと波動に耐え切れずにリングが砕けることもある。リングは使用者の波動（生命エネルギー）が通過するとそれを高密度エネルギーに変換して死ぬ気の炎を生成し、匣を開けることができる。ちなみに指につけている時だけでなく首にかけている状態でも波動は伝わるようである。リングの種類もボンゴレリングと同じく7種（大空・嵐・雨・雲・晴・雷・霧）が存在し、炎の威力は使用者の波動を計る尺度である炎の純度に依存する。ただし、使用者固有の波動とリングの属性が一致しなければリングに炎を灯すことはできず、また確固とした覚悟が必要であるとされている。覚悟の強さによって、リングの炎の力：すなわち純度が決定する。

フレイム
Fシューズ：ミルフィオーレファミリー所有のブーツ型匣兵器。X
グローブと同じ仕組みで宙に浮くことが出来る。通称「ゲタ」。

第12話 雲の六弔花、クロスの奇襲

『パシン』とビンタされる音が響く

関羽「う……………」

ビンタされたのは愛紗だった

趙雲「どうして主を一人で行かせた！」

関羽「……………」

曹操「少し落ち着きなさい趙雲」

華佗「そうだ！今は……………」

空気が重い中で華佗は入口の方に黒い服を着た者に気付いた

クロス「何だ？こんな時に仲間割れか？愉快的連中だな」

張飛「お前、何者なのだ！」

クロスは自己紹介する

クロス「俺はミルフィオーレファミリー・ブラックスペル、第14
トウリパーノ隊隊長で雲の六弔花……………クロスだ」

諸葛亮「ろく……………ちようか？」

クロス「うーん、やはり強そうな奴が沢山いるな……………久しぶ
りに楽しめるか？」

皆が戦闘準備に入る

クロス「お！皆やる気満々じゃん」

趙雲「戦う前に一つ問いたい・・・お前たちの目的は何だ？」

趙雲の問いにクロスは・・・・・・・・

クロス「そうだな・・・・・・・・（別に教えてもいいか）・・・・・・・・北郷一刀の確保だ」

関羽「確保？」

クロス「理由は知らないがボスからの命令でね・・・捕まえなきゃいけないんだってさ！」

クロスは雲のマーレリングに炎を灯し、匣にその炎を注ぐ

クロス「見せてやる、俺の匣を！」

匣から何かが射出した

クロス「雲死神、デス・ヌヴォーラ・・・・・・・・行くぞ！」

北郷一刀？「待ちな」

クロス「ん！？」

皆が入口の方に顔を向ける

関羽「ご主人・・・・・・・・さま？」

北郷一刀？「久しぶり愛紗、皆」

趙雲「久しぶり？」

趙雲が不思議に思う

クロス「十年後の姿だな・・・・・・・・それより強襲部隊はどうした？」
北郷一刀？「今頃いなくなった俺を探してる・・・・・・・・ていうか・・・」

また会ったな……雲の六甲花」

クロス「…………もう一人いるな？出てこいよ」

入口にもう一人たっている男がいた

クロス「ブラックリストで見たことがあるぜ……お前は確か……

北郷軍の霧の守護者、無魁双竜だ」

無魁双竜「……………」

クロスは一刀と双竜が指につけているリングをみた

クロス「それが世界に7つしか無い、無双リングか」

10年後の一刀「そうだが、それより戦おうぜ……もう時間が無い」

クロス「よからう」

10年後の一刀とクロスは身構える

第12話 雲の六弔花、クロスの奇襲（後書き）

〈キャラクター説明〉

クロス：ミルファイオーレファミリーのブラックスペル。第14トウリパーノ隊隊長で雲の六弔花。つまり雲のマーレリング所持者である。彼は雲属性の他に晴・雷・嵐・雨・霧属性の波動が流れている。さらに世界に6つしか存在しない死神の匣を所持していることで「死神のクロス」と呼ばれている。

10年後の一刀：10年バズーカにより現れた、10年後の姿。未来では関羽と互角に戦える程の剣士。属性は天空と雨。

無魁 双竜：聖フランチェスカ学園に通う男子生徒。ミルファイオーレの強襲部隊に追われていた一刀に10年バズーカを当てた張本人。一刀とは同級生だが突然行方不明になったことを知り、探している所を何者かの手によってこの恋姫＋無双の世界に送りこまれた。ちなみに北郷軍の霧の守護者で霧の無双リング所持者。

張飛：真名は鈴々、武器は蛇矛の丈八蛇矛。近所の子供達とウサ晴らしの山賊ごっこをしていた所を咎められて以降、義兄弟（姉妹）の契りを交わす。それ以来はたびたび喧嘩しながらも、共に旅をし、桃花村で共に暮らしている。義勇軍として愛紗らと共に桃花村周辺の賊徒を討伐していたが、愛紗が桃香の宝剣を探す旅に参加する意思を示したことで、姉妹の契りを交わした者として同行することとなる。

趙雲：真名は星、武器は直刀槍の龍牙。白蓮の元にいた客将だったが、彼女を見限って愛紗達の旅に同行。だが、2人に食べられたメ

ンマのことばかり考えて歩いてたため霧の中で道に迷ってはぐれてしまう。

曹操^{そうそう}：真名は華琳^{かりん}、武器は死神鎌の絶^{ぜつ}。騎行の途中で出会った愛紗を気に入り、事あるごとに愛紗を自分のモノにしよう画策していた。

華佗^{かだ}：漢中を中心に慈善活動を行う、道教の教団五斗米道に所属し、世に災いをもたらす『太平要術の書』を封印する命を受けて1人旅をしている。

（用語説明）

ブラックスペル：実戦で慣らした猛者が多い。

ブラックリスト：注意や監視を要する人物の氏名・住所などを記した表。

デス・ヌヴォーラ
雲死神：クロスのお気に入り、雲属性の死神型匣兵器。ヌヴォーラと呼んでいる。性質により何匹にも増殖して攻撃をする。

無双リング：10年後の一刀が北郷家の倉でみつけたリング。みつけた当時のリングは使い物にならなかったが、一刀と選ばれし6人の波動によって真新しくなった。

雲の炎：紫色の炎を灯し、性質は増殖。

第13話 北郷一刀VS死神のクロス

10年後の一刀とクロスは身構えるが……

クロス「おっと、そういえば10年バズーカの効力で5分しか時間がないんだっとな」

10年後の一刀「そうだけど」

クロス「なら……5分以上いれる空間を用意してやる」

クロスはポケットからリングを取り出し、青い炎を灯す

10年後の一刀「ん！雨の炎？」

クロス「一つ良いことを教えようか……俺は雲の六甲花だが大空以外の全属性も使えるんだよ」

10年後の一刀「全……属性だと」

匣にその雨の炎を注ぎ、開匣された

クロス「雨死神、デス・デイ・ピオツジャ」

無魁双竜「（死神が2匹？……まさか！こいつは……）北郷、気を付ける……！」

10年後の一刀「うん？」

双竜は10年後の一刀に教えた

無魁双竜「そいつは『死神使い』だ！」

10年後の一刀「な、何い！」

クロス「ピオツジャ、雨時界」

雨時界　：　一つの空間に大量の水を噴出し、時の流れを遅くする

華佗「これは一体？」

クロス「ここは雨時界・・・今、この空間は雨死神による鎮静で時の流れが違う・・・簡単に言えば残り5分の時間を5時間にしたということだ」

そして10年後の一刀は腰から刀を抜く

10年後の一刀「有難い・・・これで十分に楽しめそうだ」

刀に雨の炎を灯した

クロス「へえ、大空のお前に雨の波動まで流れているとは驚きだ」

雲のマーレリングに炎を灯し、匣にその炎を注ぐ・・・武器が飛び出した

無魁双竜「奴の武器は紫鎌か・・・まさに死神だな」

双竜がそういうと10年後の一刀とクロスは戦い始めた

10年後の一刀「せいっ！」

クロス「はっ！」

凄まじい剣戟を繰り返す二人

張飛「二人とも凄いのだ」

関羽「ご主人様がこんなに強かったなんて」

その言葉を聞いてた双壺

無魁双壺「お前たち、覚悟はあるか？」

関羽「何？」

無魁双壺「覚悟だ・・・誰かを護りたいという覚悟はあるかと聞いている」

張飛「あるに決まってるのだ！」

鈴々がそついうと

無魁双壺「わかった・・・関羽、張飛、趙雲、馬超、黄忠は前に出る」

関羽、張飛、趙雲、馬超、黄忠は言われた通りに前に出る

無魁双壺「北郷を守護する者達よ、これを受け取れ！」

この合図とともに5人の掌が光りだす

馬超「こ、これは・・・」

黄忠「指輪と四角い箱？」

無魁双壺「それは無双リングと無双匣だ・・・これよりお前たちは北郷の守護者になった」

北郷の守護者という意味がいまいち分からない5人に双壺が簡単に説明する

無魁双壺「守護者というのは主を護る者のことを言う、俺は霧の守護者で張飛は晴の守護者、趙雲は雨の守護者、馬超は雷の守護者、黄忠は雲の守護者、そして関羽が嵐の守護者だ」

そしてリングと匣についても説明した

無魁双壺「リングに炎を灯す方法は覚悟だ・・・それが出来たら、あとは炎を匣に注ぐだけ・・・まずはリングに炎を灯す練習だ」

その瞬間、5人が全員『無双リング』に炎を灯す！

無魁双壺「（何！・・・こんなに早くっていうか1秒もしてないのに全員がリングに炎を灯すなんて・・・これがこいつらの覚悟か・・・これならミルフィオーレを倒せるかもしれない）」

双壺は5人の覚悟に希望を感じていた

第13話 北郷一刀VS死神のクロス（後書き）

キャラクター説明

馬超：真名は翠、武器は十文字槍の銀閃。馬騰を殺された恨みから華琳に挑むも、鈴々に阻まれ未遂に終わる。その後、春蘭から父の死が深酒が原因で落馬した事故死であるとの真相を聞かされて一度は激昂するが、春蘭が武器を構えた際の心気から真実だと悟り復讐を止めた。

黄忠：真名は紫苑、武器は大弓の颯鵬。未亡人だが、城主ではなく一村民として璃々と共に暮らしていた。しかし、買物に出かけた際に偽劉備が璃々を攫い、彼女を人質に婿入りしてくる領主の息子の暗殺を依頼される。だが、小蓮の一件で達人級の弓の腕を知っていた愛紗が町の噂話から暗殺を看破して阻止。事情を知った愛紗達と朱里の策略により無事に璃々も助け出される。

用語説明

10年バズーカ：ボヴィーノファミリー秘伝のバズーカ。武器と言っても殺傷能力はなく、撃たれた者は5分間だけ10年後の自分と入れ代わるといふ、一種の転送型タイムマシン。

紫鎌：黒鎌のあとに作られた巨大な鎌型匣兵器。鋭い刃で敵を切り裂く。

雨死神：雨属性の死神型匣兵器。クロスはピオツジャと呼んでいる。

性質による雨の鎮静で空間の時間を遅くする。

雨時界^{うじかい}：一つの空間に大量の水を噴出し、時の流れを遅くする。

雨の炎：青色の炎を灯し、性質は鎮静。

第14話 無双リングに選ばれし者達と新たな刺客

無双リングに炎を灯した乙女たち

張飛「ここからどうするのだ？」

無魁双竜「ああ、その炎を・・・こうやって匣に注ぐんだ」

鈴々は晴の炎を匣に注ぎ、匣が光りだす

張飛「何が出てくるか楽しみなのだ」

そうワクワクしつつも、匣から何かが射出した

無魁双竜「それがお前の匣兵器、晴熊」

張飛「何か強そうなのだ」

さらに翠と星も匣を開匣する

馬超「おお、これが私の・・・」

趙雲「うむ、まあまあですな」

無魁双竜「馬超のが雷馬、趙雲のが雨蝶だ」

だがもう匣を開匣してる者もいた

関羽「これは？」

黄忠「・・・」

無魁双竜「ああ、関羽は嵐鎖、黄忠のは雲カマキリ」

最後に双竜が匣を開匣！

無魁双竜「そして俺の匣は霧剣、ネツビア・スパダ」

守護者が匣を開匣・・・それを戦いながら見ていた一刀は

10年後の一刀「こんなに早く匣を開匣するなんて・・・この時代の覚悟恐るべし」

クロス「おやおや、無双リングに選ばれし者達が集結してしまったか・・・これは計算外」

クロスは一步後ろにさがる

10年後の一刀「逃げる気が!？」

クロス「逃げるんじゃないさ・・・ただそろそろ時間なんだ」

10年後の一刀「時間？」

クロス「ほら来た」

空間が霧に満たされ、霧の中から一人の男が現れた

無魁双竜「嘘だろ!何でコイツが!!!」

張飛「誰なのだ、このおじちゃん？」

鈴々は双竜に聞く

無魁双竜「ミルフィオーレの霧の六甲花、幻騎士だ」

10年後の一刀「噂では、その雲の六甲花と互角だと聞く」

幻騎士「・・・・・・・・・・・・・・・・」

雲と霧の六甲花が本格的に動き出す

第14話 無双リングに選ばれし者達と新たな刺客（後書き）

～キャラクター説明～

幻騎士^{げんきし}：ミルフィオーレファミリーのブラックスペル。霧の六弔花で霧のマーレリング所持者。白蘭が入江のサポートのために並盛に向かわせた四刀流の剣の使い手。剣術と霧属性の匣「幻海牛」によって起こる幻術を組み合わせで戦う。ミルフィオーレ結成のきつかけを作ったとされ、は「ジツリヨネ口最大の裏切り者」と呼ぶとともに「この時代最強の剣士」と呼んでいる。

～用語説明～

無双匣^{むそうボックス}：一刀の祖父から受け取った匣。最初はただのガラクタとされていたが、北郷家の倉からリングと匣兵器についての本をみつけてから使い方が分かるようになった。

嵐鎖^{カテナ・テンベスタ}：関羽が使う嵐属性の無双匣兵器。鎖には嵐の炎が纏っている危険な匣。

雨蝶趙雲^{ファルファツレ・ディ・ヒオッジャ}が使う雨属性の無双匣兵器。華蝶仮面だけに蝶の匣。未来の趙雲はこの匣を7つ持っている。

雲蠅螂^{マンティス・ヌーヴォラ}：黄忠が使う雲属性の無双匣兵器。未来の黄忠は大弓と雲力マキリの体内で作られた矢で戦う。その矢にも雲の炎が帯びている。

晴熊^{オルコ・デル・セレーノ}：張飛が使う晴属性の無双匣兵器。鋭い鉤爪で敵を切り裂いて

攻撃する。鬼熊の前に作られた匣。

カウアッロ・フルミネ
雷馬：馬超^が使う雷属性の無双匣兵器。無双匣シリーズの中でも2番目に動きが速いと言われている。

ネッピア・スバダ
霧剣：無魁^が双舌^が使う霧属性の無双匣兵器。伸縮自在の見えない剣「幻想刀」とも呼ばれている。

嵐の炎：赤色の炎を灯し、性質は分解。

晴の炎：黄色の炎を灯し、性質は活性。

雷の炎：緑色の炎を灯し、性質は硬化。

霧の炎：藍色の炎を灯し、性質は構築。

第15話 衝撃な事実、聖フランチェスカ学園での北郷軍狩り

幻騎士「北郷軍霧の守護者、無魁双竜か？」

幻騎士は双竜が持っていた『霧剣』をみた

幻騎士「その剣は幻剣の前にケーニツヒが作った旧型匣か」

無魁双竜「そうだ、よく知ってるな……」

幻騎士「……………」

双竜と幻騎士は睨みあう

クロス「幻騎士の殺気も凄いが、あの霧の守護者も凄いな」

10年後の一刀「アンタもだろ……その雲属性の鎌に嵐属性の炎が混ざってる」

クロスは笑う

クロス「ハハハッ！よく気付いた……と言いたいがアレも気付いたか？」

10年後の一刀「うん、あれは!!」

一刀は上をみる……そこには

クロス「嵐死神、デス・テンペスタ」

10年後の一刀「(3個目の死神匣!)」

クロス「雲と雨の次は嵐でした……さて次に出てくる死神は何かな？」

10年後の一刀「お前、戦う気があるのか!」

一刀はクロスに怒鳴った！

クロス「フツ、実は最初から戦う気なんて無い」

10年後の一刀「何！？」

クロス「ここにいる俺達、六甲花と強襲部隊は囧だ」

幻騎士がクロスに近づく

無魁双竜「囧だと・・・一体どういう意味だ？」

クロス「・・・聖フランチエス力学園を知っているな」

10年後の一刀「俺が通った・・・学園」

クロス「そうだ、その学園は今現在・・・我々ミルフィオーレの攻撃を受けている」

一刀と双竜は沈黙する

無魁双竜「な、何だと・・・」

幻騎士「今頃、北郷軍狩りの真最中だろう」

関羽「北郷軍狩り？」

愛紗は北郷軍狩りの事を聞く

クロス「北郷軍狩りは北郷一刀に関わった者を消すんだよ」

10年後の一刀「お、お前らあー！」

一刀は完全に怒った

クロス「そう怒るな、気付いた時にはもう遅い」

その時、クロスの携帯に連絡が入る

クロス「こちらクロス・・・あ！白蘭様どうかされましたか？」

白蘭「もう聖フランチェスカ学園への攻撃作戦は終了したから幻ちやんと全強襲部隊を連れて戻ってくれる？」

クロス「わかりました・・・でわ後程ご連絡します」

クロスは携帯を切る

クロス「幻騎士、白蘭様より撤退命令がでた・・・全強襲部隊を連れて戻れとのこと」

幻騎士「でわもう・・・」

クロス「ああ、聖フランチェスカ学園への攻撃作戦は終了だ」

10年後の一刀「くっ・・・」

クロスは一刀の顔を見た

クロス「北郷一刀、お前にこの匣をやるよ・・・でわまた」

クロスと幻騎士は霧の中に消えた・・・もちろんクロスの死神や外で一刀を探している強襲部隊も・・・

第15話 衝撃な事実、聖フランチェスカ学園での北郷軍狩り（後書き）

（用語説明）

聖フランチェスカ学園：生徒の大半が裕福な家庭の娘という元お嬢様学園。広大な敷地の中には自然公園も設置されており、礼拝堂や剣道場、喫茶店等の施設も充実している。生徒のほとんどは学生寮生活を送っており、それぞれに個室が割り当てられている。

北郷軍狩り：北郷一刀と関わった者を消していく。

デス・テンペスタ

嵐死神：嵐属性の死神型匣兵器。クロスはテンペスタと呼んでいる。鎌には嵐の炎を帯びており、一度触れた者を分解する。

第16話 逆説の意味を持つ男

100名というA級の強襲部隊と雲の六弔花を恋姫十無双の世界に送り込んでから数時間が経つ

大道 要「・・・・・・・・・・・・・・・・」

要は小さい足音を耳にし、部屋の扉が開く

左慈「誰だ？」

扉の前で足音は止まる

大道 要「ようこそ、パラドックス」

左慈「知り合いか？」

大道 要「彼はZ・ONEの仲間だ」

左慈「コイツが？」

左慈はパラドックスをみる

大道 要「よし早速出番だ・・・この次元の扉を使つては異世界に行ってくれる」

パラドックス「異世界？」

大道 要「そう、目的地は魔法先生ネギまの世界」

パラドックス「その世界で何をすればいい？」

要は簡単に役目を言う

大道 要「ネギ・スプリングフィールドという少年の抹殺してほし

い」

パaddock「少年の抹殺？」

大道 要「歳はまだ10歳だけど天才の魔法少年だから一瞬でも気を抜いたら負けるよ……やってくれるね」

パaddock「わかった」

パaddockはDホイールに乗って次元の扉に入っていく

左慈「奴に任せて良いのか？」

大道 要「ああ」

そのとき、次元の扉が光りだす

大道 要「ん？帰ってきたのか」

クロス「はい、聖フランチェスカ学園への攻撃作戦が終了したので」

幻騎士「……………」

幻騎士は再び霧の中へと姿を消した

大道 要「今の彼って霧の六甲花、幻騎士かい？」

クロス「そうです」

大道 要「ふうん……………幻騎士か……………」

要とクロスは幻騎士の霧を眺めた

第16話 逆説の意味を持つ男（後書き）

〈キャラクター説明〉

パラドックス：未来からやって来たデュエリスト。自身の住む未来では世界が崩壊しており、その原因がネギ・スプリングフィールドにあると考えたため、ネギの存在を消去しようと企む。その名は「逆説」の意味を持つ。遊戯・十代・遊星のそれぞれの時代で奪ったモンスターを変化させた「Sin」と名のついたカードを使用する。巨大なD・ホイールに乗り、変形させて浮遊することも可能である。

ネギ・スプリングフィールド：イギリスのウェールズ出身。メルデアイナ魔法学校を首席で卒業、最終課題で日本の学校の「先生」になることに。平成14年度の3学期に麻帆良学園に赴任、友人の教師に代わり、教育実習生として女子中等部2-Aの担任となる。平成15年度に正式採用となり持ち上がりで3-A担任となった。

〈用語説明〉

異世界^{いせかい}：別世界のことを言う。

Dホイール：デュエルディスクの発展系であるオートバイ型のデュエルマシン。形状・性能には個体差がある。本体の他に、バイザーに場のモンスターのステータスが表示されるヘルメットと、デッキホルダー及び手札ホルダーを備え、左腕に装備するデバイスで構成される。

第17話 魔法先生ネギまの世界、ネギを狙う挑戦者

ここは魔法世界の闘技場、そこでは何万人もの観客が戦いを観戦していた

ナギ? 「はあ!」

覆面男 「うわあ!」

覆面男はナギ?の魔法に当たって敗北

司会者 「またまたナギさんの勝利です・・・さて次にナギさんと戦う挑戦者はいませんか?」

パラドックス 「なら次は私が相手だ」

次元の扉からパラドックスがDホイールに乗って現れた

司会者 「いきなり現れました!彼がナギさんの挑戦者なのでしょう
か」

ナギ? 「アナタが僕の相手ですか?」

パラドックス 「その前に一つ聞くが・・・お前がネギ・スプリング
フィールドか?」

パラドックスはナギ?に問う

ナギ? 「ち、違います・・・僕はナギ・スプリングフィールドです
!」

ナギ?は自分がナギ・スプリングフィールドだと言いきる

パドックス「そうか……なら私も問いに答えよう……私
はお前の挑戦者だ」

司会者「あの、挑戦者なら……まずお名前を……」

パドックスは司会者からマイクを取る

パドックス「私の名はパドックス、未来からネギ・スプリング
フィールドの抹殺に来た」

ナギ? 「（僕の抹殺!）」

パドックス「そして抹殺した後、この世界はNEVERが手に入
れる」

ナギ? 「世界を手に入れるだって!？」

観客がパドックスの驚きの発言で騒ぎ始めた

パドックス「この世界を手に入れる為にネギ・スプリングフィー
ルドは邪魔だと判断されたのだ……だから……ここで抹殺する」

パドックスがDホイールからデュエルディスクを取り出しつつも
右腕に装着しデッキをセットした

第17話 魔法先生ネギまの世界、ネギを狙う挑戦者（後書き）

～キャラクター説明～

ナギ？：ネギ・スプリングフィールドが魔法で成長した姿。名前は父親のナギ・スプリングフィールドとしている。

司会者しかいしゃ：会の進行をする人。

覆面男ふくめんおとこ：パラドックスが来る前にナギ？に挑んだ挑戦者。

～用語説明～

魔法先生ネギまの世界まほうせんせい：魔法使いの少年、ネギが31人の女子中学生のクラスの担任となる世界。

闘技場たうぎじやう：力や技の優劣を争う場所。

デュエルディスク：一般的にデュエルを行う際に使われる小型の立体映像発生装置立体映像発生装置。デュエルの際は左腕に装着する。形状は主にデッキホルダー、墓地、ライフポイント等の表示を担う円盤状の本体部分と、カードをプレイする為のプレート部分から成るが、細かいデザインは個々によって様々。

デッキ：モンスターカード、魔法カード、罠カードを計40枚合わせて作られた山札。

第18話 Sin World

パラドックスはデュエルディスクを右腕に装着しデッキをセットした

ナギ? 「一体、何をする気ですか?」

パラドックス 「戦う前に少し場所を変える……デッキからインフィニティ・ワールドを墓地に送りフィールド魔法、Sin Worldを発動!」

闘技場が灰色の空間に吸い込まれる

ナギ? 「ここは?」

ナギ? は辺りを見わたす

パラドックス 「ここはSin Worldの中だ」

ナギ? 「一体どうなって……」

パラドックス 「さて殺す前に一つだけ正直に答える……お前はネギ・スプリングフィールドだな?」

ナギ? 「……いえ、僕はナギ・スプリングフィールドです……」

パラドックス に自分がナギ・スプリングフィールドだと再び言いきる

パラドックス 「そうか……なら、スターダスト・ドラゴンを召喚!」

パラドックス がスターダスト・ドラゴンを召喚

ナギ? 「ドラゴン! ?」

突然、目の前にドラゴンが現れナギ? は驚き

パラドックス「殺れ、シューティング・ソニック! 」

シューティング・ソニック : 口から強烈なブレスを吐き出して
攻撃する

ナギ? 「うわっ! 」

ナギ? はスターダスト・ドラゴンのシューティング・ソニックを回避した

パラドックス「避けたか・・・だが次は当てる」

ナギ? 「く・・・でわ僕からの質問です・・・アナタの本当の目的は何ですか? 」

パラドックス「・・・歴史を放って置けば、この魔法世界、ムンドウス・マギクスは滅びる・・・私はその絶望的な未来を変える為にここに来た」

何の事だかわからないナギ?

ナギ? 「この世界が滅びる? 」

パラドックス「話しは終わりだ・・・でわ死んでもらう」

『ビキッ』割れる音が空間に響く

パラドックス「うん、何の音だ? 」

パラドックスが空間を見わたす・・・そして気付いた

パ
ラ
ド
ッ
ク
ス
「
何
！
S
i
n
 W
o
r
l
d
に
割
れ
目
が
で
き
る
だ
と
！
！
」

闘技場にできた灰色の空間が崩れ去る

第18話 Sin World（後書き）

（用語説明）

△ンドゥス・マギクス

魔法世界：人間世界とはわずかに位相を異にする異界である。火星の大地を触媒にして、その上に重なり合うように存在する幻想世界と推測されている。数千年にわたって人間世界とは全く異なった道を歩んでいた。総人口12億人の魔法使いが存在していて、いくつかの国に分かれている。

Sin World：フィールド魔法。

「Sin」と名の付いたモンスターを特殊召喚または維持するために必要とされる。デッキから「インフィニティ・ワールド」を墓地に送らなければ発動できない。自身のドローフェイズをスキップする代わりに、デッキから「Sin」と名の付いたカード1枚をランダムに手札に加える。また、このカードの発動中に敗北したデュエリストは死に至る。（Sin Worldを少し強化したカード）

インフィニティ・ワールド：フィールド魔法。このカードは破壊されない。さらに自分のモンスターの攻守を500上げる。また、敗北したデュエリストは死に至る。

スターダスト・ドラゴン：星8/風属性/ドラゴン族/攻2500/守2000

不動遊星のエースカード。フィールド上のカードを破壊する効果が発動した時、このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する事ができる。また、この効果を発動したターンのエンドフェイズ時、この効果でリリースされ墓地に存在するこのカードを、自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

シューティング・ソニック：スターダスト・ドラゴンの攻撃名。口から強烈なブレスを吐き出して攻撃する。

第19話 3体のドラゴン

闘技場にできた灰色の空間が崩れた

パラドックス「Sin Worldの結界が破壊された！一体何者だ？」

煙の中から長い髪の女性が走ってくる

絡繰茶々丸「ご無事ですか？ネギ先生」

パラドックス「（ネギ！やはりそうか……）」

パラドックスはナギ？を観察

ナギ？「茶々丸さん！」

パラドックス「お前はアンドロイドだな？そうか……なら話が早い……Sin Worldが崩れたのは外から魔法弾を撃ったからだ」

茶々丸はパラドックスをみる

絡繰茶々丸「異世界の者がネギ先生に手を出すな」

パラドックスに殺気をみせる茶々丸

パラドックス「私と殺りあう気か？良いだろう、まずはアンドロイドの方から消してくれる……現れる！究極宝玉神レインボー・ドラゴン！！サイバー・エンド・ドラゴン！！！！」

パラドックスが究極宝玉神レインボー・ドラゴン&サイバー・エンド・ドラゴンを召喚

ナギ? 「ドラゴンが3体! ?」

観客がドラゴンをみて驚く

パラドックス「行け、スターダストのシューティング・ソニック! レインボー・ドラゴンのオーバー・ザ・レインボー!! サイバー・エンドのエターナルエボリューションバースト!!!」

シューティング・ソニック : 「第18話 Sin Wor
ld」に説明されている

オーバー・ザ・レインボー : 口から七色のブレスを吐く
エターナルエボリューションバースト : 三つの口から一斉に、
光線を発射して敵を粉碎する

絡繰茶々丸「ネギ先生、逃げてくだ……」
ナギ? 「茶々丸……」

その時、観客席から声がする

? ? ? 「手札から速攻のかかしの効果を発動、相手モンスターの直接攻撃宣言時、このカードを手札から墓地に捨てることでその攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する!

3体のドラゴンの攻撃を防いだ

パラドックス「うん、お前たちは……不動遊星に遊城十代……
そして武藤遊戯!!!」

不動遊星「パラドックス、デュエルだ！決着をつけよう！」

突然観客の中から3人が闘技場に姿を現す、それは各時代での歴戦のデュエリストだ

第19話 3体のドラゴン（後書き）

～キャラクター説明～

絡繰 茶々丸：麻帆良学園中等部3 - Aの生徒で、出席番号は10番。エヴァンジェリンとはドール契約を、ネギとは仮契約を交わしたミニステル・マギで、ガイノイドタイプのロボットである。

～用語説明～

アンドロイド：高い知性をもつ人間型ロボット。

マジックフレット
魔法弾：魔力を込められた弾

究極宝玉神レインボー・ドラゴン：星10 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻4000 / 守0

ヨハン・アンデルセンのエースカード。自分のフィールド上・墓地に「宝玉獣」と名のついたカードが合計7種類存在する場合のみ特殊召喚する事ができる。

オーバー・ザ・レインボー：究極宝玉神レインボー・ドラゴンの攻撃名。口から七色のブレスを吐く。

サイバー・エンド・ドラゴン：星10 / 光属性 / 機械族 / 攻4000 / 守2800

丸藤亮のエースカード。効果は「守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていればその数値だけ戦闘ダメージを与

える」という永続効果。外見は3つの首を持つサイバー・ドラゴン。

エターナルエボリューションバースト：サイバー・エンド・ドラゴンの攻撃名。三つの口から一斉に、光線を発射して敵を粉碎する。

速攻のかかし：星1/地属性/機械族/攻0/守0

相手モンスターの直接攻撃宣言時、このカードを手札から捨てて発動する。

その攻撃を無効にし、バトルフェイズを終了する。

第20話 パラドックスの目的

観客の中から3人のデュエリストが闘技場へと現れる

パラドックス「ほう、キング・オブ・デュエリストが揃っていると
はな」

武藤遊戯「どうしてその子を殺そうとするんだ！」

十代が言う『どうして』に反応するように

パラドックス「どうして？ふん、よかるう・・・私は時空を越え最善の世界を探し求める者・・・世界中のあらゆる可能性を検証し、それを実行する」

不動遊星「最善の世界だと!？」

遊城十代「貴様がやろうとすることは、ただの殺しだ!」

武藤遊戯「その子を犠牲にすることが、正しいことだって言うの?」

さらにパラドックスは言う

パラドックス「殺しに犠牲?ふっ・・・そうか、君達にはそう見えるか・・・だがそれは違う・・・正しいと思える世界が間違っている、一見間違っていると思える世界こそが正しい」

パラドックスは目を閉じる

パラドックス「考えてみるがいい、私が何もしていなくても既に世界は矛盾だらけではないか」

そして目を開く

パラドックス「環境破壊、世界紛争、人間同士の差別・・・まさにこれら全て殺しや犠牲でわないかね？この未だ解決できない人類の悪行を君達は一切どう説明する」

不動遊星「すぐにはできなくても、いつか人は解決してみせる！」

パラドックス「その答えはナンセンスだ」

遊星は言う

不動遊星「だが俺達は壊滅した街を・・・」

パラドックス「復興してきた・・・サテライトとシティを一つにしてきた・・・そんなことは百も承知なのだよ、不動遊星・・・私は時のあらゆるデータを分析し、ネギ・スプリングフィールドには不思議な力があることを突き止めた・・・そしてその世界に手を加えることを思いついたのだ」

不動遊星「世界を変えるだとか？そのためにその子を殺そうというのか！」

再び目を閉じるパラドックス

パラドックス「そんな小さな犠牲など、この偉大な実験のつまらぬ一過程に過ぎない」

遊城十代「つまらぬ一過程だ」と！

武藤遊戯「だれにでも、自分の世界を生きる権利はあるはずだよ！」

不動遊星「人には、世界を変える力がある！俺はそれを信じる！！」

闘技場に笑う声が響く

パラドックス「フツ、面白い・・・どんな絶望的な世界をも跳ね返す力がお前達にあるというなら、それを証明して見せろ」

不動遊星「この世界を、好きにはさせない！」

パラドックス「良からう、君たちの信じるデュエルモンスターズでネギ・スプリングフィールドを抹殺してくれる」

スターダスト・ドラゴン&究極宝玉神レインボー・ドラゴン&サイバー・エンド・ドラゴンの3体をデッキに戻す

遊城十代「お前をぶっ倒すことに、ワクワクしてきたぜ！」

十代の目の色が赤と青に変わる

闇遊戯「（相棒、ここは俺に任せてくれないか？）」

闇の遊戯が話しかけた

武藤遊戯「もう一人の僕……うん」

遊戯の首かかっていた千年パズルが光りだし、遊戯の様子が変わる

闇遊戯「俺は人の命を犠牲にする世界など認めない！」

遊戯&十代&遊星「行くぞ！デュエル！！」

3人のキング・オブ・デュエリストがパラドックスとのデュエルに挑む

第20話 パラドックスの目的（後書き）

～キャラクター説明～

武藤 遊戯：伝説のデュエリスト。遊星の時代では「ファラオの魂が宿っていた」とも言われている。

闇遊戯：遊戯の闇の人格。

遊城 十代：精霊の力を操るデュエリスト。歴史の歪みによって起きた怪現象を調べており、その過程でパラドックスに追いつめられるも遊星に助けられる。

不動 遊星：赤き竜のシグナー。パラドックスにスターダスト・ドラゴンを奪われ、赤き竜の導きにより十代と遊戯の時代に現れた。

～用語説明～

キング・オブ・デュエリスト：遊戯・十代・遊星のことを言う。

デュエルモンスターズ：インダストリアル・イリユージョン社名誉会長のペガサス・J・クロフォードが古代エジプトの遺跡にあった石版を元に作り出したカードゲーム。

千年パズル：誰も解いたことのないパズル。多くのピースを組み合わせる立体型のパズルで、完成すると四角錐を逆さにした形になる。

サテライト：ネオ童実野シティの最下層。地区ごとにアルファベツトがふられている。

シティ：ネオ童実野シティの上層。街の中心部には高層ビルが立ち並び、高度な技術が発達したことによって人々の生活は快適になっている。

第21話 不動遊星VSパラドックス（前書き）

第1話から第20話までの「キャラクター説明」と「用語説明」の編集を

1週間かかって、やっと投稿しました。

第21話 不動遊星VSパラドックス

十代&遊星&遊戯のLPは3人で4000、パラドックスのLPも4000

パラドックス「私の先攻」

パラドックスが先攻をとり、デッキからカードを1枚ドロ

パラドックス「私はデッキからインフィニティ・ワールドを墓地に送り・・・フィールド魔法、罪深き世界『Sin World』を発動する」

デュエルディスクから黒い光が放たれ、闘技場が再び灰色の空間へと変わる

不動遊星「Sin World？」

遊星、十代、遊戯は辺りを見渡す

パラドックス「このカードがある限り、私はドロフェイズにドロしない代わりに『Sin』と名のつくモンスターをデッキからランダムに手札に加えることができる」

サイバー・エンド・ドラゴンを墓地に送る

パラドックス「私はエクストラデッキのサイバー・エンド・ドラゴンを墓地に送り・・・現れる、Sinサイバー・エンド・ドラゴン！」

S i nサイバー・エンド・ドラゴンが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル10でATK4000

不動遊星「エクストラデッキのモンスターを直接墓地に!？」

パラドックス「S i nシリーズは対になるモンスターを墓地に送ることでモンスターを特殊召喚できるのだ」

いきなりの攻撃力4000のS i nサイバー・エンド・ドラゴンの召喚に遊星たちは

不動遊星「攻撃力4000のモンスターがいきなり出現とは」

遊城十代「本来ならサイバー・エンドの召喚には融合カードが必要
なはず」

闇遊戯「対となるモンスターを生贄にすることで生まれる、S i n
モンスター・・・光と闇・・・これは闇のエネルギーということな
のか？」

カードを1枚伏せるパラドックス

パラドックス「先攻は最初のターン、攻撃はできない・・・私はカ
ードを1枚伏せターンエンド・・・さあ、お前たちのターンだ」

次は遊星のターン

不動遊星「十代さん・・・遊戯さん、俺から行かせて下さい・・・
・奴はあらゆる時代からモンスターを奪い世界を滅ぼす道具にして
いる・・・そして俺のスターダスト・ドラゴンも奴に利用され町を
破壊し歴史を狂わせている、俺は各時代の人々や俺たちの町、大切
な仲間を護る為にこのデュエル・・・もてる力の全てをだして戦い

たいんです」

十代と遊戯は頷く

闇遊戯「うん、分かったぜ遊星・・・その熱い気持ちを奴にぶつけてやるんだ」

不動遊星「はい！俺のターン！！」

遊星はデッキから1枚ドロウする

不動遊星「魔法カード、希望の転生を発動！手札のモンスター2枚を墓地に送り」

墓地にボルト・ヘッジホッグとロードランナーが送られる

不動遊星「2ターン目の自分たちのスタンバイ・フェイズにデッキからモンスター1枚を手札に加える・・・俺はジャンク・シンクロンを召喚！！」

ジャンク・シンクロンが攻撃表示で召喚・・・レベル3でATK1300

不動遊星「このカードが召喚に成功したとき、墓地のレベル2以下のモンスターを特殊召喚する！」

墓地からロードランナーを守備表示で特殊召喚・・・レベル1でDEF300

不動遊星「さらに墓地のボルト・ヘッジホッグの効果を発動！フィールドにチューナーがいるとき、このカードを特殊召喚！！」

墓地からボルト・ヘッジホッグを攻撃表示で特殊召喚・・・レベル2でATK800

不動遊星「レベル1のロードランナーとレベル2のボルト・ヘッジホッグにレベル3のジャンク・シンクロンをチューニング！疾風の使者に鋼の願いが集う時、その願いは鉄壁の盾となる！！光差す道となれ！！！」

ロードランナーとボルト・ヘッジホッグにジャンク・シンクロンがシンクロ

不動遊星「シンクロ召喚！現れる、ジャンク・ガードナー！！」

ジャンク・ガードナーが守備表示で特殊召喚・・・レベル6でDEF2600

闇遊戯「シンクロ召喚！？」

遊城十代「すげえ技を使うぜ、遊星！」

二人は初めてみるシンクロ召喚に興奮する

不動遊星「俺はカードを2枚伏せターンエンド」

カードを2枚伏せる遊星・・・そして再びパラドックスのターンがくる

第21話 不動遊星VSパラドックス（後書き）

（用語説明）

ライフポイント

LP：デュエルをするときに計算されるポイント。このLPが0になるとデュエルは負けとなる。

ジャンク・シンクロン：星3 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1300 / 守500

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する。レベル2以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

ボルト・ヘッジホッグ：星2 / 地属性 / 機械族 / 攻800 / 守800
自分フィールド上にチューナーが表側表示で存在する場合、このカードを墓地から特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚したこのカードはフィールド上から離れた場合、ゲームから除外される。

ロードランナー：星1 / 地属性 / 鳥獣族 / 攻300 / 守300
このカードは攻撃力1900以上のモンスターとの戦闘では破壊されない。

Sinサイバー・エンド・ドラゴン：
星10 / 闇属性 / 機械族 / 攻4000 / 守2800
エクストラデッキの「サイバー・エンド・ドラゴン」を墓地に送った場合のみ特殊召喚できる。「Sin」モンスター特有のデメリッシュに加え、元となった「サイバー・エンド・ドラゴン」と同じ貫通効果を持つ。羽と頭部に黒の鎧が装着されている。

ジャンク・ガードナー：星6/地属性/戦士族/攻1400/守2600

「ジャンク・シンクロン」とチューナー以外のモンスター1体以上でシンクロ召喚できる。相手の攻撃宣言時にその攻撃モンスター1体を守備表示に変更できる効果と、破壊された時に相手モンスター1体を守備表示できる効果を持つ。

きぼう てんせい
希望の転生：通常魔法。自分の手札を2枚墓地に送ることで、2ターン後の自分のスタンバイフェイズにデッキからモンスターカード1枚を手札に加える。

シンクロ召喚：チューナーモンスターとチューナー以外のモンスターを墓地へ送ることで、エクストラデッキからレベルの合計が一致する「シンクロモンスター」を特殊召喚できる。

エクストラデッキ：融合モンスターやシンクロモンスターで纏められた15枚のデッキ。

マジック
魔法カード：基本的に自分のメインフェイズで使うことのできるカードで、さまざまな効果で自分の戦いをサポートする。

第22話 遊城十代VSパドックス

パドックスのターン

パドックス「残念だが、その程度のモンスターでは私のSinサイバー・エンドの足元にも及ばない・・・スターダスト・ドラゴンを失った君は所詮私の敵ではない」

不動遊星「くっ」

パドックス「私のターン、君たちに面白い物を見せてやろう」

究極宝玉神レインボー・ドラゴンを墓地に送る

パドックス「私はデッキの究極宝玉神レインボー・ドラゴンを墓地に送り、Sinレインボー・ドラゴンを特殊召喚！」

Sinレインボー・ドラゴンが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル1
0でATK4000

遊城十代「貴様！よくもヨハンのカードを！！」

パドックス「私のデッキはあらゆる時代から最強カードを集めた別次元の領域、その力の前に消えるがいい・・・Sinレインボー・ドラゴン、オーバー・ザ・レインボー！」

オーバー・ザ・レインボー：『第19話 3体のドラゴン』に説明されている

不動遊星「ジャンク・ガードナーの効果発動！このカードは相手のターンに1度、攻撃したモンスターを守備表示にできる」

Sinレインボー・ドラゴンが攻撃表示から守備表示に変更される・
・DEF0

パドックス「防いだか、だがSinサイバー・エンドの攻撃が残っている・・・うけてみる！エターナルエボリューションバースト
！！」

エターナルエボリューションバースト：『第19話 3体のドラゴン』に説明されている

不動遊星「うわっ！」

ジャンク・ガードナーが破壊され、遊星は爆風で吹っ飛んだ

闇遊戯「遊星！」

遊城十代「大丈夫か？」

不動遊星「大丈夫です」

遊星たちのLP4000が2600に下がる

パドックス「このSin Worldのデュエルではライフが0になると同時に死を迎える」

遊星は立ち上がる

不動遊星「ジャンク・ガードナーの新たな効果を発動！このカードが破壊されたとき、相手モンスター1体を守備表示にする」

Sinサイバー・エンド・ドラゴンが攻撃表示から守備表示に変更される・・・DEF2800

不動遊星「さらに罨発動、奇跡の残照！このターン、バトルで破壊されたモンスターを墓地から復活させる！！」

墓地からジャンク・ガードナーを守備表示で特殊召喚

不動遊星「はあ、すまないライフを大きく削られた」

闇遊戯「いいや、よくやったぜ」

遊城十代「攻撃力4000もある2体の攻撃を凌ぎきったんだ、上等だぜ」

不動遊星「遊戯さん、十代さん」

闇遊戯「奴のデッキは途方もなく強力かもしれない、だが俺たちの力を合わせれば・・・きつと倒せる！」

遊星と十代は頷いた

パラドックス「敗北の決まった未来を前にどこまでも足掻くか・・・面白い、これこそが人間の矛盾」

またカードを1枚伏せるパラドックス

パラドックス「私はカードを1枚伏せターンエンド」

次は十代のターン

遊城十代「行くぜ、俺のHEROデッキの力を見せてやる！」

十代はデッキから1枚ドロースする

遊城十代「俺のターン、遊星・・・お前の力をかりるぜ」

遊星は小さく頷く

遊城十代「魔法カード、融合！フィールドのジャンク・ガードナーと手札のE・HEROネオスを融合する！！」

ジャンク・ガードナーとE・HEROネオスが融合

遊城十代「遊星・・・これが俺と君の力を合わせた『NEW HERO』だ！現れる、E・HEROネオス・ナイト」

E・HEROネオス・ナイトが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル7でATK2500

遊城十代「ネオス・ナイトはネオスと融合させた戦士族モンスターの攻撃力の半分、攻撃力をアップする」

E・HEROネオス・ナイトの攻撃力がATK2500から3200に上がる

遊城十代「行け、ネオス・ナイト！ラス・オブ・ネオス・スラッシュユー！！」

ラス・オブ・ネオス・スラッシュ：手に持った剣を振るって攻撃をおこなう

パラドックス「うつ・・・」

Sinサイバー・エンド・ドラゴンが破壊され

遊城十代「ネオス・ナイトの効果、ネオス・ナイトは1度のバトルで2度の攻撃ができる・・・行け！」

パラドックス「何!？」

Sinレインボー・ドラゴンも破壊された

パラドックス「うつ・・・」

遊城十代「やったぜ！」

十代が喜ぶと同時にユベルという精霊が現れる

ユベル「流石だな、強力モンスターを2体とも破壊するとわ」

遊城十代「へへっ」

微笑む十代

パラドックス「調子に乗るなよ十代、この瞬間私の罠が発動する・・・Sin Tune! Sinと名のつくモンスターが破壊されたとき、デッキからカードを2枚ドロウする」

パラドックスがSin Tuneの効果でデッキから2枚ドロウする

遊城十代「ならば、手札を全て伏せてターンエンド」

カードを4枚伏せる十代

闇遊戯「思いきった戦術だ・・・十代、君は全く破天荒なデュエリストだな」

遊城十代「俺はアナタと遊星を信じる、だから力の出し惜しみは無しです」

闇遊戯「ああ、俺たち3人の最強コンビネーションを見せてやろうぜ」

遊戯と十代の会話を聞いている遊星は

不動遊星「（流石だ、二人はこの強敵を相手にデュエルを楽しんでいる）」

3回目のパラドックスのターンがくる

第22話 遊城十代VSパラドックス（後書き）

～キャラクター説明～

ヨハン・アンデルセン：アーケティック校チャンピオンの3年生。遊城十と同じくカードの精霊が見え、「宝玉獣」に選ばれた少年。宝玉獣デッキを使用。ペガサス・J・クロフォードにとって5本の指に入るデュエリストの内の一人。十代をかけがえのない親友だと思っている。

ユベル：かつて十代が所有したカードの精霊。

～用語説明～

エレメンタリーロー

E・HEROネオス：星7/光属性/戦士族/攻2500/守2000

ネオスペースからやってきた新たなE・HERO。ネオスペースインとコンタクト融合することで、未知なる力を発揮する。

エレメンタリーロー

E・HEROネオス・ナイト：星7/光属性/戦士族/攻2500/守1000

融合素材にした戦士族モンスターの攻撃力の半分攻撃力がアップする効果と、2回攻撃が出来る効果を持つ。

ラス・オブ・ネオス・スラッシュ：E・HEROネオス・ナイトの攻撃名。手に持った剣を振るって攻撃をおこなう。

Sinレインボー・ドラゴン：星10 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻4
000 / 守0

デッキの「究極宝玉神 レインボー・ドラゴン」を墓地に送った場合のみ特殊召喚できる。頭部と翼に鎧が付いている。元となったモンスターが持つ1つ目の効果は「宝玉獣」からこのカード以外のモンスターとなり、2つ目の効果は「宝玉獣」かた「Sin」に置き換えられている。

シン チューン
Sin Tune：通常罫。レベル7以上の「Sin」と名のついたモンスターが戦闘破壊された時に発動する事ができ、デッキからカードを2枚ドローする効果を持つ。

奇跡の残照：通常罫。このターン戦闘によって破壊され自分の墓地へ送られたモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを墓地から特殊召喚する。

融合：通常魔法。手札・自分フィールド上から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モンスターを墓地へ送り、その融合モンスター1体をエクストラデッキから特殊召喚する。

罫カード：罫カードは魔法カードと同じくさまざまな効果で戦いをサポートします。しかし、魔法との大きな違いは、相手ターンに効果を発動できる点です。魔法カードが攻撃的な効果が多いのに対し、罫カードは妨害、不意打ちといった効果が多いのも特徴です。

最強コンビネーション：遊戯・十代・遊星の組み合わせ。

第23話 武藤遊戯VSパラドックス

3回目のパラドックスのターン

パラドックス「私のターン、私はドローしない代わりにS i nと名のつくモンスターをランダムに手札に加える」

パラドックスのデュエルディスクがデッキをシャッフルし「S i n」モンスターをランダムに一枚デッキの一番上に置きドローする

パラドックス「ハッハッハッ！、これで私の手札に勝利のキーカードが揃った・・・君たちの希望はここまでのようだ」

スターダスト・ドラゴンを墓地に送る

パラドックス「私はエクストラデッキからスターダスト・ドラゴンを墓地に送り・・・現れる、S i nスターダスト・ドラゴン！」

S i nスターダスト・ドラゴンが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル8でATK2500

不動遊星「スターダスト・・・よくもスターダスト・ドラゴンをこんな姿に！」

パラドックス「スターダスト・ドラゴンの力、私が存分に発揮してやる・・・S i nパラレル・ギアを召喚」

S i nパラレル・ギアが攻撃表示で召喚・・・レベル2でATK0
パラドックス「S i nスターダスト・ドラゴンにS i nパラレル・

ギアをチューニング！」

不動遊星「何！？」

パラドックス「シンクロ召喚できるのは君だけでは無いのだよ・・・
次元の狭間より現れし闇よ、時空を越えた舞台に破滅の幕を引け！
！」

S i n スターダスト・ドラゴンにS i n パラレル・ギアがシンクロ

パラドックス「シンクロ召喚！S i n パラドックス・ドラゴン！！」

S i n パラドックス・ドラゴンが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル1
0でATK4000

遊城十代「でけえ」

3人はS i n パラドックス・ドラゴンの大きさに驚く

パラドックス「S i n パラドックス・ドラゴンの効果発動！シンクロ
召喚に成功したとき、墓地のシンクロモンスターを召喚条件を無視
して復活させる・・・蘇れ、スターダスト・ドラゴン！」

墓地からスターダスト・ドラゴンを攻撃表示で特殊召喚・・・レベ
ル8でATK2500

不動遊星「スターダスト・ドラゴン」

パラドックス「S i n パラドックス・ドラゴンは復活させたモンス
ターの攻撃力分、お前たちのモンスターの攻撃力を下げる・・・呪い
をつけよ、ネオス・ナイト！」

E・HEROネオス・ナイトの攻撃力がATK3200から700

に下がる

遊城十代「ネオス・ナイト!」

パラドックス「さらばだ・・・歴戦のデュエリストたちよ・・・Sin
パラドクス・ドラゴン、ネオス・ナイトを破壊しろ!」

Sinパラドクス・ドラゴンの攻撃に対し十代は

ユベル「避ける十代」

遊城十代「分かってるって、罠発動!ヒーローバリア!フィールドにE・HEROがいるとき攻撃を一度だけ無効にする」

ヒーローバリアがE・HEROネオス・ナイトの破壊を防いだ

闇遊戯「上手い!」

不動遊星「よし!」

パラドックス「小賢しい真似を!罠発動、Sin Claw Stream!Sinと名のつくシンクロモンスターがフィールドにいるとき、相手のモンスター1体を破壊する」

パラドックスがSin Claw Streamの効果でネオス・ナイトを破壊する

遊城十代「だがこの瞬間、俺の罠も発動!エレメンタル・ミラージュ!フィールドのE・HEROが効果で破壊されたとき・・・そのモンスターを復活させる・・・蘇れ、ネオス・ナイト!!!」

墓地からE・HEROネオス・ナイトを攻撃表示で特殊召喚

闇遊戯「上手いぞ十代!」

遊城十代「遊戯さんに渡すのにフィールドがから空きなんてシャレにならないぜ」

闇遊戯「ああ、十代！君の闘志は俺が受け継ぐ」

パラドックス「例え何度モンスターを復活させようと無駄だ、私のスターダスト・ドラゴンがいる限りSinパラドックス・ドラゴンの効果により君たちのモンスターの攻撃力はスターダスト・ドラゴンの攻撃力分ダウンする」

E・HEROネオス・ナイトの攻撃力がATK0に下がる

不動遊星「スターダスト・ドラゴン」

闇遊戯「遊星、君のスターダスト・ドラゴンは俺が必ず取り戻してみせる」

不動遊星「遊戯さん」

パラドックス「私はカードを2枚伏せ、ターンエンド」

次は遊戯のターン

闇遊戯「行くぞ、パラドックス！俺のターン！！」

遊戯はデッキから1枚ドロウする

パラドックス「来るがいい、名もなきファラオの魂よ」

不動遊星「遊戯さん、俺の力を使ってくれ！」

闇遊戯「ああ、希望の転生の効果でデッキからモンスターカードを一枚手札に加える」

デッキからモンスターを一枚手札に加える遊戯

闇遊戯「俺が選んだのはブラック・マジシャン！」

パラドックス「やはり、ブラック・マジシャンか」

闇遊戯「俺は魔法カード、古のルールを発動！手札からレベル5以上の通常モンスターを特殊召喚する・・・現れる、我が最強の下部！ブラック・マジシャン！！」

ブラック・マジシャンが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル7でATK2500

不動遊星「これが遊戯さんのエースカード、ブラック・マジシャン遊城十代「ブラマジ来たー！」

十代はブラック・マジシャンの召喚に興奮する

パラドックス「だがSinパラドクス・ドラゴンの効果は受けてもらっ」

ブラック・マジシャンの攻撃力がATK2500から0に下がる

不動遊星「遊戯さん、俺に構わず・・・スターダスト・ドラゴンを破壊してくれ」

闇遊戯「遊星」

不動遊星「このまま奴に利用されることをスターダストも望んではない」

遊星の目には覚悟があった

パラドックス「さあ、どうした・・・かかってこい」

闇遊戯「俺は手札から魔法カード、師弟の絆を発動！フィールドにブラック・マジシャンがいるとき、弟子であるブラック・マジシャン・ガールを守備表示で特殊召喚する！！」

ブラック・マジシャン・ガールが守備表示で特殊召喚・・・レベル6でDEF1700

BMG「お師匠様、なんだかすごい強そうですねんですけど」

ブラック・マジシャン「臆するな、私たちとマスターたちの力を合わせれば必ず勝てる」

BMG「はいっ！」

ブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールが会話し

闇遊戯「さらに俺は奇跡のマジックゲートを発動！自分のフィールドに魔法使い族が2体以上いるとき、相手のモンスターを守備表示にし・・・そのコントロールを得る」

Sinパラドクス・ドラゴンの前に奇跡のマジックゲートの手が現れる

パラドクス「小癪な・・・罨カード、Sin Forceを発動！このカードを装備したモンスターは相手の魔法効果をつけない・・・これで私のパラドクス・ドラゴンは奪えまい」
闇遊戯「だが、これで」

奇跡のマジックゲートの手がスターダスト・ドラゴンの前に移動し捕まえる

パラドクス「何？・・・ん！」

そして遊星たちのフィールドにスターダスト・ドラゴンが飛翔・・・さらにパラドクスのデュエルディスクに召喚されていたスターダ

スト・ドラゴンのカードが消える

闇遊戯「遊星、これで君のカードは取りかえしたぜ」

不動遊星「遊戯さん！」

遊城十代「最初からスターダストを奪いかえすつもりだったんですね」

闇遊戯「うん、これでSinパドクス・ドラゴンの効果は消え・
・俺たちのモンスターの攻撃力は元通りとなる」

ブラック・マジシャンとE・HEROネオス・ナイトの攻撃力はATKから2500に戻る

パドックス「やるな、遊戯・・だがいくら攻撃力を取り戻したところでパドクス・ドラゴンの攻撃力は4000、君たちのモンスターはの攻撃力ではほど遠い」

闇遊戯「それはどうかな」

パドックス「うん？」

闇遊戯「魔法カード、黒・魔・導・双・弾を発動！このターン、ブラック・マジシャンの攻撃力をブラック・マジシャン・ガールの攻撃力分だけアップさせる」

ブラック・マジシャンの攻撃力がATK2500から4500に上がる

パドックス「何！？」

闇遊戯「二人の攻撃力の合計は4500、お前のSinパドクス・ドラゴンの攻撃力をうわまわるぜ・・行け！ブラック・マジシャン、ブラック・マジシャン・ガール！！」

BMG「はい、お師匠様！」

ブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールは杖を合わせ

ブラック・マジシャン「ブラック」

B M G 「ツイン」

B M & B M G 「バースト!!」

S i n パラドクス・ドラゴンが破壊された

第23話 武藤遊戯VSパラドックス（後書き）

（用語説明）

Sin パラドクス・ドラゴン：星10 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻4000 / 守4000 「Sin」と名のついたチューナー+チューナー以外の「Sin」と名のついたモンスター1体以上でシンクロ召喚される。シンクロ召喚に成功した時に自分の墓地からドラゴン族のシンクロモンスター1体を召喚条件を無視して特殊召喚できる。また、相手フィールド上に存在するモンスターの攻撃力は、この効果で特殊召喚したシンクロモンスターが自分フィールド上に存在する限りその攻撃力分ダウンさせる効果を持つ。

Sin スターダスト・ドラゴン：星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

パラドックスが遊星から奪った「スターダスト・ドラゴン」から生み出したカード。頭部、羽、胴体、足に鎧が付いている。「スターダスト・ドラゴン」と同じ効果を持っている。

Sin パラレル・ギア：星2 / 闇属性 / 機械族 / 攻0 / 守0
パラドックスが使用したチューナー。

Sin クロウ ストリーム
Sin Claw Stream：通常罫。自分フィールド上に「Sin」と名のついたシンクロモンスターが表側表示で存在する時のみ発動でき、相手フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する効果を持つ。

Sin フォース
Sin Force：通常罫。自分フィールド上に存在する「Sin」と名のついたモンスターに装備され、装備モンスターが相手の

魔法カードの効果を受けなくなる効果を持つ。

ブラック・マジシャン：星7 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2500 / 守2100

魔法使いとしては、攻撃力・守備力ともに最高クラス。このカード名の略はB M。

ブラック・マジシャン・ガール：

星6 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻2000 / 守1700

お互いの墓地に存在する「ブラック・マジシャン」「マジシャン・オブ・ブラックカオス」1体につき、このカードの攻撃力は300ポイントアップする。このカード名の略はB M G。

師弟の絆^{きずな}：通常魔法。自分フィールド上に「ブラック・マジシャン」が表側表示で存在する時に発動することができる。デッキから「ブラック・マジシャン・ガール」を守備表示で特殊召喚する。

黒・魔・導^{ブラックツイン}・双^{バースト}・弾：通常魔法。自分フィールド上に「ブラック・マジシャン」と「ブラック・マジシャン・ガール」が表側表示で存在する時に発動することができる。このターンのエンドフェイズまで、自分フィールド上に表側表示で存在する「ブラック・マジシャン」の攻撃力は自分フィールド上に表側表示で存在する「ブラック・マジシャン・ガール」1体の攻撃力分アップする。

奇跡^{きせき}のマジックゲート：通常魔法。自分フィールド上に魔法使い族モンスター2体以上が表側表示で存在する時に発動できる。相手フィールド上に存在する表側表示モンスター1体のコントロールを得る。

エレメンタル・ミラーージュ：通常罫。自分フィールド上の「E・H

「E・R・O」と名のついたモンスターが相手のカードの効果によって破壊され墓地へ送られた時に発動する事ができる。このターンに破壊され墓地へ送られた「E・H・E・R・O」と名のついたモンスターを全て自分フィールド上に特殊召喚する。

ヒーローバリア：通常罠。自分フィールド上に「E・H・E・R・O」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、相手モンスターの攻撃を1度だけ無効にする。

古のルール：いにしえ通常魔法。自分の手札からレベル5以上の通常モンスター1体を特殊召喚する。

シャッフル：カードを混ぜ合わせる。

第24話 モンスターとの合体

Sinパラドクス・ドラゴンが破壊され、装備されていたSin Forceも破壊

パラドクス「うっ！」

パラドクスのLP4000が3500に下がる

不動遊星「やった！」

遊城十代「すっげえ！」

二人はブラック・マジシャンとブラック・マジシャン・ガールの攻撃がパラドクスに通ったことを喜ぶ

パラドクス「うううう・・・本当の勝負はこれからだ」

闇遊戯「諦める、お前の場には既にモンスターはいない！」

パラドクス「いや・・・まだだ・・・一見正しいように見えた今の攻撃・・・だがそれは、大いなる間違い」

パラドクスからドス黒いオーラが滲み出る

遊城十代「何だ？」

パラドクス「暴発動、Sin Paradigm Shift！ Sinパラドクス・ドラゴンが破壊されたとき、我が身を生贄としてライフを半分にすることでSinトウルース・ドラゴンを特殊召喚する！！」

遊戯&十代&遊星「あっ！」

モンスターとパラドックスが合体

パラドックス「うわああああ！」

S i n t ウルース・ドラゴンが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル1
2でATK5000

遊城十代「自分の姿をモンスターに変えやがった！」

不動遊星「攻撃力5000」

パラドックス「お前たちは、この私自らの手で抹殺してやる」

闇遊戯「くっ・・・俺はカードを2枚伏せ、ターンエンド」

カードを2枚伏せる遊戯

パラドックス「私のターン」

デッキから1枚ドローする

パラドックス「私はS i n S e l e c t o r を発動、S i n パ
ラレル・ギア、S i n サイバー・エンドを除外し・・・デッキか
ら2枚のカードを手札に加える」

S i n S e l e c t o r の効果でデッキから2枚のカードを手札
に加えた

パラドックス「さらにデッキから2体のモンスターを墓地に送り」

墓地に青眼の白龍と真紅眼の黒竜が送られる

パラドックス「現れろ、S i n 青眼の白龍！」

S i n青眼の白龍が攻撃表示で特殊召喚・・・レベル8でATK3000

パラドックス「S i n真紅眼の黒竜！」

S i n真紅眼の黒竜が攻撃表示で特殊召喚・・・レベル7でATK2400

闇遊戯「ブルーアイズにレッドアイズまで」

パラドックス「行け、黒炎弾！」

黒炎弾　：　口から火の玉を吐く

B M G「えっ!？」

S i n真紅眼の黒竜はブラック・マジシャン・ガールに攻撃する

パラドックス「へっへっへ・・・S i nトゥルース・ドラゴンはS i nモンスターが相手のモンスターを破壊したとき、相手の全てのモンスターを破壊する!」

不動遊星「何!」

遊城十代「速攻魔法、融合解除!」

融合解除の効果でフィールドのE・HEROネオス・ナイトをエクストラデッキに戻し、墓地からE・HEROネオスとジャンク・ガードナーを守備表示で特殊召喚

遊城十代「遊星、今だ!」

不動遊星「ジャンク・ガードナーの効果発動!相手が攻撃したとき、

一度だけ相手モンスターを守備表示に変更する！」

S i n 真紅眼の黒竜が攻撃表示から守備表示に変更される・・・D
E F 2 0 0 0

闇遊戯「上手いぞ！十代、遊星！！」

パラドックス「だが、S i n 青眼の白龍の攻撃が残っている！」

滅びの爆裂疾風弾　：　口から放つ技

ブラック・マジシャン「うわああああ！」

ブラック・マジシャンが破壊される

闇遊戯「ブラック・マジシャン！」

遊星たちのLP 2 6 0 0 が2 1 0 0 に下がる

パラドックス「フツ・・・これで我が身、S i n トウルース・ドラ
ゴンの効果が発動」

S i n トウルース・ドラゴンの回りにある無数の黒い刺が発射される

パラドックス「お前たちのモンスターを全て破壊する！」

不動遊星「スターダストの効果発動、ヴィクティム・サンクチュア
リ！カードを破壊する効果をスターダスト・ドラゴンをリリースす
ることで無効に破壊する！！」

ヴィクティム・サンクチュアリ　：　特殊効果でカードを破壊する
効果を自身を犠牲にすることで、無効にする

パaddock「何!？」

不動遊星「消えるのはお前だ!」

無数の黒い刺はパaddockの方へ発射

パaddock「ふざけるな!Sintウルス・ドラゴンの効果発動、墓地のSinレインボー・ドラゴンを除外し我が身の破壊を無効にする!」

Sinレインボー・ドラゴンを除外して無数の黒い刺を消した

パaddock「まだ私には、我が身Sintウルス・ドラゴンの攻撃が残っている!」

E・HEROネオスが破壊された

遊城十代「うわああ!」

パaddock「これでお前たちのモンスターは全滅!」

Sintウルス・ドラゴンの効果でブラック・マジシャン・ガールとジャンク・ガードナーが破壊する

パaddock「そしてこの効果で破壊されたモンスター一体につき、800ポイントのダメージを受けてもらう」

遊戯、十代、遊星は爆風で吹っ飛んだ

遊星たちのLP2100が500に下がる

パaddockス「這い蹲るがいい、絶望するがいい」
不動遊星「ここまで来て、モンスターが全滅」

パaddockスの笑い声が空間に響く

第24話 モンスターとの合体（後書き）

（用語説明）

S i n t ウルース・ドラゴン：星12 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻5000 / 守5000

「自分フィールド上に存在する「S i n」と名のついたモンスターが相手フィールド上のモンスターを破壊した時、相手フィールド上のモンスター全て破壊し、この効果で破壊したモンスター1体につき相手ライフに800ポイントのダメージを与える」「破壊される場合、自分の墓地に存在する「S i n」と名のついたモンスター1体を除外することで破壊を無効にする」という効果を持つ。

S i n 青眼の白龍：星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2500

デッキから「青眼の白龍」をゲームから除外して特殊召喚する。

ブルーアイズホワイトドラゴン

青眼の白龍：星8 / 光属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2500
高い攻撃力を誇る伝説のドラゴン。どんな相手でも粉碎する、その破壊力は計り知れない。

ほろ

バーストストリーム

滅びの爆裂疾風弾：青眼の白龍の攻撃名。口から放つ技。この技を受けて倒されたモンスターは数知れず。

S i n 真紅眼の黒竜：星7 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻2400 / 守2000

自分のデッキから「真紅眼の黒竜」1体をゲームから除外した場合に特殊召喚できる。

レッドアイズ フラガラゴン

真紅眼の黒竜：星7/闇属性/ドラゴン族/攻2400/守2000

真紅の眼を持つ黒竜。怒りの黒き炎はその眼に映る者全てを焼き尽くす。

こくえんだん

黒炎弾：真紅眼の黒竜の攻撃名。口から火の玉を吐く。

シン

パラダイム

Sin Paradigm

シフト

Shift：通常罫。

「Sin パラ

ドクス・ドラゴン」が破壊された時に自分のライフポイントを半分払い、自分の手札・デッキ・墓地から「Sin トウルース・ドラゴン」1体を特殊召喚する効果を持つ。

シン

セレクター

Sin Selector：通常魔法。自分の墓地から「Sin」

と名のついたモンスター2体をゲームから除外することで、自分のデッキから「Sin」と名のついたモンスター2体を手札に加える効果を持つ。

ヴィクティム・サンクチュアリ：スターダスト・ドラゴンの効果名。特殊効果でカードを破壊する効果を自身を犠牲にすることで、無効にする。ただしそのターンのエンドフェイズには復活することが可能。

ゆうけいかいじょ

融合解除：速攻魔法。フィールド上に表側表示で存在する融合モンスター1体を選択してエクストラデッキに戻す。さらに、エクストラデッキに戻したこのモンスターの融合召喚に使用した融合素材モンスター一組が自分の墓地に揃っていれば、この一組を自分フィールド上に特殊召喚することができる。

リリース：モンスターの召喚や効果の発動コストのひとつで、基本的にモンスターカードを墓地に送ることを指します。コストとなるリリースはカードの発動宣言の前に行います。この方法で墓地に送

られたモンスターは「破壊」扱いにはならない。

ドス黒いオーラ：人体から黒く濁って発散される霊的なエネルギー。

第25話 時空を越えた絆

パラドックスが笑いだし

パラドックス「まだ私の攻撃は終わっていない・・・速攻魔法、S
in Crossを発動！このターンの終わりまで墓地のS i nモ
ンスターを一体復活させる」

墓地からS i nスターダスト・ドラゴンを攻撃表示で特殊召喚

パラドックス「蘇れ、S i nスターダスト・ドラゴン！」
不動遊星「何！」

パラドックス「これで私の勝ちだ！消え去れ・・・遊戯、十代、遊
星・・・行け、S i nスターダスト・ドラゴン！！」

シューティング・ソニック：『第18話 S i n W o r
ld』に説明されている

パラドックス「遊星！人には絶望の世界を変えられる力があると言っ
たな、お前はこの絶望から何を変えられると言うのだ！！」

不動遊星「駄目なのか・・・この世界は・・・破滅」

遊城十代「何だよ遊星、もう諦めちゃうのか」

遊星は十代の方をみる

遊城十代「時空を越えて、ここまでやって来たつてのに」

闇遊戯「俺たちはデュエルモンスターズを信じているからこそ、時
空を越えて出会えた・・・ならばそこにはきつと意味がある」

遊城十代「自分たちの未来が間違っているのか、そうでないのか・・・

・それは自分自身で決めることさ・・・速攻魔法、クリボーを呼ぶ笛！デッキからクリボーかハネクリボーを手札に加えることができる、遊戯さん！！」

闇遊戯「来い、クリボー！」

遊戯はクリボーを呼ぶ笛の効果でデッキからクリボーを手札に加えた

闇遊戯「俺はクリボーの効果発動！このカードを墓地に送り、バトルダメージを一度だけ0にする！！」

クリボーがSinスターダスト・ドラゴンからのバトルダメージを0にする

パラドックス「何！？馬鹿な、これだけの攻撃を全てかわしただと闇遊戯「このターンの終わりにSin Crossの効果は消える、お前のSinスターダスト・ドラゴンには消えてもらうぜ」

Sin Crossの効果が消えて、Sinスターダスト・ドラゴンは墓地に戻る

遊城十代「そしてモンスター効果により本物のスターダスト・ドラゴンが復活！」

墓地からスターダスト・ドラゴンが攻撃表示で特殊召喚

不動遊星「スターダスト」

闇遊戯「遊星、君の世界にも君を信じ君の帰りを待つ仲間がいるんじゃないのか？」

遊星は自分の世界にいる仲間を思い出す

クロウ・ホーガン「遊星」

龍亞「遊星」

龍可「遊星」

ジャック・アトラス「遊星」

十六夜アキ「遊星」

仲間からの声が聞こえた遊星

不動遊星「十代さん、遊戯さん、俺は仲間たちの為にも決して諦めちゃいけないんだ！」

闇遊戯「うん」

遊城十代「行け、遊星！」

遊星とパラボックスが睨みあう

不動遊星「罨発動、スターダスト・ミラージュー！フィールドにスターダスト・ドラゴンがいるとき、このターンに破壊された俺たちのモンスター全てを復活させる」

墓地からジャンク・ガードナー、E・HEROネオス、ブラック・マジシャン、ブラック・マジシャン・ガールが特殊召喚

パラボックス「何！全てのモンスターが」

不動遊星「俺のターン！」

デッキから1枚ドロ―する

不動遊星「俺は諦めない、自分が進む未来を！」

遊城十代「ああ、その通りだ遊星！罨発動、ネオス・スパイラル・

フォース！！フィールドのモンスター一体の攻撃力を2倍にする！！！！」

スターダスト・ドラゴンの攻撃力がATK2500から5000に上がる

闇遊戯「畏発動、ブラック・スパイラル・フォース！そうさ遊星！俺たちはいつだって前に進むしかないんだ・・・このカードはフィールド上のモンスター一体の攻撃力をさらに2倍にする」

さらにスターダスト・ドラゴンの攻撃力がATK5000から10000に上がる

パラドックス「攻撃力10000だと！」

パラドックスはスターダスト・ドラゴンの攻撃力の高さに驚く

遊戯&十代&遊星「行くぞ！！！」

スターダスト・ドラゴン、ブラック・マジシャン、E・HEROネオスはS i n t ウルース・ドラゴンに立ち向かう

闇遊戯「ブラック・マジシャン！」

ブラック・マジシャン「はああああ！」

遊城十代「E・HEROネオス！」

E・HEROネオス「はああああ！」

不動遊星「これがこの世界を変える力だ！行け、スターダスト・ドラゴン！！！」

スターダスト・ドラゴン「ガアアアア！」

3体のモンスターが攻撃する

遊戯&十代&遊星「シューティングスパイラルソニック!!!」

シューティングスパイラルソニック：スターダスト・ドラゴンの口から放つエネルギー波とブラックマジシャン&E・HERONEオスのエネルギーが螺旋状に絡まって相手に襲いかかる。

パラドックス「何!」

シューティングスパイラルソニックがSintウルス・ドラゴンに直撃

パラドックス「私の実験は間違っていたのかああ!」

パラドックスのSintウルス・ドラゴンが破壊されてLP1750が一気に0になり、デュエル終了

第25話 時空を越えた絆（後書き）

〈キャラクター説明〉

ジャック・アトラス：遊星のライバルで、シグナーの一人。

クロウ・ホーガン：遊星の幼馴染で、シグナーの一人。

十六夜アキ^{いぢよい}：遊星の仲間で、シグナーの一人。

龍亞^{るあ}：遊星を慕う少年。

龍可^{るか}：龍亞の双子の妹で、シグナーの一人。

〈用語説明〉

クリボー：星1/闇属性/悪魔族/攻 300/守 200

相手ターンの戦闘ダメージ計算時、このカードを手札から捨てて発動する。その戦闘によって発生するコントローラーへの戦闘ダメージは0になる。

ハネクリボー：星1/光属性/天使族/攻 300/守 200

フィールド上に存在するこのカードが破壊され墓地へ送られた時に発動する。発動後、このターンこのカードのコントローラーが受ける戦闘ダメージは全て0になる。

クリボーを呼ぶ笛^{よふえ}：速攻魔法。自分のデッキから「クリボー」また

は「ハネクリボー」1体を選択し、手札に加えるか自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

スターダスト・ミラージユ：通常罠。自分フィールド上に「スターダスト・ドラゴン」が存在する時に発動でき、このカードを発動したターンに破壊されたモンスターを全て特殊召喚する。

ブラック・スパイラル・フォース：通常罠。自分フィールドに「ブラック・マジシャン」が存在する場合に発動でき、自分フィールド上に存在するモンスター1体の攻撃力をエンドフェイズまで2倍にする。

ネオス・スパイラル・フォース：通常罠。自分フィールドに「E・HERO ネオス」が存在する場合に発動できるカードで、自分フィールド上に存在するモンスター1体の攻撃力をエンドフェイズまで2倍にする。

シューティングスパイラルソニック：スターダスト・ドラゴン&ブラック・マジシャン&E・HEROネオスの攻撃名。スターダスト・ドラゴンの口から放つエネルギー波とブラックマジシャン&E・HEROネオスのエネルギーが螺旋状に絡まって相手に襲いかかる。

シン クロス
Sin Cross：速攻魔法。自分の墓地から「Sin」と名のついたモンスター1体を召喚条件を無視して特殊召喚する。但し、この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時にゲームから除外されるデメリットを持つ。

第26話 フリーダムを求める集団

パラドックスのデュエルに勝利した遊星たち……それから数分後……

ナギ? 「あの仮面の人はどうなったんですか?」

ナギ? が遊星たちに聞く

闇遊戯「奴は倒した、これで君も死ななくてすむ」

遊城十代「そういえばパラドックスが言っていた、この世界が滅ぶつてのが気になるな」

そのとき、大きな地震が起きた

不動遊星「今の地震は?」

パラドックス「これが滅びの現象の前触れ」

遊星たちは声がした方をみる

パラドックス「言っただけで、ネギ・スプリングフィールドを抹殺しなければ……この魔法世界は滅ぶと」

遊城十代「貴様! 生きていたのか!」

パラドックスが生きていたことに驚く十代

不動遊星「パラドックス! 違う方法は無かったのか?」

パラドックス「……原因を取り除けば、この世界は救われる」
不動遊星「原因?」

パラドックスが原因について話す

パラドックス「この件にはネギ・スプリングフィールドではない、ある集団が関係している」

ナギ「集団？」

パラドックス「集団の名は……」

「？　？　？　俺たちフリーダムでしょ……パラドックス」

闘技場の出入り口の前に3人の男が現れる

パラドックス「お前たちはフリーダム」

零「初めまして……自由を求める集団の隊長、零です……よろしく」

N「俺はフリーダムの副隊長、Nだ」

ステルス「俺は纏め役のステルス、よろしくね!!」

自己紹介が終わり

零「それより面白いことやってんじゃん、俺たちも仲間に入れてくれよ」

パラドックス「何だと？」

零「お前にだって得な話だろ……このムンドウス・マギクスを滅ぼそうとしている俺たちと戦えるのだから」

Nとステルスは笑う

零「それと見たいんだ……お前が手に入れたTSガイアメモリの力を」

不動遊星「TS……ガイアメモリ？」

パラドックス「どこでそれを知った」

零に問うパラドックス

零「フリーダムは自由を求める集団・・・俺たちの情報網をナメるな」

パラドックス「よかろう・・・私が滅びの現象を止めてみせる」

不動遊星「パラドックス！うん？」

ステルス「お前たちは黙ってみてな」

Nとステルスが遊星たちを足止めしている間に、パラドックスが零に勝負を挑む

第26話 フリーダムを求める集団（後書き）

～キャラクター説明～

零^{レイ}：フリーダムの隊長。ワイヤーを使って敵を切り刻む。

N^{エヌ}：フリーダムの副隊長。遠いところから標的を狙撃する。武器は銃。

ステルス：フリーダムの纏め役。裏ではスパイ活動もしており、潜入するときは姿を消して行動する。

～用語説明～

フリーダム：自由を求める集団。メンバーは高校生で結成されている。

滅^{ほろ}びの現象^{げんしょう}：世界が消えていくこと。

第27話 零の鋭利な針金地獄（前書き）

やっと期末テストが終わったので
いつも通りに投稿していこうと思います。

第27話 零の鋭利な針金地獄

闘技場に冷たい風が吹く

零「さあ、変身してみせろ」

パラドックスが服の内側からT Sメモリを取り出した

パラドックス「……………」

パラドクス！

パラドックスはT S Pメモリを使ってドーパントに変身

ナギ？「か、怪物！」

ナギ？は驚く

Pドーパント「……………」

零「龍のドーパントか？確かに外見は強そうに見えるが中身はどうなんだろうな」

Pドーパント「これは私のS i nパラドクス・ドラゴンをモチーフにした姿……お前と戦うには十分な力だ」

零「そうか……ならその十分な力ってやつを見せてもらおうか」

零の手に糸が巻かれる

不動遊星「奴の手に巻かれているのは……ワイヤー？」

零「よく付いたな、そう俺の武器はワイヤーだ」

Pドーパント「そんな武器で私を倒せるとも……ん！」

パラドクス・ドーパントは気づき、高くジャンプした

零「避けたか、だが甘いぜ……俺のワイヤーは、鉄をも切断する針金……そんな物が人間に当たれば一瞬で殺せる」

Pドーパント「だが当たらなければ意味がない」

零「だから甘いと言ったんだ」

Pドーパント「何？」

零はパラドクス・ドーパントの方へ指を指す

零「ほら自分の周囲をよく見ろ」

Pドーパント「周囲……うつ！……なんだと……身体が……動かない」

パラドクス・ドーパントの周囲に鋭利なワイヤーがはりめぐらされていた

零「まんまと術中に填まったな」

Pドーパント「くっ……」

零「俺は敵を一瞬にして殺すのは容易いことだが芸がない……だから……こうして芸を披露するんだよね」

零はパラドクス・ドーパントを見て微笑んだ

第27話 零の鋭利な針金地獄（後書き）

〈キャラクター説明〉

パラドクス・ドーパント：パラドックスがTSPメモリで変身するドーパント。Sinパラドクス・ドラゴンをモチーフにしている。背中には黒い翼が生えている。武器は刀。

〈用語説明〉

TSPメモリ：「逆説の記憶」を宿した TSパラドクスメモリ。

ワイヤー：零が使用する武器。鉄をも簡単に切断できる。

第28話 破滅に導く者

零はパラドクス・ドーパントを見て微笑む

零「あつ、そうだ」

何かを思い出し、司会者からマイクを奪う零

零「会場のいる諸君らに告ぐ、次の地震でこの世界に滅びの現象が起きる・・・そこで諸君らが逃げれるように1時間のタイムリミットをつくった」

絡繰茶々丸「どうして世界を破滅させようとするのでしょうか？」

茶々丸は零に問う

零「俺たちは今まで色々な世界を破滅に導いてきた・・・世界は一つだけでいいと考えたからさ」

零を目を閉じる

零「実際、沢山ある世界は必要ないんですよ」

N「幾つものある世界、パラレルワールド・・・それを何度も破滅させてきた・・・俺たちフリーダム」

ステルス「自由のある世界だけを存在させ、自由のない世界は滅びるだけ」

零「それでも自由のある世界は存在しなかった」

不動遊星「だからお前たちフリーダムは、この世界を滅ぼすというのか！」

零が目を開く

零「そうだ」

不動遊星「この世界で生きている多くの人々がどうなってもいいと
いうのか！」

零「そんな小さな問題なんて俺たちには関係ない」
遊城十代「関係ないだと！」

十代は零に怒鳴る

N「零」

零「ん、どうしたN？」

Nが零に小声で話す

N「そろそろ地震が来るぞ」

零「わかった」

零とNの会話は終わり

零「そろそろ地震が来るそうだ・・・俺たちは安全な世界に避難さ
せてもらうよ」

Pドーパント「逃げるのか！」

零「パラドックス、お前もこの世界とともに滅ぶがいい」

Nとステルスを連れて零は撤退しようとする

「？　？　？」「フフフッ、滅びるのはお前たちの方だ」
零「だ、誰だ！」

その時、零の足元に黒い影が現れた

第28話 破滅に導く者（後書き）

（用語説明）

パラレルワールド：ある世界から分岐し、それに並行して存在する別の世界。

タイムリミット：ぎりぎり許される時間。

第29話 闇の福音

零の足元に黒い影が現れる

零「えっ！」

何者かに腕を握られる零

？ ？ ？「フフフッ」

零「影を使った転移魔法！？」

？ ？ ？「うちのぼーやがお世話になったようだな・・・若蔵」

瞬時に零は蹴られ

零「ぐはっ！」

遠くの壁まで飛ばされた

ナギ？「え、エヴァンジェリンさん！」

エヴァンジェリン「待たせたな、ぼーや」

零「エヴァンジェリン？そうか・・・お前が」

零は立ち上がる

零「600歳前後の女と聞いたんだが、聞いた話よりガキだな」

エヴァンジェリン「う・・・わ、私をガキ扱いするなあ！」

Nとステルスが零に近づく

N「大丈夫か零？」

零「ああ、少し痛かったがな」

N「零・・・あの吸血鬼と戦ってみたい」

零「N」

零がNの目をみる

N「がつしーとRyoが来るまで、少し時間があるだろ」

ステルス「おいN、敵は最強の吸血鬼だぞ！」

N「わかってる・・・俺は最強無敵の悪の魔法使い、エヴァンジェリン・A・K・マクダウエルが本当に強いのか・・・試したいだけだ」

そついうと、Nはエヴァンジェリンの前まで歩く

エヴァンジェリン「貴様が私の相手か？」

N「よろしく・・・バンパイア・ガール」

Nは服の内側から銃を取り出し、エヴァンジェリンに銃口を向けた

第29話 闇の福音（後書き）

～キャラクター説明～

エヴァンジェリン・A・K・マクダウエル：麻帆良学園中等部3・Aの生徒で、出席番号は26番。同じ3・Aの生徒で女性型アンドロイドである絡繰茶々丸を従者にしており、他にも数体の魔法人形を従えている。

がつしー：フリーダムのイラストレーター。武器はリアルペン。このペンで書いたイラストは実体化する。

ryo：フリーダムの騎士。元騎士団の隊長で、がつしーとは仲が良い。武器は騎士団だった時に使用していた剣。

～用語説明～

ダーク エヴァンジェル

闇の福音：エヴァンジェリンの異名。

吸血鬼：人の生き血を吸うという魔物。

転移魔法：影を利用して瞬間移動できる。

第30話 Nの二丁拳銃

Nはエヴァンジェリンに銃口を向ける

エヴァンジェリン「そんな銃で私を倒せるとでも思ってるのか？」

N「倒せるという確率は低いだろうな・・・だが一発は必ず当てる」

エヴァンジェリンに狙いを定めるN

N「いくぞ！」

バンッ！Nはエヴァンジェリンに6発撃つ

エヴァンジェリン「リク・ラク・ラ・ラック・ライラック・・・サ
ギタ・マギカ！セリエス・グラキアリースー！！」

魔法の射手 氷の17矢：追尾型の魔法の矢を飛ばして攻撃で
きる

N「氷系の魔法！？！」

銃弾が6発とも全て弾かれ、残り11本の氷の矢がNに飛ぶ

N「何、俺の銃弾が！」

エヴァンジェリン「諦めろ、貴様だけでは力不足だ」

N「いや、まだだ！」

再び服の内側から銃を取り出す

エヴァンジェリン「二丁拳銃だと！」

11本の氷の矢をNの銃弾が弾く

N「これで対等に戦えるな」

エヴァンジェリン「対等だと？残念だが私はまだ半分之力も出して
いない」

N「そうか、ならハンデをもらおう」

Nは地面に一発の銃弾を撃ち、薄黒い結界が張られる

エヴァンジェリン「これは一体？」

N「今撃ったのは結界弾だ」

結界弾：小範囲に結界を張ることができ、魔法使いの強さを2
分の1にする

N「これで対等になったね・・・それと」

エヴァンジェリン「・・・」

N「見せてやるよ、俺の銃弾シリーズを」

Nは二つの銃に銃弾を装填、エヴァンジェリンは半分之力を失った
状態でNに挑む

第30話 Nの二丁拳銃（後書き）

（用語説明）

二丁拳銃：拳銃を両手に二丁ずつ持って撃つ技。
にちようけんじゅう

結界弾：小範囲に結界を張ることができ、魔法使いの強さを2分の1にする。
けっかいだん

リク・ラク・ラ・ラック・ライラック：エヴァンジェリンの始動キ
！。

魔法の射手 マジカ 氷の十七矢：追尾型の魔法の矢を飛ばして攻撃できる。
マジカ セリエスグラキ・アリース

第31話 謎の黒い球体

薄黒い結界が張られて数分

零「結界弾か・・・あの女吸血鬼、死んだな」

ステルスは笑う

ナギ? 「うううう」

絡繰茶々丸「大丈夫ですか、ネギ先生?」

ナギ? 「うううう」

絡繰茶々丸「（この結界が張られてからネギ先生の顔色が悪くなっている）」

茶々丸はナギ? の顔色が徐々に悪くなっていることに気付く

不動遊星「この結界は一体?」

遊城十代「・・・・ん!」

結界から黒い球体がナギ? に向かって飛んだ

遊城十代「あ、危ない!」

ナギ? 「えっ!」

十代はナギ? を庇って黒い球体に吸い込まれる

不動遊星「じゅ、十代さん!」

遊星は黒い球体まで走ろうとした瞬間!

Pドーパント「その球体には近づくな・・・不動遊星！」

走ろうとした遊星をパラドクス・ドーパントが呼び止める

Pドーパント「それに触れれば・・・生力を吸われるぞ・・・違うか零！」

零「よく知ってるな・・・その通り、この黒い球体は生き物の生きる力を吸いとる・・・さらに過去の記憶を除くこともできるのだ」
闇遊戯「過去の記憶？」

零「今頃、この球体の中では、何が起ってるんだろうな」

・・・その頃、黒い球体に入ってしまった十代は・・・

遊城十代「（う・・・ここは砂漠）あっ！」

十代が見た先には6人の人物が立っていた

遊城十代「あれはヨハンにオブライエンにジム！それに後ろにいるのは・・・俺？・・・そうか、これは俺の記憶」

ヨハン&オブライエン&ジムはデュエルディスクを装着

ヨハン&オブライエン&ジム「デュエル！！！」

無表情&笑い&怒りの仮面「デュエル！！！」

十代の記憶内でヨハン&オブライエン&ジムが仮面の三騎士と対決する

第31話 謎の黒い球体（後書き）

〈キャラクター説明〉

オースチン・オブライエン：ウエスト校3年生。魔法、罠、効果を攻撃の主軸とするヴォルカニック・バーンデッキを使用。元傭兵でもある。

ジム・クロコダイル・クック：サウス校チャンピオンの3年生。融合素材を相手の墓地から選択するという化石融合デッキを使用。ワニのカレンを背中に背負っていて流暢な英語を使う。幼少時にカレンを救う為に怪我を負った為右目を包帯で覆っている。そして、その失った右目にはオリハルコンの眼がはめられており、かけがえの無い友を救う為にその力を発揮する。

無表情の仮面むひょうじょう かめん：異世界に飛ばされたオベリスク・ブルー所属の原田が無表情の仮面と融合した姿。空腹に耐えられずユベルに操られたマルタンの思うがままに、精霊と融合させられてヨハンと対決。モンスターを召喚せずに手札や墓地のカードを発動しヨハンを追い詰める。

笑いの仮面わら かめん：異世界に飛ばされたラー・イエロー所属の山中が笑いの仮面と融合した姿。空腹に耐えられずユベルに操られたマルタンの思うがままに、精霊と融合させられてオブライエンと対決。人を小馬鹿にしたように「笑っちゃう」「笑える〜！」などと笑う。

怒りの仮面いか かめん：異世界に飛ばされたオベリスク・ブルー所属の寺岡が怒りの仮面と融合した姿。空腹に耐えられずユベルに操られたマルタンの思うがままに、精霊と融合させられてジムと対決。「怒りの

アンカー・ナイト」を主にしたデッキを使用し、ジムを怒涛の攻撃で追い詰める。

〈用語説明〉

黒い球体くろ きゅうたい：この球体に入った者の生力を吸いとり、過去の記憶を除く。

仮面の三騎士かめんさんきし：無表情の仮面・笑いの仮面・怒りの仮面のことを言う。

第32話 人間と精霊の融合

ヨハンと無表情の仮面のLPは互いに4000

ヨハン・アンデルセン「先攻は、お前だ！」

無表情の仮面「……………ドロー」

ヨハンは無表情の仮面に先攻を譲り、デッキからカードを1枚ドロー

無表情の仮面「ターンエンド」

次はヨハンのターン

ヨハン・アンデルセン「（何、モンスター召喚も伏せカードも無しに……………どういふつもりだ）俺のターン、ドロー！」

ヨハンデッキから1枚ドローする

ヨハン・アンデルセン「俺は宝玉獣アンバー・マンモス召喚！」

宝玉獣アンバー・マンモスが攻撃表示で召喚……………レベル4でAT

K1700

アンバー・マンモス「ヨハン、私が先陣をきろう」

ヨハン・アンデルセン「奴は何を考えているのか分からない、気を付ける！」

アンバー・マンモス「なに、いつきに踏み潰してくれる」

ヨハン・アンデルセン「わかった……………行け、アンバー・マンモス……………プレイヤーにダイレクトアタック、アンバー・スタンプ！」

アンバー・スタンプ： 相手を上空へ跳ね飛ばす

無表情の仮面「うっ！」

無表情の仮面のLP4000が2300に下がる

ヨハン・アンデルセン「（そうか、この世界ではソリットビジョンではなく現実・・・衝撃は本物の痛みとなる）」

無表情の仮面「・・・・・・・・」

無表情の仮面は何事も無かったように立ち上がる

ヨハン・アンデルセン「（それにしてもコイツ、何も仕掛けて来なかった・・・不気味だぜ・・・精霊と人間の融合、体は原田の者だが精神は精霊が支配しているのか・・・デュエルゾンビとは違うようだ）ターン、エンド」

ヨハンはターン終了・・・そして隣ではオブライエンと笑いの仮面が対決

笑いの仮面「アハハハハハハ」

笑いの仮面は笑い

オブライエン「・・・・・・・・」

お互いのLPは4000

笑いの仮面「おドロー！」

笑いの仮面が先攻をとり、デッキからカードを1枚ドロ―

笑いの仮面「ハッハア、カードを一枚伏せちゃう・・・フル・クラウンを攻撃表示でお召喚、いらっしゃーい」

フル・クラウンが攻撃表示で召喚・・・レベル1でATK0

フル・クラウン「オホホホホ」

笑いの仮面「ハハハ・・・このカードが召喚された時、手札のカードを全てを墓地に送らなきゃいけないんだってさ、笑える」
オブライエン「・・・・・・・・」

オブライエンは無表情のまま、笑いの仮面をみていた

笑いの仮面「あれ笑えない？・・・だったら、これは？」

笑いの仮面がオブライエンに手札を見せ、全て墓地に送り

オブライエン「うわっ！」

そして、オブライエンの目の前で謎の爆発が起きる

笑いの仮面「墓地に行ったラフ・ボンバーはフル・クラウンが場にいるとき、ゲームから除外することで・・・ウフフフ、相手に500ポイントのダメージを与えるって笑える・・・しかもボクチンが墓地に送ったのは三枚ざんすー」

墓地からラフ・ボンバーを3枚除外し、再び爆発

オブライエン「……………」

オブライエンのLP4000が2500に下がる

笑いの仮面「どうかしら、今度は……ウフフ」

オブライエン「……………」

笑いの仮面「あれ、まだ笑えない？」

そう言いつつも、笑いの仮面はターン終了……そしてその隣では
ジムと怒りの仮面が対決

怒りの仮面「ふざけるな、勝つのは俺だ！」

ジム「そう怒るなよHungry boy、Yourのターンだぜ」

互いのLPは4000

怒りの仮面「言われなくても分かってる……ドロー！」

ジムは怒りの仮面に先攻を譲り、デッキからカードを1枚ドロー

怒りの仮面「カードを一枚伏せて、怒りのアンカー・ナイトを攻撃
表示で召喚だ！」

怒りのアンカー・ナイトが攻撃表示で召喚……レベル4でATK
1500

怒りの仮面「俺の怒りを受けてみる！」

ジム「Oh No!怖いねー」

怒りの仮面は手札を3枚墓地に送る

怒りの仮面「スマッシュ・アンカー！」

スマッシュ・アンカー　：　両腕のアンカーを発射する

アンカー・ナイト「ウオオオ！」

ジムはアンカー・ナイトの攻撃を懸命に避けるが

ジム「うつ．．．．」

ジムのLP4000がLP2200に下がる

怒りの仮面「怒りのアンカー・ナイトの効果、手札を一枚捨てる事に600ポイントのダメージを与える！」

怒りの仮面はターン終了

第32話 人間と精霊の融合（後書き）

（用語説明）

宝玉獣アンバー

マンモス：星4 / 地属性 / 獣族 / 攻1700 / 守

1600

自分フィールド上に表側表示で存在する「宝玉獣」と名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、このカードに攻撃対象を変更する事ができる。

このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地へ送らずに永続魔法カード扱いとして自分の魔法＆罠カードゾーンに表側表示で置く事ができる。

アンバー・スタンプ：宝玉獣アンバー・マンモスの攻撃名。相手を上空へ跳ね飛ばす。

フル・クラウン：星1 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻0 / 守0

このカードの召喚に成功した時、自分の手札を全て墓地へ送る。

ラフ・ボンバー：星2 / 炎属性 / 機械族 / 攻0 / 守0

このカードは攻撃する事ができない。自分フィールド上に「フル・クラウン」が存在し、自分の墓地にこのカードが存在する時、このカードを除外する事で、相手プレイヤーに500ポイントのダメージを与える。

怒りのアンカー・ナイト：星4 / 炎属性 / 戦士族 / 攻1500 / 守600

このカードが戦闘で破壊され墓地へ送られた時、手札を1枚捨てる事で表側守備表示で特殊召喚する事ができる。手札を1枚捨てる事

で、相手に600ポイントのダメージを与える（この効果は1ター
ンに3回までしか使用できない）。

スマッシュ・アンカー：怒りのアンカー・ナイトの効果名。両腕の
アンカーを発射する。

デュエルゾンビ：ユベルの能力によって、デュエルに敗北した者は
ゾンビ化する。

ソリットビジョン：マジック&ウィザーズの実体化に使用されてい
るシステム。

ダイレクトアタック：直接攻撃のことを言う。

第33話 沈黙の恐怖

ヨハンのLP4000、無表情の仮面のLP2300

ヨハン・アンデルセン「（こいつ・・・いつ動く）」

無表情の仮面「私のターン」

デッキから1枚ドロし

無表情の仮面「ターンエンド」

すぐにターン終了

ヨハン・アンデルセン「（馬鹿な、また何もしないと言うのか）」
無表情の仮面「エンドフェイスに手札が七枚あるので、六枚になる
よう任意のカードを一枚捨てる」

手札を一枚墓地に送る

ヨハン・アンデルセン「（動いたのか？）俺のターン、ドロー！」

ヨハンがカードをドロした瞬間！

無表情の仮面「墓地にある、沈黙の痛みが発動・・・墓地に、この
カードしかないとき相手のスタンバイフェイズごとに相手モンスター
を全て破壊し・・・1000ポイントダメージを与える」
アンバー・マンモス「うおおおお！」

無表情の仮面が沈黙の痛みの効果で宝玉獣アンバー・マンモスを破

壊し、ヨハンの魔法&罨ゾーンに宝玉として置く

ヨハンのLP4000がLP3000に下がる

ヨハン・アンデルセン「こいつを狙ってたのか（だが仮に毎ターン、モンスターが全滅し1000ポイントダメージを受けたとしても・・・モンスターさえ召喚出来れば、そのターン攻撃は出来る・・・厄介な相手だが勝機は十分ある）俺は・・・宝玉獣トパーズ・タイガ―を攻撃表示で召喚！」

宝玉獣トパーズ・タイガーが攻撃表示で召喚・・・レベル4でATK1600

トパーズ・タイガー「ヨハン、俺様に任せておけ」

ヨハン・アンデルセン「頼むぜ、トパーズ・タイガー」

無表情の仮面「魔法カード、沈黙の虚空を発動・・・自分の墓地に沈黙の痛みがある時・・・このカードを除外し、相手モンスターを破壊」

トパーズ・タイガー「うああああ！」

沈黙の虚空の効果でトパーズ・タイガーを破壊し、またヨハンの魔法&罨ゾーンに宝玉として置く

ヨハン・アンデルセン「う・・・ターンエンド」

ヨハンが打つ手がないままターンを終了

無表情の仮面「ドロー・・・・ターンエンド」

無表情の仮面もカードをドローして、すぐにターンを終了する

ヨハン・アンデルセン「（こいつ、あくまでモンスターを召喚しない気が）俺のターン、ドロー！」

ヨハンはカードをドロー・・・その時

無表情の仮面「墓地の沈黙の痛みの効果により、1000ポイントのダメージを・・・そして手札から魔法カード、沈黙の激痛を発動！」

ヨハン・アンデルセン「別の魔法カードか!？」

無表情の仮面「墓地の沈黙の痛みが効果を発動したとき、このカードを除外して相手に1000ポイントのダメージを与える・・・合計2000ポイント・・・ライフを削る」

ヨハン・アンデルセン「うわー！」

ヨハンのLP3000がLP1000に下がる

ヨハン・アンデルセン「このままだと、次のターン・・・俺は負ける」

無表情の仮面の沈黙デッキがヨハンを追い詰める

第33話 沈黙の恐怖（後書き）

（用語説明）

宝玉獣トパース・タイガー

：星4 / 地属性 / 獣族 / 攻1600 / 守

1000

このカードは相手モンスターに攻撃する場合、ダメージステップの間攻撃力が400ポイントアップする。このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地へ送らずに永続魔法カード扱いとして自分の魔法＆罠カードゾーンに表側表示で置く事ができる。

沈黙の痛み

いた

：通常魔法。自分の墓地にこのカードしか無い時、相手のスタンバイフェイズ毎に相手フィールド上のモンスターを全て破壊し相手プレイヤーに1000ポイントのダメージを与える。

沈黙の

虚空

こくう

：通常魔法。自分の墓地に「沈黙の痛み」が存在する場合、相手ターンのメインフェイズ時に手札からこのカードをゲームから除外して発動する。相手フィールド上に存在するモンスター1体を破壊する。

沈黙の

激痛

げきつう

：通常魔法。自分の墓地に存在する「沈黙の痛み」の効果が発動した時に発動する事ができる。手札のこのカードをゲームから除外する事で、相手ライフに1000ポイントダメージを与える。

第34話 不死身のアンカー・ナイト

ジムのLP2200、怒りの仮面のLP4000

ジム「俺は、風化戦士を攻撃表示で召喚！」

風化戦士が攻撃表示で召喚・・・レベル4でATK2000

ジム「風化戦士、怒りのアンカー・ナイトを攻撃！ウインドスラッシュー！」

ウインドスラッシュ：拳を振り上げて一気に振り下ろして攻撃する

怒りの仮面「うっ・・・」

怒りの仮面のLP4000がLP3500に下がる

怒りの仮面「おのれ、よくも怒りのアンカー・ナイトを！」

地面から鎖が飛び出し風化戦士に巻きつく

ジム「Watts!？」

怒りの仮面「怒りのアンカー・ナイトは手札を1枚捨てることで表側守備表示で復活する・・・さらなる怒りと共に！」

墓地から怒りのアンカー・ナイトを守備表示で特殊召喚・・・DE
F600

ジム「くそっ！風化戦士はエンドフェイズごとに攻撃力が600ポイントずつダウンしていく」

風化戦士の攻撃力がATK2000から1400に下がる

怒りの仮面「俺のターン、ドロー！」

デッキからカードをドロー

怒りの仮面「怒りのアンカー・ナイトの攻守を変更」

怒りのアンカー・ナイトが守備表示から攻撃表示に変更される

怒りの仮面「罠カードをオープン、ヴァイオレント・サルベージ！怒りのアンカー・ナイトが場に存在するとき墓地のカードを上から3枚手札に加えることができる」

墓地のカードを上から3枚手札に加え

怒りの仮面「だが、このカードは使用できない」

そして、再び墓地に送る

ジム「じゃ、Just Moment！？まさかまた！」

怒りの仮面「怒りのアンカー・ナイトの効果、手札のカードを三枚墓地に送って・・・1800ポイントのダメージを与える！」

ジム「うわー！」

ジムのLP2200がLP400に下がる

怒りの仮面「そして怒りのアンカー・ナイトで風化戦士を攻撃、バスター・アンカー！」

バスターアンカー：腕のアンカーを回転させてから伸ばして、相手をグルグル巻きにしてしまう。

ジム「うっ！」

風化戦士が破壊され、ジムのLP400がLP300に下がる

第34話 不死身のアンカー・ナイト（後書き）

（用語説明）

ウェザリング・ソルジャー

風化戦士：星4 / 地属性 / 岩石族 / 攻2000 / 守1300

このカードの攻撃力は、自分のエンドフェイズ毎に600ポイントダウンする。

ウインドスラッシュ：風化戦士の攻撃名。拳を振り上げて一気に振り下ろして攻撃する。

バスターアンカー：怒りのアンカー・ナイトの攻撃名。腕のアンカーを回転させてから伸ばして、相手をグルグル巻きにしてしまう。

ヴァイオレント・サルベージ：通常罠。自分フィールド上に「怒りのアンカー・ナイト」が表側表示で存在する時に発動可能。墓地のカードを上から3枚手札に戻す。この効果で手札に戻したカードは使用できない。

第35話 ヨハン＆オブライエン＆ジムVS仮面の三騎士

オブライエンのLP2500、笑いの仮面のLP4000

オブライエン「（このデュエルには何かがある・・・あ、まさか！このデュエルは罠か！？）俺のターン、ドロー！」

カードをドロー

オブライエン「カードを一枚伏せる、ファイヤー・トルーパー召喚！」

ファイヤー・トルーパーが攻撃表示で召喚され、墓地に送られる

笑いの仮面「ハッハッハ・・・帰っちゃったよ・・・そのモンスター、笑える〜」

オブライエン「ファイヤー・トルーパーは召喚に成功したとき相手に1000ポイントのダメージを与え墓地に送られる」

笑いの仮面のLP4000がLP3000に下がる

笑いの仮面「あれ減ってるよ・・・でも笑っちゃう、墓地のラフ・ファイトを除外することで受けたダメージと同じダメージを相手にも与えちゃんだもんね」

オブライエンのLP2500がLP1500に下がる

オブライエン「手札から魔法カード、ファイヤー・バックを発動・手札から炎属性モンスター1体を墓地に送り、墓地から炎属性モ

ンスター1体を特殊召喚する！」

手札1枚を墓地に送り

オブライエン「墓地に送ったカードはヴォルカニック・バックショット、こいつが墓地に送られたとき敵に500ポイントのダメージを与える」

笑いの仮面のLP3000がLP2500に下がる

笑いの仮面「うっ！」

オブライエン「そしてファイヤー・トルーパーを特殊召喚！」

墓地からファイヤー・トルーパーを特殊召喚し、また墓地に送る

オブライエン「また1000ポイントのダメージを貴様は受ける」

笑いの仮面のLP2500がLP1500に下がる

笑いの仮面「えへへ・・・っへへ」

オブライエン「そして・・・」

ファイアー・バックを笑いの仮面に見せる

笑いの仮面「え、もう一枚あったの!？」

オブライエン「魔法カード、ファイヤー・バック発動!手札のヴォルカニック・バックショットを墓地に送る

ヴォルカニック・バックショットを手札から墓地に送り

笑いの仮面「うはー！」

笑いの仮面のLP1500がLP1000に下がる

笑いの仮面「（残り1000、またファイヤー・トルーパーを特殊召喚させたら負けちゃう）」

いきなり笑いの仮面はオブライエんに土下座した

笑いの仮面「お願い待って、一手待って・・・もう笑わないからお願ひ！」

オブライエン「・・・・・・・・」

笑いの仮面「・・・・・・・・」

笑いの仮面は泣いていた

オブライエン「ヴォルカニック・バックショットを特殊召喚！」

墓地からヴォルカニック・バックショットを守備表示で特殊召喚・
・レベル2でDEF0

オブライエン「ターンエンド」

オブライエンはターン終了

笑いの仮面「嘘！本当！！奇跡！！！！（バーカ、次のターンこの異次元からの埋葬で除外されたラフ・ボンバーを墓地に戻せば・・・お前は爆死なのね笑えるー）俺のターン、おドロー！！！！・・・うん？」

デッキからカードをドロ―した瞬間にオブライエンは罨カード、ドロ―・ボムを発動

笑いの仮面「相手がドロ―したとき、相手プレイヤーに1000ポイントダメージを与える・・・笑えねー！ぐわああああー！」

笑いの仮面のLP1000がLP0になり、デュエル終了

山中「ここは？」

山中は笑いの仮面から解放された

オブライエン「このデュエル、罨の可能性がある」

ヨハン&ジム「えー！」

オブライエン「サレンダーでも構わん、このデュエルを終わらせるんだ」

無表情の仮面「それは許されない、どちらかが倒れるまで・・・このデュエルは続く」

無表情の仮面のデュエルディスクからヨハンのデュエルディスクまで光線が発射される

ジム「OK、Victoryで終わらせるしかないと言っことか」

ジムのLP300、怒の仮面のLP3500

ジム「（もし、このデュエルが単なる罨なら本当に何が起きるかもしれない・・・とにかく、このデュエルを早くFinishさせよう）俺のターン、ドロ―！」

カードをドロ―

ジム「魔法カード、標本の閲覧を手札のモンスターカードを1枚墓地に送って発動」

手札のモンスターカードを1枚墓地に送り、標本の閲覧を発動

ジム「種族とレベルを宣言し、相手はそのカードを手札かデッキから1枚墓地に送る、レベル4の戦士族だ！」

怒りの仮面「怒りのアンカー・ナイトしかない、クソッ！」

怒りの仮面のデッキから怒りのアンカー・ナイトが墓地に送られる

ジム「そして手札からフォッシル・フュージョンを発動、お互いの墓地から風化戦士と怒りのアンカー・ナイトを除外して」

お互いの墓地から風化戦士と怒りのアンカー・ナイトが除外融合

ジム「新生代化石騎士スカルポーンを融合召喚！」

新生代化石騎士スカルポーンが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル4でATK2000

怒りの仮面「ん！」

ジム「まだだ！手札からタイム・ストリーム発動・・・ライフを半分払う事で時をさかのぼり新生代から中生代に化石騎士を逆進化させる！！」

ジムのLP300がLP150に下がる

怒りの仮面「逆進化？ということだ！」

ジム「中生代化石騎士スカルナイト召喚！」

中生代化石騎士スカルナイトが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル6
でATK2400

ジム「さらに逆進化」

もう1枚のタイム・ストリームで中生代化石騎士スカルナイトを逆
進化させ、ジムのLP150がLP75に下がる

怒りの仮面「もう一枚？ふざけるな！」

ジム「古生代化石騎士スカルキング召喚！」

古生代化石騎士スカルキングが攻撃表示で特殊召喚・・・レベル8
でATK2800

ジム「スカルキングで怒りのアンカー・ナイトを攻撃、キングソー
ドプレイ！」

キングソードプレイ：相手に高速で接近して、剣を横に払い一
刀両断にする

怒りの仮面「うううう」

怒りの仮面のLP3500がLP2200に下がる

怒りの仮面「怒りのアンカー・ナイトは不死身だ！表側守備表示で
復活！！」

怒りの仮面は手札を1枚墓地に送り、墓地から怒りのアンカー・ナイトを守備表示で特殊召喚

ジム「それを待ってたんだ」

怒りの仮面「何？」

ジム「スカルキングの効果、相手フィールド上にモンスターが存在するとき、もう一度攻撃ができ・・・相手が守備表示だった場合・・・貫通ダメージを与える、キングソードプレイ・Second！」

キングソードプレイ・Second：古生代化石騎士スカルキングの2回目の攻撃

怒りの仮面「うわっ！」

怒りの仮面の怒りのアンカー・ナイトが破壊されてLP2200が一気に0になり、デュエル終了

寺岡「うつ・・・」

寺岡も怒りの仮面から解放された・・・残るは無表情の仮面だけ

ヨハン・アンデルセン「う・・・」

ヨハンのLP1000、無表情の仮面のLP2300

ヨハン・アンデルセン「（このターンで逆転できなければ俺の負け・・・だが、このカードに俺は懸けるぜ！）フィールド魔法、虹の古代都市レインボー・ルインを発動！」

フィールドが虹の古代都市レインボー・ルインへと変わる

ヨハン・アンデルセン「そして俺は宝玉獣サファイア・ペガサスを召喚！」

宝玉獣サファイア・ペガサスが攻撃表示で召喚・・・レベル4でATK1800

サファイア・ペガサス「ようやく俺の出番か」

ヨハン・アンデルセン「サファイア・ペガサスの召喚に成功した時、自分の墓地・デッキ・手札から宝玉獣と名の付くモンスター1体を魔法&罨ゾーンに置くことが出来る・・・サファイアコーリング！」

サファイアコーリング： 召喚された際に、他の宝玉獣1体を魔法&罨ゾーンに置く

ルビー・カーバンクル「ルビビ」

ヨハンは手札から宝玉獣ルビー・カーバンクルを魔法&罨ゾーンに置いた

無表情の仮面「手札から沈黙の虚空発動、サファイア・ペガサスを破壊」

サファイア・ペガサス「うああああ！」

沈黙の虚空の効果でサファイア・ペガサスを破壊し、またヨハンの魔法&罨ゾーンに宝玉として置く

ヨハン・アンデルセン「かかったな・・・ルビー、お前の力を見せてやれ・・・ルビー・カーバンクルを特殊召喚！」

魔法&罨ゾーンから宝玉獣ルビー・カーバンクルを攻撃表示で特殊召喚・・・レベル3でATK300

ルビー・カーバンクル「ルビー、ルビビビビビ・・・ルビー！」

宝玉獣ルビー・カーバンクルの尻尾が光る

ヨハン・アンデルセン「ルビーが特殊召喚されたとき、宝玉獣達を魔法&罨ゾーンから可能な限り特殊召喚できる！」

その光は魔法&罨ゾーンに存在する宝玉に注がれる

無表情の仮面「沈黙の虚空を発動」

また沈黙の虚空でモンスターを破壊しようとするとき

ヨハン・アンデルセン「おっと、ルビーを壊させたくないぜ」

無表情の仮面「ああ？」

ヨハン・アンデルセン「虹の古代都市レインボー・ルインの効果を発動する、魔法&罨ゾーンに3体以上宝玉獣がいるとき・・・フィールドの宝玉獣のカードを1枚墓地に送ることで魔法&罨の効果を無効にする」

宝玉獣トパーズ・タイガーを魔法&罨ゾーンから墓地に送り、沈黙の虚空の効果を無効にした

無表情の仮面「馬鹿な」

そして魔法&罨ゾーンに存在する全ての宝玉が光りだす

ヨハン・アンデルセン「現れる・・・サファイア・ペガサス、アンバー・マンモス！」

サファイア・ペガサス「この時を待っていたぞ！」

魔法&罨ゾーンから宝玉獣サファイア・ペガサスを攻撃表示で特殊召喚

アンバー・マンモス「準備は良いぜ！」

さらに魔法&罨ゾーンから宝玉獣アンバー・マンモスを攻撃表示で特殊召喚

ヨハン・アンデルセン「行け！宝玉獣達、ダイレクトアタック！」

サファイア・ペガサスとアンバー・マンモスは無表情の仮面に突進してダメージを与える

無表情の仮面「うわあああ！」

無表情の仮面もLP2200が一気に0になり、デュエル終了

原田「いてて」

原田も無表情の仮面から解放され、仮面の三騎士は倒された

遊城十代「やったぜ！・・・うん！？」

ユベル「十代？」

ユベルは十代の顔を覗く

遊城十代「うううう、頭が……うわあああ」

十代の頭に激痛がはしり、周囲の背景が黒い世界に変わった

第35話 ヨハン＆オプライエン＆ジムVS仮面の三騎士（後書き）

（用語説明）

宝玉獣ルビー・カーバンクル：星3 / 光属性 / 天使族 / 攻300 / 守300

このカードが特殊召喚に成功した時、自分フィールド上の魔法＆罨カードゾーンに存在する「宝玉獣」と名のついたカードを可能な限り特殊召喚する事ができる。このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地へ送らずに永続魔法カード扱いとして自分の魔法＆罨カードゾーンに表側表示で置く事ができる。

宝玉獣サファイア・ペガサス：星4 / 風属性 / 獣族 / 攻1800 / 守1200

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、自分の手札・デッキ・墓地から「宝玉獣」と名のついたモンスター1体を永続魔法カード扱いとして自分の魔法＆罨カードゾーンに表側表示で置く事ができる。このカードがモンスターカードゾーン上で破壊された場合、墓地へ送らずに永続魔法カード扱いとして自分の魔法＆罨カードゾーンに表側表示で置く事ができる。

サファイアコーリング：宝玉獣サファイア・ペガサスの効果名。召喚された際に、他の宝玉獣1体を魔法＆罨ゾーンに置く。

虹の古代都市レインボー・ルイン：フィールド魔法。自分の魔法＆罨カードゾーンに存在する「宝玉獣」と名のついたカードの数により以下の効果を得る。 1枚以上：このカードはカードの効果によつては破壊されない。 2枚以上：1ターンに1度だけプレイヤーが受ける戦闘ダメージを半分にすることができる。 3枚以上：自分

フィールド上の「宝玉獣」と名のついたモンスター1体を墓地へ送る事で、魔法・罾カードの発動を無効にし破壊する。 4枚以上：1ターンに1度だけ自分のメインフェイズ時に自分のデッキからカードを1枚ドローする事ができる。 5枚：1ターンに1度だけ自分のメインフェイズ時に魔法&罾カードゾーンに存在する「宝玉獣」と名のついたカード1枚を特殊召喚する事ができる。

ヴォルカニク・バックショット：星2/炎属性/炎族/攻500/守0

このカードが墓地に送られた時、相手ライフに500ポイントダメージを与える。このカードが「ブレイズ・キャノン」と名のついたカードの効果で墓地に送られた場合、手札またはデッキから「ヴォルカニク・バックショット」2体を墓地に送る事で、相手フィールド上モンスターを全て破壊する。

ファイヤー・トルーパー：星3/炎属性/戦士族/攻1000/守1000

このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、このカードを墓地に送る事で、相手ライフに1000ポイントダメージを与える。

ファイヤー・バック：通常魔法。手札の炎属性モンスター1体を墓地へ送り、自分の墓地に存在する炎属性モンスター1体を特殊召喚する。

ドロー・ボム：通常罾。相手がドローした時に発動する事ができる。相手プレイヤーに1000ポイントダメージを与える。

新生代化石騎士スカルポーン：星4/地属性/岩石族/攻2000/守800

自分の墓地の岩石族モンスター＋相手の墓地のレベル4以下のモンスター。このカードは「化石融合・フォッシル・フュージョン」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。

ちゅうせいだい かせぎ
古生代化石騎士スカルナイト：星6 / 地属性 / 岩石族 / 攻2400 / 守1100

自分の墓地の岩石族モンスター＋相手の墓地のレベル5または6のモンスター。このカードは「化石融合・フォッシル・フュージョン」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。相手フィールド上にモンスターが存在する場合のみ、バトルフェイズ中にもう一度だけ攻撃をする事ができる。

こせいだい かせぎ
古生代化石騎士スカルキング：星8 / 地属性 / 岩石族 / 攻2800 / 守1300

自分の墓地の岩石族モンスター＋相手の墓地のレベル7以上のモンスター。このカードは「化石融合・フォッシル・フュージョン」の効果でのみ特殊召喚する事ができる。相手フィールド上にモンスターが存在する場合のみ、バトルフェイズ中にもう一度だけ攻撃をする事ができる。このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、その守備力を攻撃力が超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

キングソードプレイ：古生代化石騎士スカルキングの攻撃名。相手に高速で接近して、剣を横に払い一刀両断にする。

キングソードプレイ・セカンド Second：古生代化石騎士スカルキングの攻撃名。二回目の攻撃。

かせぎ ふじ
化石融合・フォッシル・フュージョン：通常魔法。自分及び相手の墓地から、融合モンスターカードによって決められた融合素材モン

スターをゲームから除外し、「化石」と名のついた融合モンスター1体を融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

タイム・ストリーム：通常魔法。ライフポイントを半分払って発動する。自分フィールド上に表側表示で存在する「新生代化石騎士」または「中生代化石騎士」と名のついた融合モンスター1体をエクストラデッキに戻し、「新生代化石騎士」の場合は「中生代化石騎士」、「中生代化石騎士」の場合は「古生代化石騎士」と名のついた融合モンスター1体を召喚条件を無視して融合召喚扱いとしてエクストラデッキから特殊召喚する。

標本の閲覧：通常魔法。ひょうほん えつらん 手札のモンスター1体を捨て、種族とレベルを宣言して発動する。相手は手札またはデッキに宣言された種族とレベルの両方を満たすモンスターがいれば、そのカードを墓地へ送らなければならない。

ラフ・ファイト：通常魔法。自分フィールド上に表側攻撃表示の「フル・クラウン」が存在する場合、自分がダメージを受けた時に自分の墓地に存在するこのカードをゲームから除外する事で発動する。自分が受けたダメージと同じ数値のダメージを相手ライフに与える。

異次元からの埋葬：速攻魔法。いじげん まいそう ゲームから除外されているモンスターカードを3枚まで選択し、そのカードを墓地に戻す。

第36話 もうひとりの十代

周囲が黒い世界に変わり

遊城十代「うううううううう」

十代の顔色が悪くなる

遊城十代「ん！」

何者かの視線に気付く十代・・・そして頭の痛みが徐々に消えていく

遊城十代「だ、誰だ！」

鏡像の十代「・・・俺はお前だ」

遊城十代「自分自身だと!？」

十代は目の前にいる人物が自分自身だったことに驚いた

鏡像の十代「そうだ・・・それより面白いことを教えてやるよ」

遊城十代「面白いこと？」

鏡像の十代「お前が入った、この黒い球体は・・・生きる力を吸い取るんだ・・・そして過去の記憶をランダムに一つ覗かれる・・・この意味が分かるか？」

全く意味が分からない十代

鏡像の十代「つまり、お前の生きる力を徐々に吸い取られてるんだよ・・・このままだと死ぬぞ」

遊城十代「俺が・・・死ぬ・・・」

自分の生力が吸い取られていることに気付かされる

鏡像の十代「どうだ、お前の体を俺に貸すというのは？」

遊城十代「えっ？」

鏡像の十代「もし貸すというのなら、この球体から助けてやる」

鏡像の十代は十代を見て言う

鏡像の十代「元々俺はお前自身だ・・・元の一つに戻ると言えば良いだろ？」

遊城十代「……………本当だな……………」

少し考えて決心した十代

遊城十代「わかった、俺の体をお前に貸す」

鏡像の十代「フツ、それでいい」

十代の体の中に鏡像の十代が入っていき、そして一つになる

虚像の遊城十代「やっと体が手に入った…………さて、この空間にも飽きたし…………そろそろ出るか」

虚像の十代は集中して、大声で叫ぶ

虚像の遊城十代「うおおおおおおお！！」

黒い球体に元々あった生力と十代が吸い取られた生力が全て虚像の十代が吸い取り、球体は消えた

第36話 もつひとりの十代（後書き）

〈キャラクター説明〉

虚像きょざうの遊城十代ゆうきじゅうだい：黒い球体内において現れ、十代の鏡像が遊城十代と一つになった。

第37話 虚像の黒龍

黒い球体が急に光出して消える

零「今の光は何だ？」

ステルス「おい、球体が消えてるぞ！」

零は気付く

零「そういうことか・・・生力が限界になり、もう一人の自分に助けられたな」

虚像の遊城十代「はあああああ」

虚像の十代は息を吐く

零「しかも球体に溜められた生力を逆に吸い込んだのか？」

虚像の遊城十代「お前がフリーダムの零だな」

ズボンのポケットからカードデッキを取り出す

虚像の遊城十代「俺はミラーワールドからのライダー、リュウガ」

観客の持っていた鏡にカードデッキをかざし、Vバックルが虚像の十代の腰に装着され

虚像の遊城十代「変身」

虚像の十代はカードデッキをVバックルに装填して変身

リュウガ「はあああああ」

リュウガは息を吐き、凄い殺気で零を睨む

零「今の時点でお前と戦えば、負けることは確実だろう・・・だから一旦逃げさせてもらうよ」

ステルス「行くぞ、N！」

結界で戦っていたNは

N「わかった！・・・バンパイア・ガール・・・またいつか決着をつけよう」

Nはステルスと共に別の世界に消える

零「それと、次来るときは必ずこの世界を破滅させる」

零も別の世界へと消えた

Pドーパント「別の世界に逃げたようだな・・・それにしても」

パラドクス・ドーパントは鏡像の十代をみる

Pドーパント「あれは遊城十代なのか？」

リュウガ「うん？」

リュウガの前に小さな影が走り寄ってくる

ナギ？「先程は助けていただき、ありがとうございました」

ナギ？はリュウガに一礼

リュウガ「勘違いするな」
ナギ？「えっ？」

変身を解除したリュウガ

虚像の遊城十代「俺は奴等を追う・・・お前たちは黙って見物して
ろ」

虚像の十代が小さな次元の穴を開き、一人でフリーダムを追う

第37話 虚像の黒龍（後書き）

〈キャラクター説明〉

仮面ライダーリュウガ：虚像の遊城十代が変身する仮面ライダー。
基本カラーは黒。龍騎とほぼ同じ姿をしているが、体の色は黒く、
目の形はつり上がっており、紋章も龍騎のものよりも禍々しいもの
となっている。契約モンスターはドラグブラスカー。必殺技はドラ
ゴンライダーキック。

〈用語説明〉

ミラーワールド

鏡世界：鏡の中に存在し、左右反転されている以外は現実世界とそ
っくりだが、モンスターやミラーワールドの住人以外の生物は存在
しない世界。ミラーワールドには生身の人間は長時間存在すること
が出来ず、一定時間を過ぎると粒子化して消えてしまう。逆にミラ
ーワールドに生息する者が現実世界に長時間存在することもできな
い。ライダーの活動限界時間は9分55秒となる。基本的に鏡から
出入りするが、ガラス、水たまりなど鏡面化しているものでも出入
りが可能である。ただし入った時と同じ鏡面からしか出ることがで
きない。

カードデッキ：アドベントカードを収納したデッキで、変身のキー
アイテムであるのみならず、仮面ライダー同士の身分証明のように
も用いる。変身者でなくても触れるだけでミラーワールドを観るこ
とが可能。モンスターとの契約後は各ライダーのモチーフをイメー
ジした紋章が浮かび上がる。このデッキが破壊された場合は変身

が解除され、契約破棄と見なされて契約モンスターに捕食されたり、ミラーワールドから脱出不能となって消滅してしまう。

Vバックル：鏡や水面などの鏡面にカードデッキをかざすことで実体化する変身ベルト。カードデッキをVバックルに装填することによって仮面ライダーに変身することができる。

次元の穴^{じげんあな}：次元の扉と同じだが、悪の心を持った者でなければ開かない。

第38話 財団Xの使者

魔法世界を一時的に離れた零が別の世界に到着して数秒が経ち

零「こちら零、N応答せよ」

零は携帯でNと連絡を取っているが繋がらない

零「ちつ、やはり繋がらないか……ん！（足音？）」

少しずつ足音が近づき……部屋の扉が開く

加頭 順「私の名は加頭順、フリーダムの零ですね？」

零「その白服……財団Xが俺に何か用か？」

加頭 順「アナタにコレを渡しに来ました」

順は手に持っていたトランクを零に渡し、それを開ける

零「TSガイアメモリと ドライバー？」

TSガイアメモリにはFの文字が刻まれていた

加頭 順「そのメモリはフリーダム、アナタが使すべきメモリです」

零「ガイアメモリの戦士になれと？」

加頭 順「はい……既にクオークスとは手を組んでいます、後はフリーダムと手を組むだけ」

零「何が目的だ？」

順に手を組む目的を問う

加頭 順「NEVERの消去」

零「消去！？まさか死体共がこの世界にいるのか！」

加頭 順「ここがNEVERの拠点です」

零「そうか、それは好都合だな・・・だがその前に」

零が後ろを見たとき次元の穴が開いた

加頭 順「これは次元の穴！」

次元の穴から虚像の十代が現れる

虚像の遊城十代「見つけたぞ」

再びカードデッキを手に持ち、Vバックルが虚像の十代の腰に装着された

虚像の遊城十代「変身」

虚像の十代はカードデッキをVバックルに装填して変身

零「フリーダムメモリの力、お前で試してやる」

零は ドライバーを腰に装着した

第38話 財団Xの使者（後書き）

～キャラクター説明～

加頭かず順じゅん：財団Xの使者。完全に無表情だが、一種の感情表現なのか不意に手にしている物を床に落とす癖がある。

～用語説明～

財団Xざいだんエックス：闇の巨大資本。ミュージアムの「地球の記憶」の研究やガイアメモリの開発に必要な多額の資金確保は、この組織のバックアップにより実現している。

クオークス：超常能力を増幅する細胞処置を受けた超能力兵士。パイロキネシス・サイコキネシス・サイコメトリーといった様々な念動力を使いこなす。

T S Fメモリ：「自由の記憶」を宿した T Sフリーダムメモリ。

第39話 自由を手に入れた戦士

零は ドライバーを腰に装着

零「变身」

フリーダム！

零はTSFメモリを使って変身した

加頭 順「気分はどうですか？」

フリーダム「最高だよ・・・この姿になった瞬間、やっと自由を手に入れたんだって気になる」

リュウガ「はああああああ」

リュウガはブラックドラグバイザーの上部カバーを開いてその中にカードを装填し

ソードベント！

ソードカードを使ってドラグセイバーを召喚した

フリーダム「うん？」

フリーダムの両手には黒いグローブが着けられている

フリーダム「何だ、この手は？」

加頭 順「それはワイヤーグローブですね」

フリーダム「ワイヤーグローブ？」

加頭 順「アナタが使うワイヤーをグローブ化したものです」

そう聞くとフリーダムはワイヤーグローブを見た

フリーダム「へえ、この指の先端からワイヤーが出るのか」

フリーダムはリュウガの方を向いて構える

フリーダム「武器の使い方を分かったところで勝負だ」
リュウガ「来い」

リュウガも構えた・・・その時！

？ ？ ？「お前だな、日本のオニクスってのは！」
リュウガ「ん！お前は・・・王蛇」

リュウガの前に王蛇が現れた

フリーダム「あれは誰だ？」

加頭 順「仮面ライダーストライクです」

順の話を聞いていたリュウガがストライクに聞く

リュウガ「ストライク？お前は浅倉威じゃないのか」

ストライク「浅倉威？・・・俺はジェームズ・トレードモアだ」
リュウガ「が、外人だと！？」

ストライクはリュウガに指をさして言う

ストライク「お話タイムは終わりだ・・・さて、そろそろ仮面ライダーオニクスのベントと行くか」
リュウガ「オニクス？ベント？？」

リュウガは外国版の王蛇に命をかけた勝負を挑まれた

第39話 自由を手に入れた戦士（後書き）

〈キャラクター説明〉

仮面ライダーフリーダム：零がTSFメモリの力で変身する仮面ライダー。基本カラーは白。武器は手に着けているワイヤーグローブ。必殺技はフリーダム・リッパ―。

浅倉 威^{あさくら たけし}：感情の赴くままに多くの人間を理由なく殺害し、関東拘置所に拘留されていた凶悪殺人犯。

仮面ライダー王蛇^{おうじょう}：浅倉威が変身する仮面ライダー。基本カラーは紫。浅倉の闘争心と攻撃的な性格、凶暴性によって他のライダーを圧倒する戦闘力を持つに至っており、執拗に標的を襲撃する戦法を得意としている。契約モンスターはベノスネーカー。必殺技はベノクラッシュ。

ジェームズ・トレードモア：「JTC」のハンドルネームで知られる伝説的なハッカーでプログラー。

仮面ライダーストライク：JTCが変身する仮面ライダー。王蛇の外国版。

仮面ライダーオニキス：変身者が謎の仮面ライダー。リュウガの外国版。

〈用語説明〉

ワイヤーグローブ：零が使うワイヤーをグローブ化した武器。

ブラックドラグバイザー：龍騎のドラグバイザーの色違いだが、カード読み上げの音声は低く、くぐもった声になっている。

ドラグセイバー：ソードベントによって召喚される、ドラグブラッカードの尾を模した剣。

ベント：ライダー同士の戦いに敗れると、第三の異空間であるアドベント空間へ転送される。

第40話 大道要暗殺計画

ストライクとリュウガが戦っている中、トライアングルタワー最上階では事件が起きようとしていた

グラッパ「これがトライアングルタワーか？それじゃあ、まず俺とシードルとテネシーがターゲットの暗殺に向かう・・・そして残った4人は他の連中の気を引きつけてほしい」

グラッパの仲間たちは頷く

グラッパ「よし、行動開始だ！」

7人はトライアングルタワーの裏玄関から入っていった・・・
トライアングルタワー1階

シードル「誰もいねえな」

テネシー「気を抜かないの、敵は隠れてるかもしれないんだから」
グラッパ「・・・ん？エレベータ　??」

グラッパは走ってエレベーターを見に行く

グラッパ「・・・」

プルーン「どうかしましたか？」

グラッパ「このエレベーター、最上階まで行けるな・・・シードルとテネシー以外は隠れて待機しろ」

プルーン「わかりました」

グラッパ「行くぞ！」

グラッパとシールド&テネシーは最上階行きのエレベーターに乗り込む

グラッパ「準備は良いか？」

シールド「ああ」

テネシー「OKよ」

エレベーターが最上階に到着・・・そこには要が椅子に座っていた

大道 要「久しぶりだな、グラッパ・・・俺に何か用か？」

グラッパ「大道・・・要」

テネシー「ジンからアナタへの暗殺命令がでたわ」

グラッパ「お前はここで終わりだよ」

要は笑う

大道 要「はっはっは、俺を殺すというのなら撃ってみろ！」

グラッパ「言われるまでもない」

グラッパは要に銃を向ける

グラッパ「さようなら、大道要！」

バンッ！

銃弾が要の心臓を直撃し、要はその場に倒れた

第40話 大道要暗殺計画（後書き）

（用語説明）

エレベーター：ワイヤロープにつるした箱を、専用の昇降路内をモーターで上昇・下降させ、人・貨物を運搬する装置。

第41話 暗殺失敗

グラッパが撃った銃弾が要の心臓を直撃し

大道 要「ううううう」

要はその場に倒れる

グラッパ「テネシー、ジンに報告しといてくれ」

テネシー「わかったわ」

テネシーは携帯を取り出して、ジンに電話した

シードル「グラッパ、早く外に出ようぜ！」

グラッパ「悪いが俺はコイツの後始末があるから、プルーン達と車に戻ってくれ」

シードル「なら先に車で待ってるぜ」

シードルはテネシーと一緒にエレベーターに乗って、1階まで降りる

グラッパ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

グラッパは倒れている要の方まで歩きながら言う

グラッパ「残念だったな要、組織を裏切らなければ殺されなかったのに」

大道 要「ああ、本当に残念だよ・・・死ねなくて」

要は起き上がった

グラッパ「何!？」

大道 要「知らないのか？俺はもう死んでるんだよ」

グラッパ「死んでる？そんなこと信じられるか！」

大道 要「俺はNEVERだぜ、NEVERは死人を意味する」

グラッパに銃を向ける要

大道 要「終わりだ」

バンッ！

銃弾がグラッパの心臓を直撃し、グラッパはその場に倒れる

グラッパ「そ、そん・・・な」

大道 要「楽しかったよグラッパ」

要は椅子に座った

第42話 ベント

グラッパの暗殺が失敗に終わった頃、ストライクとリュウガが命をかけて戦っていた

リュウガ「はああああ！」

リュウガはドラグセイバーでストライクを切ろうとする

ストライク「ん！」

ストライクはベノバイザーの先端のコブラの頭の部分にカードを装填し

ソードベント！

ソードカードを使ってベノサーベルを召喚した

ストライク「おっと！危ないねえ」

ドラグセイバーの一振りをストライクはベノサーベルで防ぐ

ストライク「そっぴゃあ、さっき浅倉威とか言ってたな」

リュウガ「ああ？」

ストライク「その浅倉威という男なら・・・俺が倒してやったぜ」

リュウガ「何！？奴を倒しただと！」

リュウガは浅倉威が倒されたことに驚く

ストライク「奴は既にライダー失格だったんだよ」

リュウガ「ううううう」

ストライクがリュウガを圧倒している

ストライク「ライダーを失格した者はベントされる運命なのさ！」
リュウガ「ベントって何だよ！」

ストライク「ベントってのは戦いに敗れると起きる現象のことだ！
・・フン！！」

ベノサーベルがリュウガのドラグセイバーを弾いた

ストライク「だからお前もベントする」

ベノバイザーの先端のコブラの頭の部分が開き、カードデッキの上から1枚引く

ストライク「お前の悲鳴を聞いてみたい」

引いたカードはベノバイザーに装填され
ファイナルベント！
ファイナルカードを使ってベノスニーカーをミラーワールドから呼び出した

ストライク「さあ、祭りの時間だ！」

ベノスニーカーが後ろから近付いてきた後、ストライクが前に向かって走り出し

ストライク「フン！」

思いっきり飛んで宙返りする

リュウガ「ま、マズイ！」

ストライク「はあああああ！」

ストライクはリュウガにベノクラッシュを放つ

ベノクラッシュ： 空中からベノスネーカーの毒液の勢いを乗せて連続蹴りを放つ

リュウガ「うわあああああ！」

リュウガは飛ばされ

リュウガ「やっと体が入ったのに……俺は……」

ベントされた……がベントされたのは虚像の十代で本物の十代は気を失っている

ストライク「クハハハハハハハ、仮面ライダーオニキスの華麗なフイニッシュです」

ストライクはリュウガのカードデッキを拾う

第42話 ベント（後書き）

（用語説明）

ベノバイザー：コブラを模した杖型の召喚機。

ベノスネーカー：コブラ型モンスター。凶暴な性格をしており、口から放つ毒液と頭部両脇のベノハーシユと呼ばれる刃を武器に戦う。
ベノクラッシュ：空中からベノスネーカーの毒液の勢いを乗せて連続蹴りを放つ。この技で多くのライダーを倒した。

ベノサーベル：ソードベントによって召喚される、ベノスネーカーの尾を模したドリル状の剣。

第43話 けいおん部の旅行

ここは米花駅前、そこには5人の女性が旅行に来ていた
だが彼女たちはこの米花町で事件が起きている事を知らない

田井中 律「なあムギ、ここが米花町なのか？」

秋山 澪「思ったより人が少ないんだな」

琴吹 紬「前に来たときは人がもつといたはずなんだけど」

数ヶ月前に紬は一度、父と一緒に米花町に来ていたのだ

平沢 唯「りっちゃん・・・この町、少し様子がおかしいよ」

中野 梓「確かに唯先輩の言う通りですね、まるで何かに怯えているよう・・・なの？」

梓はこっちに近づいてくるスーツ姿の男性に気付く

白鳥任三郎「君達、ここで何をしてるんだい？」

秋山 澪「あなたは？」

白鳥任三郎「おっと失礼、僕は警視庁刑事部捜査一課強行犯捜査三係の白鳥です」

平沢 唯「刑事さん！？わわわわわわ、私達何も悪い事なんてしてませんよ」

唯はスーツ姿の男が刑事と知った瞬間、自分達が何か悪いことをしたと思い焦った

田井中 律「あの、何かあったんですか？」

律の質問に白鳥刑事は答える

白鳥任三郎「今この米花町はN E V E Rというテロリストに占拠されているんだ、情報だと彼等は銃が効かない肉体を持つ死人らしい」
「？ ？ ？」「そう俺たちN E V E Rは死人・・・というより・・・死神です」

白鳥刑事の少し離れた後ろにニツコリ笑った男が立っていた

白鳥任三郎「き、君はN E V E Rのリストに載っていた！」

幽魔霊地「幽魔霊地だ、夜露死苦」

クイーン！

霊地はT2Qメモリを投げ、澪をドーパントに強制変身させる

Qドーパント「・・・・・・・・・・・・・・・・」

平沢 唯「澪ちゃん！」

田井中 律「澪が・・・・・・・・怪物に」

幽魔霊地「あとは頑張って」

霊地は一瞬で姿を消す

白鳥任三郎「（ドーパントに銃は効かない・・・一体どうすれば）」

チャリンと音がした、誰かが何かを落としたらしい

白鳥任三郎「ん？」

その落ちた物は白鳥刑事の足元まで転がってきた

白鳥任三郎「メダル？」

火野映司「あ、すみません・・・それ俺が落とした物です」

白鳥刑事はメダルを落とした青年にメダルを投げる

白鳥任三郎「危ないから早く逃げなさい！あと君たちも逃げるんだ
！！」

火野映司「ありがとうございます、でも逃げるのはコイツ倒してか
らかな」

既に装着しているオーズドライバーに赤・黄・緑のメダルを入れ、
スキャナーでスキャンした

火野映司「変身！」

タカ・トラ・バッタ・・・タトバ！タトバ タトバ！！

映司はオーズ（タトバコンボ）に変身

第43話 けいおん部の旅行（後書き）

〈キャラクター説明〉

火野 映司：定職も貯金も住居も持たずに各地を放浪しており、旅好きの祖父に言われた「男はいつ死ぬか分からない。パンツだけは一張羅を履いておけ」との言葉から、その日に履くパンツとわずかな日銭だけを持って暮らしている。気ままな生活に心から満足し、世の中を達観した様子さえみせるマイペースな性格。仮面ライダーオーズに変身。

仮面ライダーオーズ：火野映司がオーメダル之力を用いて変身した仮面ライダー。胸部に円形のプレート・オーリングサークルがあり、使用したメダルのモチーフとなる3種類の生物の顔の図柄が描かれ、頭部・四肢に向かってエネルギー流動路・ラインドライブが伸びている。全身のベースは黒であり、サークル・ライン・頭部はメダルに準ずるカラーリングとなっている。各部位が力を発揮する場合、オーリングサークルの該当部位が発光しラインドライブからエネルギーを送り込む。なお、変身時に現れる無数のメダル状エネルギーは実体を持つため、敵にぶつけて攻撃に応用したり敵の攻撃に対する防御にも使用できる。

幽魔 霊地：「NEVER」の幽霊。いつも身体の回りに人魂が浮いている。

白鳥 任三郎：警視庁刑事部捜査一課強行犯捜査三係の警部。国家公務員1種試験合格を経て警察庁入庁のキャリア組。

平沢 唯：マイペースで天然なドジっ娘。パートはリードギターと

ボーカル。ライブではMCも担当。軽音楽を「軽い音楽」だと勘違いして軽音楽部に入部。勉強も運動も苦手で、楽器演奏も全くの初心者だったが、意外にも非凡な技量を発揮する。愛用するギターのことは「ギー太」と呼ぶ。

秋山 澪^{あきやま みお}：腰までの長い黒髪が特徴。パートはベースとボーカル。文芸部入部志望だったが、律が強引に軽音楽部へ引き入れた。クールで大人びていてプロポーションもよいが、本性は繊細で怖がり。恥ずかしがりやである。曲名と作詞を担当しているが、そのセンスは非常に独特である。左利きで、ベースもレフティ仕様。

クイーン・ドールパント：鉄壁のバリアーを発生させ、敵の攻撃を防ぐことができる。

田井中 律^{たいなか りつ}：軽音楽部部长で、パートはドラムス。髪はショートカットでカチューシャをしている。大雑把で豪快なおてんば娘で、「指でちまちまする」ような楽器が苦手という理由からドラムを選んだ。幼稚園時代からの幼馴染である澪をよくいじり、その度に拳骨で制裁を受ける。

琴吹 紬^{ことぶき つむぎ}：太い眉が特徴。パートはキーボード。合唱部入部志望だったが、律と澪の勧誘を受けて軽音楽部に入部した。大企業の社長令嬢で、温厚でおっとりした性格。部室にある高価なティーセットやお菓子も彼女が持ち込んだもの。

中野 梓^{なかの あずな}：軽音楽部の新入部員にして唯一の後輩。唯の妹の憂とは同級生で友人。パートはリズムギター。新歓ライブに感動し、特に唯の演奏に憧れ入部した。真面目な性格で、始めは部の緩んだ雰囲気

気に反発するも、徐々に馴染んでいく。

（用語説明）

オーズドライバー：オーメダルとともに石板の状態で封印されていたが、アंकによって持ち出され、映司に渡されて彼が装着したことにより、石化の封印が解かれた。

オースキャナー：オーズドライバーにおいて、システムの核を担うスキャナー。普段は右腰部にマウントされている。オーカテドラルに挿入した3枚のコアメダルを横一線にスキャンすることでメダルの音声が発音されると共にコアメダルの力を取り込み、変身者の肉体に転送する。さらに、変身中にメダルを再スキャンすると「スキャンングチャージ！」の音声と共に、各形態に応じた必殺技を発動する。

オーメダル：800年以上前に当時の科学者が人工の生命を作るため、地球に生息する様々な生物のパワーを凝縮して作った神秘のメダル。人間をオーズに変身させるとともに、グリードの身体を構成する細胞の役目を果たす。メダルの表面には生物のシンボルマークが描かれている。以下の2つの種類が存在する。オーズは変身に「コアメダル」を、ツールの起動には「セルメダル」を使用する。

タトバコンボ：固有能力なし。タカ・トラ・バッタの組み合わせで変身する基本コンボでオーズの基本形態。基本カラーは赤・黄・緑。オーラングサークルは全周が金縁となっており、さらに直接変身した際はは全身が黄色く、他の形態からコンボチェンジした場合は頭部が赤・腕部が黄・脚部が緑に輝く。全体的な能力バランスが取れており、特に視力・腕力・ジャンプ力・キック力・敏捷性に優れている他、トラクローによるクロー攻撃やバッタレッグによるキッ

ク技といった持ち前のスピードを活かした戦法を得意とする。固有能力はないかわりにコンボであるにも関わらず体力の消耗もほとんどない。最初にこの形態に変身してから相手や状況に合わせてメダルを換えていくのがオーズの基本戦術になるが、必ずしも最初からこの形態で変身する必要はなく、最初から他のコンボ・亜種形態に変身することも可能。他のコンボと違い特化した能力を持たないが、各部位の能力をフルに活用すればグリードからのコアメダルの奪取に優れている。

タカ・コア：タカヘッド。複眼の色は緑。変身時に額の菱形のオークオーツがガーネット色のアंक型に輝く。視力に優れ、グリードの体内に潜むコアメダルを認識したり、体色変化により姿を隠した敵を視認することができる。なお、オーラングサークルの意匠はシヨツカーマークのオマージュになっている。タジャドルコンボ時には羽根・嘴状の外装甲が追加されるとともに複眼が赤く染まり、オークオーツは金色の鳥の嘴のような形状へと変化したタカヘッド・ブレイブへと変化し、より飛行に特化したスペックへと強化される。

トラ・コア：トラアーム。腕力に優れる。両前腕部に折り畳み式の鉤爪状武器・トラクローが付随しており、敵を引き裂く武器としてはもちろん、壁や地面に突き立ててスピードを殺すアンカーとしても多用される。真空刃を放つことで遠方の敵を切り裂いたり、クローにメダルを挟み込むようにして直接敵の体内からコアの奪取が可能。

バッタ・コア：バッタレッグ。ジャンプ力・キック力・敏捷性に優れる。必殺技発動時など、その跳躍力を最大限に発揮する際には足先がバッタ脚へと変化する。

第44話 鉄壁と右腕怪人と重力コンボ

火野映司「変身！」

タカ・トラ・バッタ・・・タトバ！タトバ タトバ！！

映司はオーズ（タトバコンボ）に変身

白鳥任三郎「君は何者なんだい？」

オーズ「オーズ、仮面ライダーオーズ」

平沢 唯「仮面ライダー？」

中野 梓「上下三色の仮面ライダーがいるなんて、興味深いです！」

オーズは構える

オーズ「いくぜ」

Qドーパント「キュッ！」

クイーン・ドーパントが先にオーズを攻撃する

オーズ「おっと」

だがオーズはその攻撃を避け

オーズ「せいっ！」

オーズはクイーン・ドーパントにキック！

オーズ「何！バリア！？」

Qドーパント「キュ？キュッ！」

クイーン・ドーパントの不意打ちの蹴りをくらって、吹っ飛ぶオーズ
？ ？ ？「映司、何やってる！」

オーズはこの声に聞き覚えがあつた

田井中 律「う、腕が浮いてる！？」

律は空中に腕が浮いていたので驚く

オーズ「アंक！」

アंकはオーズがクイーン・ドーパントに攻撃している時に薄いバリアを張っているのが分かる

右腕アंक「バリア？映司、このコンボで何とかしろ！」

3枚のメダルをオーズに投げ、オーズは上手くキャッチ

オーズ「そうか、このコンボなら」

オーズドライバーからタカ・トラ・バッタのメダルを抜き、

3枚の銀色のメダルをスキャナーでスキャンした

サイ・ゴリラ・ゾウ・・・サゴーズ サゴーズ！！

オーズはタトバからサゴーズにコンボチェンジ

オーズ（サゴーズ）「うおおおおおおお！」

オーズの重力コンボでクイーン・ドーパントのバリアを破ることは

出来るのか？

第44話 鉄壁と右腕怪人と重力コンボ（後書き）

〈キャラクター説明〉

アंक：映司に協力する鳥系グリード。石棺から最初に覚醒したが右前腕部しか実体化できず、腹いせにオースドライバーと他のグリードのコアメダル数枚を横領。偶然自分のコアを拾った映司に、メダル集めに利用できると判断してドライバーを与えた。当初はヤミの生成といった本来の能力をほとんど失っていたため、メダル集めと戦闘の殆どをオースに依存していた。

〈用語説明〉

サゴーズコンボ：固有能力は重力操作。サイ・ゴリラ・ゾウの組み合わせで変身する重量系コンボ。基本カラーは灰色。変身時は全身が灰色に輝く。パワー・防御力・姿勢制御能力・腕力・強靭さ・脚力・キック力・耐久力に優れており、特にパワー・腕力・防御力はブティラコンボと同等で、パンチ力はブティラコンボに次いで高い他、地上・地下に潜む敵をソナーのように感知したり、地震の発生といった能力を備える。主にパンチ・キックを主体とした近距離戦を得意とするが、ゴリバゴンによる遠距離攻撃も可能。また、両足を揃えて対象を踏みつける様に放つサゴーズキックという技も備える。さらに周囲の重力場を操作する固有能力を持ち、特定の対象の周囲の重力を増大させたり無重力にしたりすることで敵の動きを封じることが可能。この固有能力により、空を飛ぶ敵や素早い敵にあえてこのコンボで挑むことがある。また、攻撃力・防御力が高いヤミとの戦闘に適しているが機動力が低いため、複数戦には

不向きである。

サイ・コア：サイヘッド。複眼の色は赤で、額のオークオーツはルビー色の六角形。姿勢制御能力に優れる。サイの角を模した額のグラビドホーンは頭突きによる刺突攻撃に用いるほか、サゴーズコンボ時は重力操作能力の核としての役割を果たす。

ゴリラ・コア：ゴリラアーム。パワー・パンチ力・腕力・強靱さに優れる。両前腕部にガントレット状武器・ゴリバゴーンが付随しており、バゴーンを腕からロケットのように射出する特殊技「バゴーンプレッシャー」によって遠距離攻撃も可能なほか、サゴーズコンボ時はドラミングによって重力操作を行う。

ゾウ・コア：ゾウレッグ。脚力・キック力に優れる。両足を揃えることで一本のゾウの脚のような形状となり、高い破壊力の踏み付け攻撃「ズオーストップ」を繰り出す。

第45話 重力VS鉄壁

オーズ（サゴーズ）「うおおおおおおお！」

オーズは叫び声をあげ、クイーン・ドーパントにパンチする

Qドーパント「キュウー！」

パンチはクイーン・ドーパントのバリアを破り、クイーン・ドーパントを吹っ飛ばす

オーズ（サゴーズ）「よし効いてる！このまま倒せれば」

Qドーパント「キュウー・・・キューーーーーー！」

いきなりクイーン・ドーパントは叫び、身体がピンク色に光り始める

オーズ（サゴーズ）「こ、この光は一体！？うつ！」

そして光は一瞬だけ強くなって少しずつ消えていく

オーズ（サゴーズ）「何だったんだ、今の光？」

右腕アंक「映司、早く奴を倒せ！」

オーズ（サゴーズ）「わかってる！」

スキヤニングチャージ！

オースキャナーでオーズドライバーに入っているメダルを再スキヤンする

オーズ（サゴーズ）「はっ！」

オーズはその場で跳躍し、着地の衝撃と共に灰色の3つのリングがクイーン・ドーパントを地面に捕縛

Qドーパント「……………」

クイーン・ドーパントはオーズの手元に引き寄せられ

オーズ（サゴーズ）「はああああ、セイヤー！」

オーズはクイーン・ドーパントにサゴーズインパクトを放った
サゴーズインパクト：頭突き・ゴリラアームでのフックパンチを同時に叩き込む

オーズ（サゴーズ）「はあ……はあ……はあ」

息切れしつつも、その場に立っているオーズ
いつもであればコンボの負担が大きいため容易に多用できず、
大抵の場合は必殺技発動後に強制的に変身が解除されるのだが解除
されていない

オーズ（サゴーズ）「やった……のか？」

Qドーパント「甘いすわよ、仮面ライダーオーズ」

煙の中からクイーン・ドーパントが姿を現す

オーズ（サゴーズ）「なっ！」

Qドーパント「次は私たちの番ですわ……覚悟しなさい」
オーズ（サゴーズ）「私達？……ん！」

物陰から50人のマスカレイド・ドーパントが現れ、
クイーン・ドーパントを護るように囲んだ

第45話 重力VS鉄壁（後書き）

～キャラクター説明～

マスカレイド・ドーパント：下級のドーパント。メモリは量産されており園咲家や財団Xに仕える男たちが変身するが、タキシードはそのままの状態残り、頭部のみが背骨やムカデを思わせる覆面をしたかのように変身し、通常のドーパントに見られる球体がない。特殊な能力は持たず、肉弾戦や拳銃などで戦ういわゆる戦闘員的な存在。倒されるとメモリブレイクされずに消滅し、警察が持つごく普通の拳銃の他、戦い慣れた人物なら格闘戦でも倒せる。兵装にも特殊能力は見受けられない。

～用語説明～

スキヤニングチャージ：変身中にオーズドライバーに入ったメダルを再スキャンし、各形態に応じた必殺技を発動する。

サゴーズインパクト：その場で跳躍し、着地の衝撃と共に灰色の3つのリングで標的を地面に捕縛し、手元に引き寄せて頭突き・ゴリラアームでのフックパンチを同時に叩き込む。命中後、破壊された地面は修復される。

第46話 天の道を往き、総てを司る男

物陰から50人のマスカレイド・ドーパントが現れる

右腕アंक「ざっと50人はいるな・・・映司、このコアに変えろ！」

2枚のメダルをオーズに投げた

オーズ（サゴーズ）「ああ」

ライオン・ゴリラ・チーター！

オーズはサゴーズからラゴリーターにチェンジ

オーズ（ラゴリーター）「はあ・・・はあ」

Qドーパント「全員行きなさい！」

クイーン・ドーパントの掛け声とともにマスカレイド・ドーパントがオーズを狙う

オーズ（ラゴリーター）「はああああ！」

オーズはマスカレイド・ドーパントを無視してクイーン・ドーパントに向かって走る

オーズ（ラゴリーター）「おりゃ！」

ドン！とオーズはクイーン・ドーパントにパンチするが

Qドーパント「そんなパンチなんて、私には効きませんわ」

また再びオーズは吹っ飛ぶ

オーズ（ラゴリーター）「はぁ．．．．．はぁ．．．．．」

映司は起き上がろうとしても起き上がれない
もう体力が残ってないからだ

Qドーパント「チェックメイトですわ」

マスカレイド・ドーパントがオーズに攻撃しようとした．．．．．
その時！

？ ？ ？「クロックアップ」

オーズ（ラゴリーター）「えっ？」

一瞬でマスカレイド・ドーパントは全員倒された

Qドーパント「い、一体何が起こりましたの？」

？ ？ ？「．．．．．」

Qドーパント「そこに誰かいますわね、アナタは何者なの？」

建物の陰からライダーが現れ、空を指し示すポーズをとって答える

カブト「おばあちゃんはどう言ってた．．．天道の道を往き、総てを
司る男．．．．俺の名は天道総司」

Qドーパント「天道．．．．総司？」

カブト「お前の相手は俺がする」

天道総司と名乗った、このライダーはクイーン・ドールパントを倒す
ことが出来るのか？

第46話 天の道を往き、総てを司る男（後書き）

〈キャラクター説明〉

天道 てんどう 総司 そうじ：仮面ライダーカブトの資格者。自らを「天の道を往き、総てを司る男」と称する。自分が世界で1番偉いと本気で思っており、天を指し示すポーズをとる。人を見下した、傲岸な態度を取ることが多いが、弱者は決して見捨てず、救いの手を差し延べる。妹の樹花には常に優しく接するが、樹花が危険に晒された際は、常日頃の冷静さも失い、取り乱すこともある。

〈用語説明〉

クロックアップ：超高速の特殊移動方法。ワーム成虫体や各ライダーフォームが、体を駆け巡るタキオン粒子を操作し、時間流を自在に行動できるようになることで行う。ワームは自らの意思で、ライダーの場合は腰部のベルトにあるスイッチに触れることにより発動する。スイッチはバツクル中心部の両脇にあり、カブト・ガタック・ダークカブトはプッシュ式のスラップスイッチ、他ライダーはスライド式のトレーススイッチである。

ラゴリーター：亜種形態の一つ

ライオン・コア：ライオンヘッド。複眼の色は青で、額のオークォーツはトパーズ色の爪型。視覚外の地形を正確に把握できるほど聴力に優れ、暗所でも物体を視認できる。さらにたてがみの部分で乱反射を起こし、強力な光を放つ「ライオネルフラッシュャー」で一時

的に敵の目を眩ませることも可能。

チーター・コア：チーターレッグ。攻撃力・スピード・敏捷性に優れる。敵に組み付いての素早い連続蹴り「リボルスピッキング」によって高い攻撃力を実現し、最大加速時はスチームが噴き出す。ただしトップスピードの状態から急に止まることができない。

第47話 闇世界の王と幹部たち

闇世界、以前大ショックの幹部0が『ライダーデリート事件』を起こした場所だ

アーク「……………これで全員か？」

闇世界の王、アークの前に幹部たちが集まった

アーク「全員いるようだ……今回集まった訳は、皆も知ってるな」

幹部たちは頷く

アーク「T、報告を頼む」

T「はい……………先程、ZEROからの緊急報告によるレポートが届きました……内容はSOSです」

NEO「ZEROからSOS？珍しい」

Ryu^ma「まさかこの妙な感じと関係があるのか？」

Tは頷き、アークは命令した

アーク「JUN、今すぐここに地下牢からWINを連れてこい」

JUN「は、はい！」

JUNが地下牢に向かって走り出して……数分後、JUNはWINを連れてきた

WIN「アーク、今さら俺に何のようだ」

R y u ^ m a 「くっ！」

W I N に剣を向ける R y u ^ m a

R y u ^ m a 「貴様、言葉を慎め！」

アーク「R y u ^ m a、少し落ち着け」

R y u ^ m a 「す、すいません」

R y u ^ m a は剣を収める

アーク「用件は言わなくともわかるな？正直に答えよ」

W I N 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

R y u ^ m a 「早く答えろ！」

R y u ^ m a は W I N を軽くド突いた

W I N 「この感じは大道要だ」

アーク「大道要？」

アークが大道要のことを W I N に聞く

W I N 「大シヨッカーの幹部ですよ・・・以前は人間だったが今は人間じゃない」

N E O 「どういう意味？」

W I N 「奴は死人だ・・・しかも似たようなのが幾つも感じると言うことは N E V E R か」

W I N は笑いながら言う

W I N 「クククッ、Z E R O の奴も終わりだな」

R y u ^ m a 「き、貴様あ！」

R y u ^ m a は W I N に 再 び 剣 を 向 け た

第47話 闇世界の王と幹部たち（後書き）

〈キャラクター説明〉

アーク：闇世界の王。0との戦いで敗北し封印されていたが、デイケイド・ディエンド・ディサイドの力によって封印が解かれ復活した。

T：闇世界の幹部。仮面ライダーダークカブトに変身。

Ryuuma^{リュウマ}：闇世界の幹部。仮面ライダーオーガに変身。

Neo^{ネオ}：闇世界の幹部。仮面ライダーネガ電王に変身。

Jun^{ジュン}：闇世界の幹部。仮面ライダーアビスに変身。

Win^{ウィン}：闇世界の元幹部。仮面ライダーリュウガに変身。以前0と手を組んで『ライダーデリート事件』を起こした裏切り者。

0：大ショッカーの幹部。名は0をゼロと読む。仮面ライダーデイスイドに変身。以前、闇世界で『ライダーデリート事件』を起こして世界を征服しようとしたが、アークが復活して怒りと共に強化した姿、レジェンドアークに消されたが……。？。

〈用語説明〉

Dark World^{ダークワールド} 闇世界：アークの故郷。今では別世界から来た幹部たちと共に闇世

界を護っている。

ライダーデリート事件：0が起こした事件。全世界のライダーを消去して世界征服を企んでいたが失敗に終わった。

第48話 4年前の出来事

R y u ^ m a は W I N に再び剣を向ける

R y u ^ m a 「今ここで斬ってくれる！」

T 「落ち着け、R y u ^ m a !」

T は R y u ^ m a を全力で押さえた

W I N 「俺を斬っても死にませんよ．．．だって俺．．．もう死んでますから」

アーク「何を言っている？」

W I N 「俺は4年前に死んでるんですよ」

皆が驚いた、W I N が死んでいた事を誰も知らなかったのだ

W I N 「そう4年前、この闇世界に侵入者が入り込んだと連絡を受けて俺はすぐ現場に向かった」

．．．．．4年前．．．．．

? ? ? 「．．．．．」

W I N 「（ん？若い男？）」

W I N が見る先には若い男が下を向いて座っていた

W I N 「お前が侵入者だな？」

? ? ? 「ん？」

若い男がWINを見る

？ ？ ？「半分正解で半分ハズレだな」

WIN「何？」

？ ？ ？「自己紹介をしよう、俺の名は0・・・お前は」

WIN「侵入者に名乗る名はない」

0「そうか」

0は地面に刺してある剣を取り、カード挿入口にライダーカードを装填

0「変身」

カメンライド・ディザイド！

0はライダーカードを使ってディザイドに変身した

WIN「お前、ライダーだったのか！」

ズボンのポケットからカードデッキを取り出して近くにある割れた鏡にカードデッキをかざし、VバックルがWINの腰に装着され

WIN「変身！」

WINはカードデッキをVバックルに装填してリュウガに変身

ディザイド「ふっん、仮面ライダーリュウガか・・・面白い」

リュウガとディザイドは同時に走り出した

第48話 4年前の出来事（後書き）

｝キャラクター説明｝

仮面ライダーデイズайд：0がデイスайдライバーで変身する仮面ライダー。基本カラーは灰色。これはデイスайдライバーが未完成な状態で変身した姿である。武器はデイスайдライバー。必殺技はデイメンション・ヘル・ブレード。

第49話 W I N V S O

リュウガとディザイドは同時に走り出す

リュウガ「はああああ！」

ディザイドより先に攻撃態勢に入るリュウガはブラックドラグバイザーの上部カバーを開いてその中にカードを装填し
ソードベント！

ソードカードを使ってドラグセイバーを召喚した

リュウガ「フン！」

リュウガの攻撃をディザイドはディサイドライバーで防いだ

ディザイド「甘いんだな、この世界の幹部は」

リュウガ「な、なぜ俺が幹部とわかった？」

ディザイド「この世界では仮面ライダーが幹部になると決まっているんだってな・・・少し調べさせてもらったよ・・・闇世界の幹部
WIN」

リュウガ「お前、0と言ったな・・・何者だ？」

リュウガの問いにディザイドは

ディザイド「俺は大ショッカーの幹部だ」

ディザイドはリュウガの胸を蹴る

リュウガ「大ショッカー・・・だと」

ディザイド「そう・・・そして俺はここから始まる」

ディザイドはディサイドライバーのカード挿入口に謎のカードを装填し

カイジンライド・デイスパイダー！

ディザイドは謎のカードを使ってモンスターを召喚した

リュウガ「デイスパイダー！？まさか奴の武器はモンスターを召喚できるのか？」

ディザイド「モンスターだけじゃない、ライダーや怪人だって召喚できる」

デイスパイダーは口から糸を吐き出し、その糸はリュウガの体に絡みついた

第49話 W I N V S 0（後書き）

（用語説明）

大ショッカー：各世界の仮面ライダー達が戦ってきた悪の組織が大団結して結成された巨大な秘密結社。

カイジンライド・デイスパイダー：今話でディザイドが召喚したモンスター。

第50話 WINの最後

デイスパイダーの口から糸が吐き出され、リュウガの体に絡みつく

リュウガ「くっ……こんな糸、俺の剣で斬ってやる！」

リュウガはデイスパイダーの糸をドラグセイバーで斬る

リュウガ「そんな糸で俺を捕まえようなんて甘いぜ……それとコレで消えろ」

ブラックドラグバイザーの上部カバーを開いてその中にカードを装填し

アドベント！

契約モンスターカードを使ってドラグブラッカーを召喚した

ドラグブラッカー「ガアアアア！」

ドラグブラッカーはデイスパイダーに向かって口から炎を放つ

デイスパイダー「……………！？」

デイスパイダーはドラグブラッカーの放った炎に当たった瞬間、全身が石化する

リュウガ「終わりだ」

ドラグブラッカー「ガアアアア！」

ドラグブラッカーは石化したデイスパイダーに再び炎を放ち、粉碎

した

ディザイド「デイスパイダーを倒したか・・・だがコレならどうだ」

ディザイドはディサイドライバーのカード挿入口に謎のカードを装填し

カイジンライド・メ・ガルメ・レ

ディザイドは謎のカードを使ってグロンギを召喚する

メ・ガルメ・レ「ギダバサグラセダ・メ・ガルメ・レ・ザ」

日本語では『舌から生まれたメ・ガルメ・レだ』と言っている、そして姿を消した

リュウガ「消えただと！？・・・隠れてないで出てこい！」
メ・ガルメ・レ「俺はココだ」

リュウガはガルメの声がした後ろを振り向いたとき、カードデッキを抜き取られて変身が解除される

WIN「何！俺のカードデッキが」
ディザイド「死ね」

ディザイドはディサイドライバーでWINを斬り殺す

WIN「そ・・・んな」

WINは、その場に血を流して倒れこんだ

0「はい、終わり」

．．．．．現在．．．．．

WIN「俺は殺された、だが俺は復活したのだNEVERとして．．
．死神として」

アーク「そんなことがあったのか．．だが0は私が倒した．．
もうお前が奴の味方をしなくても」

？ ？ ？「まだ倒されてないぜ」

皆が知っている声が聞こえて、顔を声がした方へと向ける

0「俺もNEVERとして復活したからな」

そしてアークと幹部たちは．．．．驚いた

第50話 WINの最後（後書き）

～キャラクター説明～

ドラグブラッカー：リュウガの黒い龍型の契約モンスター。口から放つ炎には相手を石化させる効果がある。

～用語説明～

カイジンライド・メ・ガルメ・レ：今話でディザイドが召喚したグロンギ。

第51話 自由と元暗殺部隊の嘉羅弥

アークと幹部たちは驚いた・・・何故なら・・・死んだはずの人物が生きているからだ

アーク「お前は・・・・・・・・0」

0「久しぶりだな・・・キング・・・それに幹部の皆さん」

幹部たちはアークを護る態勢に入る

アーク「何故だ・・・何故お前が生きている？あるとき私が貴様を」
0「確かにあるとき、俺は死んだ・・・だが奇跡的に身体は無事だったんですよ」

0はWINの立っている所まで歩きながら話す

0「しかも偶然、近くにはNEVERのリーダーがいましてね・・・俺は助けられました」

嘉羅弥「それでお前はWINを助けて、違う世界に・・・てか」

メガネがキラツと光らせた嘉羅弥が手に大きな本を持って現れた

0「お前は闇暗殺部隊の嘉羅弥!？」

嘉羅弥「いえ、俺はフリーダムの一人です」

アーク「フリーダム？嘉羅弥、お前は暗殺部隊所属のはず」

嘉羅弥「すいません、今まで黙ってた」

嘉羅弥はアークに頭を下げる

嘉羅弥「さて0、次は一体どこの世界に逃げるんだ？」

0「知りたいか？」

嘉羅弥「ああ、是非知りたい」

0は少し黙り、数秒して口を開いた

0「お前は現実に魔法少女がいると思うか？」

嘉羅弥「何？」

0「俺たちが今から行く世界は魔法少女の世界だ」

嘉羅弥「その世界に何かあるのか？」

0「魔女系グリードの存在がごく最近わかりましてね、名前はキュベえ」

キュウベえの名を言ったとき、0とWINの後ろに次元の扉が開く

0「じゃ俺たち行くから」

0とWINは次元の扉に入っていく・・・そのとき！

嘉羅弥「待て0！って・・・あっ」

嘉羅弥も0たちと一緒に次元の扉に入ってしまった

第51話 自由と元暗殺部隊の嘉羅弥（後書き）

～キャラクター説明～

嘉羅弥^{からや}：フリーダムのマジシャン・ライブラリアン。元闇暗殺部隊の一人で、零とは仲がいい。武器はいつも手に持っている魔法の本。

キユウベえ：魔女系グリードで「魔法の使者」を名乗る、マスコットのな外見の白い四足歩行動物。キユウベえ自身が選んだ人間にかその姿は視認できず、会話は特定の対象とのテレパシーで行う。基本的には無表情。少女の願いを1つ叶える代わりに魂をソウルジエム化し、魔法少女へと変化させる「契約」を交わす役目を持つ。その他、ソウルジエムの浄化に用いて穢れが溜まったグリーフシードを取り込んで処分したり、他の魔法少女のテレパシーを中継したりといった形で魔法少女に協力している。ちなみに特殊なグリードでコアメダルはない。

～用語説明～

闇暗殺部隊^{やみあんさつぶたい}：アーク直属で闇世界の裏部隊と言われている。メンバーは嘉羅弥の他にあと4人存在する。

第52話 魔法少女まどか マギカの世界、キュウベえの企み

とある竹林を駆け抜ける小動物

キュウベえ「……………」

後ろからは4体の怪人がこの小動物を追う

キュウベえ「もう少しでこの竹林から抜けられる……ん！」

小動物は突然止まった……4体の怪人に囲まれたのだ

ウヴァ「やつと追い詰めたぞ、キュウベえ！」

カザリ「さあ僕たちのメダルを返してよ」

メズール「キュウベえ、私たちにメダルを返した方が身のためよ」
ガメル「そうだ俺たちのメダルを返せ」

キュウベえは少し黙りこみ、数秒後口を開いた

キュウベえ「返すことはできないよ、このメダルは僕の計画に必要な道具だからね」

ウヴァ「一体何を企んでいる？」

メズール「私たちのメダルを使って何をしようとしてるの？」

キュウベえ「君たちが知る必要はないよ」

そのとき、カザリは思い出した

カザリ「もしかして、800年前に君が探してた魔法少女と関係があるのかな？」

ウヴァ「魔法少女？　そういえば探してたな、だがメダルを何に使う？？」

カザリ「簡単だよ、例えば1人の魔法少女に僕のコアメダルを3枚いれる」

ウヴァ「何！　そんなことをしたら」

カザリ「グリード化するよ、だって魔法少女は皆・・・欲望の塊らしいからね」

カザリの推理にキュウベえは

キュウベえ「よく知ってるね、カザリ・・・まさかあのレポートを見たの？」

メズール「レポート？」

カザリ「見たよ、君が800年前に使用してた研究室でね・・・そしてこんな事実も知った・・・君にはコアメダルがない」

ウヴァ「コアメダルがないグリードだと！？」

ウヴァはキュウベえに言った

ウヴァ「キュウベえ、お前は一体何者なんだ」

そしてキュウベえは答える

キュウベえ「僕は魔女系のグリード、キュウベえだよ」

キュウベえは隙をついて竹林を駆け抜けた、その先には街がある

ウヴァ「ちっ、逃げられたか」

カザリ「早く追った方がいいね」

4体のグリードは街に逃げたキュウベえを再び追う

第52話 魔法少女まどか マギカの世界、キュウべえの企み（後書き）

〈キャラクター説明〉

ウヴァ：昆虫系グリード。クワガタムシの顎状の角、カマキリの鎌や複眼、外骨格や節足的な突起に覆われたボディを持つ。バツタの如き跳躍力や昆虫特有の敏捷性を活かした強襲戦を行うほか、角から広範囲に緑の雷撃を放つ特殊能力を備える。完全復活すると、全身からさらに強力な雷撃を放つことが可能。

カザリ：猫系グリード。ライオンのような鬣と鋭い牙、トラを思わせる細身で攻撃的なフォルムを持つ。チーターの如き素早い身のこなしや瞬発力を活かして接近し、伸縮自在の鉤爪による白兵戦を行う他、風を自在に操る特殊能力を持ち巨大な黄色の竜巻を発生させる能力を備える。完全復活すると鬣を自由に操る能力を発揮、敵を捕縛するほか鬣1本1本からエネルギー弾を発射することが可能。

ガメル：重量系グリード。ゾウの牙と鼻、サイの角を備えた頭部と、ゴリラの腕とゾウの脚部を兼ねた厚い皮膚で覆われた屈強なボディを持つ。グリード随一の怪力と堅固で巨大な肉体、伸縮自在の強靱な鼻を武器とした肉弾戦を行うほか、地面を叩くことで周囲に激しい地震や銀色の衝撃波攻撃を発生させる特殊能力を備えている。また、完全体時には左腕に砲身のような物、右腕にサイの角のような突起が形成されている。重量系成長ヤミーとともに強い光に弱い。

メズール：水棲系グリードで、グリードの紅一点。シャチを模した頭部、首元にはウナギが巻きついたようになっており、タコを模したマント、タコの吸盤状の意匠がある脚部に加え、全体的に流線的なフォルムが目立つ。マントは完全体となるとウナギの紋様が浮か

び、鞭のように変化させて攻撃にも転用可能。身体の柔軟性を活かした軽い身のこなしで相手を翻弄する戦法を得意とする。完全復活すれば全身を液化化することが可能となり、さらなる三次元的な戦闘が可能となる。水を自在に操る特殊能力を備え、周囲から青の水を操作し高圧水流とすることで標的を攻撃し調節しだいでは切断攻撃も可能とする。水棲系ヤミーとともに高熱に弱い。

〈用語説明〉

魔法少女まどか まほうしょうじょ まどか マギカの世界：願いを叶えた代償として「魔法少女」となり、人知れず人類の敵と戦うことになった少女たちに降りかかる過酷な運命の世界。

竹林 ちくりん：竹の群がり生えている所。

グリード：個体ごとに9枚のコアメダルを核、大量のセルメダルを細胞として構成された、人間の「欲望」を糧に力を増大させる生命体。800年前に10枚作られたコアから1枚を抜き取り、9という「欠けた」数字にした結果「足りないが故に満たしたい」という欲望が生まれ、その欲望が進化して自律意志を持ちメダルを肉体として誕生した。

コアメダル：金色の基盤に、それぞれの属性の配色（鳥系 赤・昆虫系 緑・猫系 黄・重量系 銀・水棲系 青・恐竜系 紫・爬虫類系 橙）を持つメダル。7種類のカテゴリーに分類され、カテゴリーごとに10枚のコアメダルが作られた。生物のパワーがより大きく封じられたものであり、基本的に増殖したり消滅することはないが、恐竜系コアによる干渉によって破壊することが可能となる。この10枚から1枚を抜き取り、9枚という「欠けた」数字にしたことで、「足りないが故に満たしたい」という欲望

が誕生・増幅、それらがグリードの元となっている。グリードに
つては身体の核に当たるため、彼らはオーズの持つコアを執拗に狙
っている。

第53話 グリッド達に襲いかかるヤミー

キウウベえを見失って数分が経ち、グリッドたちは竹林から群馬県見滝原市に出た

ウヴァ「ucci、見失ったか！」

カザリ「絶対にこの街にいる筈だよ」

ガメル「あいつ捕まえて、メダルを取り戻す」

メズール「手分けして探しましょ」

4体のグリッドが散らばろうとした・・・そのとき

クワガタヤミー「おい、コイツらが俺たちの元主人か？」

ライオンヤミー「そうらしいよ」

サイヤミー「弱そうだな」

鯨ヤミー「そんな事を言っちゃ可哀そうよ」

グリッド達の前には謎のヤミー達が立っている

ウヴァ「何だお前等は？」

クワガタヤミー「俺たちはお前等のコアメダルから誕生したヤミーだ」

ライオンヤミー「目的はもちろん・・・君たちグリッドの抹殺さ」

カザリ「・・・僕たちの抹殺・・・やってみなよ！」

カザリがヤミー達に向かって走り出したと同時にウヴァやメズールにガメルも走り出す

鯨ヤミー「パーティーの始まりよ！」

サイヤミー「御馳走タイム」

クワガタヤミー「どっちが強いのかハッキリさせてやる」

ヤミー達もグリード達に向かって走り出し

グリードVSヤミーの戦いが始まった

キュウベえ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

隠れて様子を見る、魔女系グリードのキュウベえ

キュウベえ「ん？」

キュウベえは後ろから近づく何者かに気付いた

キュウベえ「久しぶりだね・・・七星座の事件いらかな？Ryo」
Ryo「・・・・・・・・・・・・・・・・」

自由を求める集団の一人、Ryo登場！

第53話 グリッド達に襲いかかるヤミー（後書き）

〈キャラクター説明〉

クワガタヤミー：キュウベえが作り出した昆虫系ヤミー。クワガタ・コアと同様で広範囲に雷撃を放つことが可能。

ライオンヤミー：キュウベえが作り出した猫系ヤミー。ライオン・コアと同様で視覚外の地形を正確に把握可能な程聴力に優れ、暗所でも物体を視認可能。また、強力な光を放って敵の目を眩ませる。

鯨^{シヤチ}ヤミー：キュウベえが作り出した水棲系ヤミー。シヤチ・コアと同様で水中潜行能力・感知能力に優れ、無呼吸で潜水が可能。あと水流を放つことも可能。

サイヤミー：キュウベえが作り出した重量系ヤミー。サイ・コアと同様で頭突きによる刺突攻撃が可能。

第54話 七星座の仇（前書き）

皆様、あけましておめでとございます！

第54話 七星座の仇

キュウベえは後ろから近づく何者かの気配に気付く

キュウベえ「久しぶりだね・・・七星座の事件いらかな？Ryo」

Ryo「そうだな・・・だが俺はずっとお前を探していた」

そうRyoは自由集団に入ってからキュウベえをずっと探していたのだ

キュウベえ「僕を探していた、一体どうして？」

Ryo「七星座事件で倒れていた者達の仇を討つ為だ」

キュウベえ「倒れていた者達？違うな、彼らは必ず倒される運命だった・・・何故なら七星座は全世界の脅威に値するからね」

Ryo「全世界の脅威・・・だと・・・脅威という存在にしたのは貴様だろ」

Ryoの意味不明の言葉にキュウベえは何を言っているか分からないでいた

キュウベえ「それも違うよ、彼らは最初から脅威の存在だった」

Ryo「違う、脅威の存在にしたのは貴様だキュウベえ！お前が惑星セブンスターに行かなければ彼らは宇宙の悪魔にならなかった筈だろ！」

キュウベえ「うう・・・」

キュウベえは何も言えなかった・・・だがRyoは腰に手を伸ばし剣を抜く

Ryo「貴様のやった事は罪だ・・・だから俺が貴様の命をここで断ち斬る！」

剣の刃はキュウベえに向けられる

Ryo「キュウベえ、覚悟しろ」

キュウベえ「僕を殺すって言うの？やってみなよ」

Ryoは仲間の仇を討つことが出来るのか！？

第54話 七星座の仇（後書き）

（用語説明）

惑星セブンスター：七星座の生まれ故郷の平和な星だったが、キュベエが起こした計画により消滅した。

第55話 上空から落下してくる者

Ryoは剣の刃をキュウベえに向けた

Ryo「キュウベえ、覚悟しろ」

キュウベえ「僕を殺すっていうの？やってみなよ」

キュウベえは構えた、その時！上空から何かが落下してくる

Ryo「あ、あれは！」

上空から物凄い勢いで落下してRyoとキュウベえのところに着地

嘉羅弥「着地成功だな、だがここは一体？」

Ryo「嘉羅弥・・・お前どうしてここに？」

空から降ってきたのは人、しかもRyoと同じ自由集団の一人だった

嘉羅弥「お前こそどうして・・・うん？」

嘉羅弥はキュウベえがいることに気付く

嘉羅弥「お前は七星座のときにいた妖精」

キュウベえ「そういえば、君にはまだ僕の自己紹介をしていなかったね・・・僕は魔女系グリードのキュウベえ・・・宜しくね」

魔女系・・・グリード・・・嘉羅弥は0が言っていた事を
思い出す

0「お前は現実に魔法少女がいると思うか？」

嘉羅弥「何？」

0「俺たちが今から行く世界は魔法少女の世界だ」

嘉羅弥「その世界に何かあるのか？」

0「魔女系グリードの存在がごく最近わかりましてね、名前はキュウベえ」

魔女系グリード、キュウベえ……………

今思えば聞いたことがある嘉羅弥

嘉羅弥「そういえばコイツ、世界を越える力を持っているグリードと聞く」

Ryo「そう世界や宇宙を越え、自分の欲望を満たす為に何でも破壊する怪物」

キュウベえはニツコリと微笑んだ

第56話 一刀に渡された謎の匣

北郷一刀「くそっ！」

広間の壁を殴る鈍い音が響く

北郷一刀「何で関係の人達が死ななくちゃいけないんだよ」

クロスと幻騎士、強襲部隊が現実という【天の国】へ帰ってから数秒して10年前の姿だった一刀は元の姿へと戻った

無魁双壺「これがミルフィオーレファミリー……いや、NE VERのやり方だ」

張飛「でも酷過ぎるのだ！お兄ちゃんの友達を殺すなんて」

関羽「これからどうなさいますか？ご主人様」

北郷一刀「……………」

一刀は少し悩んだ……そして近くの近くに置いてあった匣とリングに気付く

北郷一刀「コレは？」

黄忠「指輪みたいな方は未来のご主人様が置いていった物です」

北郷一刀「この匣は？」

無魁双壺「橙の匣はお前のだ……だが、無色の匣は……………」

双壺が言おうとした時に馬超が……………

馬超「クロスっていう奴がご主人様にあげるって言って置いていったんだよ」

北郷一刀「へえ、とにかく開けてみよ（確か覚悟を炎にだっけ）」

一刀は大空の無双リングを指にはめ、炎を灯して無色の匣に大空の炎を注ぎ

そして匣に少しずつ崩れていく・・・最後は匣は粉々になり中からは・・・

北郷一刀「手紙に・・・また匣？」

手紙は分かるが粉々になった匣の中には、もう一つ匣が入っていた

趙雲「主よ、まずは手紙の方を読んでみましょう」

北郷一刀「ああ、そうだな」

そういつて手紙を開いて内容を確認する

第57話 次元転送マシン

あれから数分、一刀たちは手紙の内容を確認した

北郷一刀「まさか・・・こんな事が」

一刀の顔は真っ青になった

関羽「ご主人様？」

北郷一刀「だが本当にこんな事が起きるのか？」

無魁双壺「起きるんじゃないくて、起こすんだよ連中は」

手紙にはこう書いてあった

これを読んでいるという事は既にこの手紙は北郷殿の手にあると思うので詳細を説明する。不死身の傭兵集団、NEVERがTSガイアメモリを使った計画を実行するというのをある情報網を通じて分かった。

俺がNEVERの計画を知ってから数日経ってから、北郷殿に相談した結果コチラ側は連合軍を結成してNEVERの計画を失敗させる計画を実行。だがNEVERも連合軍を作って我々の連合軍に對抗した。

敵の連合軍と我々の力では脅威な程の力を持ち、我々の連合軍を圧倒する。そして俺は北郷殿に呼ばれてNEVER連合の一つであるミルフィオーレファミリーにスパイとして潜入しNEVERの目的を調査した結果重要な事実が判明した。

計画、この計画にはAからZとのTSガイアメモリを27本無ければ実行できない。

だが連中が全てのTSガイアメモリを揃えた時、世界は破滅に進んでしまう。

だから頼む俺たち連合軍に力を貸してくれ！

無慄双吉「それでどうする、連合軍に力を貸すのか？」

北郷一刀「うーん……………」

関羽「それは危険過ぎます、ご主人様！例え連合軍でも何があるかわかりません！！」

無慄双吉「仮にこの手紙をお前に渡したクロスつてのは味方が判らない、しかも奴はミルフィオーレの六弔花だぞ！」

確かにクロスはミルフィオーレファミリーで雲の六弔花をやっている

北郷一刀「（だけどNEVERを止めないと世界は破滅の一步を辿る）連合軍に力を貸す！」

関羽「ご主人様！？」

趙雲「主よ、一番下に続きが書いてありますぞ」

・ 趙雲が隣から手紙を覗いて言った、そして手紙の一番下には…………

もし力を貸してくれるのなら、手紙といっしょにこの匣を使うといい。

この匣は全世界へと繋がる【次元転送マシン】が入っている。使い方は簡単、ただ匣を開匣し行きたいところ言葉に発して言えば元の世界にだって行ける。それと北郷殿の率いる守護者も来てくれれば助かる。

でわ集合場所は米花町にある連合軍本拠地にて使いの者を向かわせる。

北郷一刀「……次元転送マシンって……そんな漫画じゃないんだから」

そう言っで一刀は匣を開匣して、中から次元転送マシン が出てきた

馬超「これが次元転送ましーんってやつか？」

北郷一刀「多分………それじゃあ、米花町にある連合軍本拠地に俺たちを連れて行ってくれ！」

次元転送マシン に一刀は叫ぶ、そして数秒後に黒い空間が生まれ

一刀と守護者たち「うわーーーー！！！！！！！！！！」

広間にいた一刀と守護者たちは空間に吸い込まれて行った！

第57話 次元転送マシン（後書き）

～用語説明～

次元転送マシン^{じげんでんそう}：次元の扉や穴と同様に世界を移動できるが、この装置は連合軍が作製した匣型で今は試作品の段階のようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6202t/>

仮面ライダーディケイド ～次元を超えた戦い～

2012年1月10日15時51分発行